

跡見学園短期大学
図書館 架蔵

小倉百人一首類書目録稿

伊藤 嘉夫
篠崎 和子

はしがき

昨昭和四十七年度本学紀要に本学図書館架蔵の「異種百人一首目録」を発表したが、本学図書館では、この数年来、百人一首及其の類書、関係書の集書につとめて来た、その成果の一端であった。いま、茲に示す「小倉百人一首類書目録稿」は、集書が六百を超えた時点で、一応のまとめをしたものである。

小倉百人一首は、はじめ藤原定家の撰になりそののち修正があつて、いまの百人一首になったものとされ、その成立や伝来についての秀れた研究が多くの学者によってなされて来た。

古来、「秀歌之躰大略」「詠歌大概」と共に「小倉百人一首」は、三部抄として歌壇に重じられたものであつたが、百人の各名歌一首づつという手軽さと、和歌への民衆のあこがれといったものが、民間にもはやされるようになったのは、江戸のはじめ頃であつたらうか。

はじめ百人一首が、宇都宮入道の請を容れてその障子に貼るための色紙にしたため、歌人の画像とはりまぜられたと云われる為もあり、古来、歌人像に歌が書き添えられた、絵巻、三十

小倉百人一首

六歌仙絵のように、百人一首に絵像の添うようになつたのも江戸のはじめ、印刷の技術が普及するようになって、いよいよ盛行を見るに至つたのであつた。

本館架蔵の小倉百人一首及びその関係書の中には、百人一首の本文だけの書写本や、習字の手本として、書かれ刷られたと思われるものがあり、浮世絵師による歌人画像もある。これらは、木版で行われた、童蒙、読み本のたぐいとなつて、ひろく民衆の中にとけこんで行つたものである。文学の秀れた撰集が、民衆の中に深くひろく沁みこんで行つた「小倉百人一首」は、百人一首といえは直ちに「小倉百人一首」と云えるほど、普及したものである。

うんすんかるたや、日本古来の歌貝などの影響と刺激によつて、歌がるた、すなわち百人一首歌かるたが生れ、いよいよ百人一首は民衆の中にとけこんでいったのである。

高い文学作品が、その姿のままに民衆の中に普及し、昭和の現代においても、日本人の常識の中に「百人一首」はある。成立からは六百年をこえ、作品は古いものは万葉にさかのぼり、

新しいものでも、後鳥羽院、順徳院、定家と云つた人々の歌が、手のとどくように親しまれてゐることは、正に世界のどの国にもないことであらう。

本目録に集録した、本学図書館架蔵のものだけでなく、室町から昭和の現代に及んでおり、書の形も、冊子になつてゐるものが主であるが、卷子本、折本、一枚のみじん画から、錦絵、かるたに及んでおり、江戸時代における女訓ものには、百人一首は欠くことの出来ない、教養の要素であつたかに見えた。これらについても、まだまだ多くの書が流布したものと見える。

学書としての百人一首は、注釈のかたちで、多くの国文学者が手がけて居り、幽斎、季吟、契沖、真淵、大平、雅嘉、是香、景樹と云つた人々があり、堂上歌人の間にも多くの講筵などが行われたのであつた。明治以後、佐佐木信綱の註釈をはじめとして、一々挙げるにいとまのないほどである。

それにしても六百の集書は、一応の数ではあるが、これからも集書に心がけて行く考えであるから、他日いつの日か、千種に満ちたころ

に、補正した増補目録を出したい。

集書については、法人及び短期大学当局の理解と支援があったことは最も倅であった。図書館においては主として篠崎が集書と目録作成にあたり、伊藤が助言と校閲を行った。

図書館事務の繁雑の間にあつて、古書肆の目録を探り、時に古書展に足をはこび、あるいは一冊の本を競って、得た喜びや、逸した無念さなどあつて、一冊一冊に思い出のあるものばかりである。

目録作成についても、同一書名で内容がちがったり、異つた書名で内容の同じであつたりするものがあり、手ずれで書名が不明になつてゐるものさえあるのを、匆忙の間に原稿にすることはやさしいわざでなかつた。

目録は、その書の現象面を出来るだけくわしくし、外形、本文等の体裁をのべたつもりである。抄などの内容については多くはふれなかつた。学者の考勘にまちだと思つてのことである。思いちがいなどあらうと思われるので大方の御叱正を御願する次第である。(伊藤記)

凡例

一、目録の排列

- 1 歌(小倉百人一首本文のみ)
- 2 歌并肖像(図を加えたものを含む)
- 3 注釈書(歌話等を含む)
- 4 頭注書(歌意略伝等)
- 5 頭書(歌に関係ない頭書あるもの)

6 合冊書(女訓書等と合冊するもの)
7 雑(1~6に入らぬもの)

A、図書形式

B、かるた

C、かるた形式のもの

D、みじん絵

E、双六

F、錦絵

G、目録・参考文献

8 異種百人一首追加(先に発表した異種百人一首架蔵目録以後 架蔵に入ったもの)

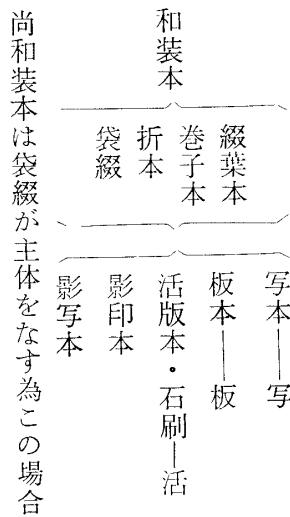
9 その他

各項目ごとに成立年代順に排列し、番号を付けた。同一の写本・板本はその書歴による。

一、書名は題箋、内題、見返し、打付書、表紙、序文、参考書誌等によつた。他書によるものは出所を略号を以て示した。

不明のものは「」に入れ、別名あるものはその旨を記した。

一、書物の体裁 書名の下に左の如く表示し、原寸はcmで示した。



は特に袋写・袋板・袋活とはせず、写・板・活とした。洋装活字本は洋とした。

洋装本——活字本——洋
影印本・謄写——洋影印本・洋謄写

一、「著者・撰者・編者」は明らかかなもののみを出し、説あるものは「」に入れた。

一、「序・奥書・跋」の日附署名は架蔵本通りにした。

一、「刊年・等」刊年は明らかかなものを記し西歴を入れ、他を未詳とした。他書によるものはこれを記し、出所を明らかにした。刊行書肆多数あるものは最後の書肆のみをあげ他を略した。丁数は柱の丁付と異なる場合には実数を以て示した。

一、「内容」は略記した。但し3注釈書の中活字本は省略した。

一、「備考」序、跋等にある必要事項をあげ、翻刻あるものは㊦参考すべきものは㊧と出した。

一、蠹蝕などにより判読不能の箇所は□にした。

一、本文中の参考文献は次の略号で示した。

- 国書総目録
- 岩波書店 (国総)
- 大日本歌書綜覧
- 福井久蔵 (福井)
- 百人一首類聚目録
- 岸本稻蔵 (岸本)
- 小倉百人一首類書目録
- 宮武外骨 (宮武)
- 百人一首古注釈の研究
- 田中宗作 (田中)
- 増訂慶長以来書賈集覧
- 井上和雄 (書賈)

大江文庫本目録東京家政学院大学図書館↓

(大江)

百人一首類書目録解説稿(東洋大学文学部紀要)加賀文庫目録(東京都立日比谷図書館)望月文庫目録(東京学芸大学)

本稿は伊藤嘉夫教授のご指導のもとに作成し校閲を仰いだものである。なお、小野忠重先生田中初夫先生の御教示を仰ぎ、本学における坂田勝、中島悦次、飯島総葉、田尻嘉信諸先生の恩顧に負うところが多い。つつしんで厚く御礼を申し上げます(篠崎記)

1 歌(小倉百人一首本文のみ)

一 御所本百人秀歌 洋 影印本一冊 二四×二七

〔撰者〕京極黄門〔編者〕久曾神昇〔刊年〕等 昭和四十六年(一九七二)十二月二十日 東京 笠間書院 三十五頁(笠間影印 双刊十一)

〔内容〕巻頭「百人秀歌嵯峨山庄色紙形」天智天皇御製より入道前太政大臣まで百人の歌各一首 奥書「上古以来歌仙之一首 随思出書敷 出之名誉三人秀逸之詠皆漏之用 捨在心自他不可有傍難歟」後に金葉和調がある

〔備考〕別に解題あり これによれば「書陵部本は縦二四・五糎(八寸一分)横一七糎(五寸七分)ほどの綴葉装一帖……紺表紙の中央に打付書で「百人秀歌京極黄門撰」と朱書してある……書写に関する識語は見

小倉百人一首

えないが書風などよりして 近世初期(寛文頃)のものとして推定せられてゐる」とある

二 百人秀歌(日本歌学大系)

〔撰者〕藤原定家〔編者〕佐佐木信綱〔刊年・等〕昭和三十八年(一九六三)六月二十五日 東京 風間書房 日本歌学大系第三卷所収

〔備考〕本書巻首に解題あり

三 百人一首 洋影印本一冊 三三・九×二六・四

〔筆者〕堯孝〔編者〕樋口芳麻呂〔刊年・等〕昭和四十六年(一九七二)十二月二十日 東京 笠間書院 七十三頁(笠間影印 双刊十二)

〔内容〕詠歌大概(巻頭より三十二頁)百人一首(三十三頁より七十二頁)奥書「此一冊凌老眼馳禿筆早文安第二季冬中旬飛雪点閑窓手不亀之期也 和歌所老拙法印 花押」後に「月やあらぬはるやむかしの春ならぬわかみひとつはもとのみにして」の一首がある

〔備考〕別に解題あり これによれば「本書は宮内庁書陵部蔵 文安二年(一四四五)冬堯孝法印筆の斐紙綴葉装一冊」とある

四 百人一首 綴写一帖 二五・九×三三・一

〔筆者〕東常縁(二四〇一―一四九四)〔筆年〕未詳〔題箋〕欠〔内題〕百人一首〔内容〕小倉百首 一面八行 墨付十九枚 料紙は楮紙 表紙に金泥を散らす 見返し銀の野毛と金箔を散らす

〔備考〕「自讃哥 百人一首 東野州筆」とある桐箱入「東下野守常縁筆 百人一首 秋の田の 自讃哥 代金拾枚 享保十五年(一七三〇)初春中旬 了延印」とある極付がある 自讃哥二十三丁と合綴

五 百人一首 綴写 一帖 三三・五×二七・六

〔筆者〕肖柏(一四四三―一五二七)〔筆年〕室町〔題箋〕百人一首〔内題〕百人一首〔奥書〕従久継所望書之 夢老花押

〔内容〕小倉百首 一面九行 墨付十三枚 〔備考〕表紙に花蝶等の模様を書く 見返しに金銀泥を以て牛と笠 後見返しに月と人物を書く 題箋は金銀泥と砂子をおく 遊び紙二枚 料紙は厚手の楮紙 極札に「久我殿庶流牡丹花 百人一首 外題烏丸殿光広卿」とある 桐箱入り 箱の表に「百人一首 牡丹花筆御上方表紙可被傳付」と書かれてある

六 小倉山庄色紙和哥 綴写 一帖 三〇・一×二六・七

〔筆者〕未詳〔筆年〕室町写か〔題箋〕欠〔内題〕小倉山庄色紙和哥

〔内容〕小倉百首 一面十行 墨付十五枚 (但し全三十七丁) 〔備考〕表紙は綾織布表紙 料紙は鳥の子紙 詠歌大概・秀哥之大略・未来記と合綴 映入

七 百人一首 綴写 一帖 三三・八×二五・七

〔筆者・筆年〕未詳〔題箋〕欠〔内題〕欠

〔内容〕小倉百首 一面十行 墨付十一枚

二七

〔備考〕 料紙は楮紙を用いる 表紙は古代裂 見返し金箔 「百人一首富小路殿資直卿」とある極札がある

八 百人一首 綴写 一帖 三五・九×六・三

〔筆者〕 里村紹巴 (一五二四—一六〇二)
〔筆年〕 室町末か 〔題箋〕 欠〔内題〕 百人一首

〔内容〕 小倉百首散らし書き 墨付五十枚
〔備考〕 表紙は水色地に金泥をもって中央丸枠に「百人一首」周囲に唐草模様を書く 上下には水色・黄・朱等の組紙に金泥を以て菊の花を書く 見返しは一面に銀箔を押す 料紙は楮紙を用いる 極札に「臨江齋紹巴 百人一首一冊 外題三條西公條公裏に秋の田乃四半本 戊辰七」とある 桐箱入

九 百人一首 洋 影印本一冊 三〇・九×五

〔編者〕 有吉保 犬養廉 橋本不美男〔刊年・等〕 昭和四十二年(一九六七)三月十日 東京 新典社 七十八頁 大学シリーズ2

〔備考〕 底本は酒井家旧蔵の兼載筆卷子一卷「慶長十一年曆初冬上澣 是齋兼如(花押)」の奥書がある(解説)

一〇 百人一首 写 一冊 三三・三×五

〔筆者〕 未詳〔題箋〕 百人一首〔内題〕 欠
〔奥書〕 此本是ヲ写ス 寛永十二年(一六三五) 送春下旬

〔内容〕 小倉百首 一面十二行 墨付十三

丁 所々に読み仮名を付ける

〔備考〕 表紙は唐草模様のある布表紙 見返し銀箔布目紙 料紙は楮紙に裏打がしてある

二 百人一首 小倉山荘色紙和歌(日本歌学大系)

〔撰者〕 藤原定家〔編者〕 佐佐木信綱〔刊年・等〕 昭和三十八年(一九六三)六月二十五日 東京 風間書房 日本歌学大系第三卷所収

〔備考〕 本書巻首に解題あり

三 百人一首 卷子本 一軸(複製) 三六〇×三三

〔筆者〕 本阿弥光悦〔画〕 俵屋宗達
〔内容〕 宗達蓮花下絵に書かれた小倉百首 但し二一—二六 三三—四六 四八—五〇 七四—八〇 八二 八六—九二 九五 九七—一〇〇の歌を欠く五十六首

三 本阿弥光悦百人一首 袋 影印本 一冊 三六×六・六

〔編者〕 下中弥三郎〔題箋〕 本阿弥光悦百人一首〔刊年・等〕 昭和九年(一九三四)十一月廿四日 東京 平凡社 二十四頁

〔内容〕 本阿弥光悦の書く小倉百首 断簡を集めた 天智天皇より元良親王 中納言兼輔より春道列樹 藤原実方朝臣 藤原道

信朝臣 二十八人の歌 習字用手本

〔備考〕 奥付に「百人一首 和様手本大成第四卷」とある

四 百人一首 綴写 一帖 三三・四×七・三

〔筆者・筆年〕 未詳〔題箋〕 欠(表紙に打付書で「百人一首」とある)

〔内容〕 小倉百首 一面九行 墨付十七枚

五 百人一首 綴写 一帖 三五×七・五

〔筆者〕 未詳〔筆年〕 室町末期写か〔題箋〕 欠〔内題〕 欠
〔内容〕 小倉百首 一面六行 墨付二十五枚

〔備考〕 筋入りの料紙を用いる 表紙に「ひやくに」と書かれてある

六 百人一首 綴写 一帖 三五・四×六・五

〔筆者〕 下間仲孝〔筆年〕 未詳〔題箋〕 欠
〔内題〕 百人一首
〔内容〕 小倉百首 一面六行 墨付二十六枚
〔備考〕 表紙に打付書で「百人一首 下間仲孝書」とある 料紙は鳥の子紙 共表紙

七 百人一首 板 一冊 三七×六・一

〔筆者〕 松花堂昭乗〔題箋〕 百人一首 八幡山式部卿真跡〔奥書〕 右之百人一首者八幡山松花堂之筆令板行者也 承應二巳(一六五三) 初秋〔刊年・等〕 未詳 五十一丁 他二丁

〔内容〕 小倉百首 一面一首

〔備考〕 朱・墨書入多し 巻末に旧蔵者の自筆を以て出典その他の考證をのせる

八 百人一首 卷子本 写 五軸 三六×五

〔筆者〕 佐佐木志津摩(一六一九—一六九五)〔筆年〕 未詳

〔内容〕 小倉百首 淡墨を以て書く 料紙は唐紙に裏打をする 書道手本用に書かれたものか 桐箱入

〔備考〕 箱の上書「佐佐木志津摩真蹟 百人一首五軸 附 寺井養拙斎添状」とあるが添状はない

元 小倉山荘色紙形 綴写 一帖 三三・二六・五

〔筆者〕 伊達吉村〔題箋〕 百人一首〔内題〕 小倉山荘色紙形〔奥書〕 此一冊以後水尾院勅読之御本得燕日之閑暇書写之加一校早元祿十七歳甲申（一七〇四）姑洗中辭 左少将吉花押

〔内容〕 小倉百首 一面七行 墨付二十二枚

〔備考〕 地紋入り布表紙 題箋には菊水の模模并金泥をあしらう 見返しには野毛と金泥波模様 料紙は鳥の子紙を用いる 帙入

三 百人一首 綴写 一帖 二七・三三・七・五

〔筆者〕 〔筆年〕 未詳〔題箋〕 欠〔内題〕 百人一首

〔内容〕 小倉百首 一面十行 墨付十三枚（欠本）

〔備考〕 表紙は唐紙 但し裏表紙を欠く 見返しに金泥を以て山・草木を書く 本文料紙は黄・茶・白の鳥の子紙を用いる 詠歌之大概・秀歌之躰大略・未來記・雨中吟十七首と合綴

三 小倉山荘色紙和詞 写 一冊 一五・八・七・三

小倉百人一首

〔筆者〕 未詳〔題箋〕 欠〔内題〕 小倉山荘色紙和詞〔筆年〕 未詳

〔内容〕 小倉百首 一面十一行 墨付十四丁〔備考〕 表紙には雲母をひき 菊の花模様をつける 料紙は布目鳥の子紙に金銀泥で模様を書く

三 小倉山荘色紙形百人一首 綴写 一帖 二六・五・二七・八

〔著者〕 未詳〔筆年〕 江戸中期写か〔題箋〕 百人一首〔内題〕 小倉山荘色紙形百人一首〔奥書〕 此百人一首依有人懇請不得拒辞夜坐之頃於灯下倉卒鴉抹之字昏不整其醜倍常益不恥他見者歟 藤 花押

〔内容〕 小倉百首 一面八行 墨付十九枚〔備考〕 表紙は古代裂 題箋には細かい金泥をあしらう 見返しは金・銀箔及びのげをおす 料紙は鳥の子紙に銀泥・緑色を用いた唐紙模様がある

三 百人一首 写 一冊 三三・三三・六

〔筆者〕 未詳〔筆年〕 江戸中期写か〔題箋〕 欠〔扉〕 百人一首〔扉裏〕 百人一首 山田家

〔内容〕 小倉百首 一面六行 墨付二十五丁 卷末に「百人一首終り 山田家（この裏に）元年中 山田式部藏」とある

〔備考〕 料紙は雁皮紙

〔百人一首〕 綴写 一帖 一五・六・七 未詳〔題箋〕 欠〔内題〕 欠

〔内容〕 小倉百首 一面一首散らし書き 墨付四十八枚

〔備考〕 卷末に「すゑの露」の歌并に三十六歌仙の名前をあげ初句をのせる 表紙に雲母を用い模様を付け 見返しには金銀泥を散りばめる 料紙は鳥の子紙 極札あり

三 百人一首 卷子本 写 一軸 九六・八・三・八

〔筆者〕 未詳〔筆年〕 江戸中期写か〔内容〕 小倉百首 袋綴写本を巻物に改装したもの 三部抄及び未來記 雨中吟を共におさめる

〔備考〕 漆塗桐箱入

三 百人一首 卷子本 写 一軸 六三・五・三・八

〔筆者〕 未詳〔奥書〕 「右色紙形小倉山之百首大猷院相国□様依悃望中院内府通村献上之早雖家傳之秘支女形相傳之者也 青蓮院二品親王尊純・此一軸大村氏所持借用之書寫早 延寶四年九月日 右小倉山百人一首一軸者青蓮院尊純法親王以家傳之筆跡中院通村寫之早今亦再云寫之者也」

〔内容〕 小倉百首

三 小倉山荘色紙和歌 綴写 一帖 二二・三・六・三

〔筆者〕 權中納言藤兼親〔題箋〕 欠〔内題〕 小倉山荘色紙和歌

〔内容〕 小倉百首 一面八行 墨付十九枚〔備考〕 模様入り布表紙 見返し布目紙 料紙は鳥の子紙

二九

欠〔内題〕百人一首之和冊

〔内容〕小倉百首 一面九行 墨付十七枚

〔備考〕料紙は鳥の子紙 共表紙

元〔百人一首〕写一冊（仮綴）〔三・七×七・八

〔筆者・筆年〕未詳

〔内容〕小倉百首 墨付十四丁 一面概ね十二行

〔備考〕表紙欠 仮表紙に「まん福百人」

卷末上部余白に「天保十三年寅（一八四二）

花押」の書入あり 料紙は鳥の子紙

三 百人一首 板 一冊 〔三・六×六・一

〔編著者〕未詳〔題箋〕百人一首〔刊年・

等〕安永五年庚申（一七七六）九月書 鳥

石辰花押 寛政十二年庚申（一八〇〇）冬

求板 浪華書林 河内屋太助 小刀屋六兵衛

〔内容〕小倉百首 一面一首 百牀散らし

書き 書道手本

三 小倉百首 板 一冊 〔三・三×六

〔書〕沢田東江（一七三二—一七九六）〔題

箋〕小倉百首〔見返し〕小倉百人一首 東

江先生書 東都書賈 青藜閣蔵〔奥書〕安

永六年（一七七七）二月二十五日書 源鱗

西玄玉刻 明阿弥陀佛校・荷田御風閣・源

うてな・安永五のとしはつ春 こままくら

高砂の浦人しるす〔刊年・等〕寛政七年

（一七九五）十二月購版 江戸書肆 須原

屋伊八 五十四丁

〔内容〕小倉百首を真字で書く

〔備考〕巻首より二十二丁才まで各頁名の

左に朱で翻字を書入れる

三 小倉百首 板 一冊 〔三×六

〔書〕〔題箋〕〔奥書〕〔内容〕三二に同じ

〔見返し〕欠〔刊年・等〕刊年未詳 江戸

青雲堂英文蔵 五十四丁

三 百人一首 写 一冊 〔三・三×九・六

〔筆者〕未詳〔筆年〕江戸中期写か〔題箋〕

百人一首〔内題〕百人一首

〔内容〕小倉百首 一面七行 墨付二十二丁

〔備考〕料紙は楮紙を用いる

三 〔百人一首〕袋影写本 一冊 〔三・四×九・四

〔筆者・筆年〕未詳〔題箋〕欠〔内題〕欠

〔内容〕小倉百首 一面三行 墨付五十丁

朱の書入あり 持統天皇 赤人など萬葉の

歌并に所々語意を書入れた

〔備考〕料紙は薄葉 表紙には唐紙模様か

ある 写したものとと思われる

三 百人一首和哥 綴写 一帖 〔三・二×二・五・九

〔筆者〕未詳〔筆年〕江戸中期写か〔内題〕

百人一首和哥

〔内容〕小倉百首 一面十行 墨付九枚

〔備考〕前表紙欠 袋綴を裏打して綴葉装

三 百人一首 綴写 一帖 〔三・三×一六・八

〔筆者〕未詳〔筆年〕未詳〔題箋〕欠（表

紙に打付書で「百人一首」とある）

〔内容〕小倉百首 一面九行 墨付十七枚

〔備考〕料紙は鳥の子布目紙に雲母をひく

三 小倉山荘色紙和哥 写 一冊（仮綴）

〔三・五×六・五

〔筆者・筆年〕未詳〔題箋〕欠〔内題〕小

倉山荘色紙和哥

〔内容〕小倉百首 一面十一行 墨付十四

丁 歌の前にその歌の勅撰集における詞書

を書き 歌右肩にその集名の略名を付けた

作者名の下に「天智天皇 釘名第一御子」

等と註記した

三 百人一首 板 一冊 〔三・五×六・四

〔編著者〕未詳〔題箋〕百人一首〔刊年・

等〕未詳 四十九丁

三 〔百人一首〕小倉百首 百牀散らし書き

〔内容〕小倉百首 写 二冊 〔三×七・七

〔筆者・筆年〕未詳〔題箋〕欠〔内題〕欠

〔内容〕小倉百首 見聞きに一首を書く

〔備考〕料紙は糊入紙を用いる

三 〔百人一首〕折写 一帖 〔三×七・九

〔筆者・筆年〕文化七龍舎庚午林鐘辰（一

八一〇）文盟書〔題箋・内題〕欠

〔内容〕小倉百首 料紙に金箔を散らし

金銀泥を以て山水草花を書いた豪華な色紙

型 各面毎に興る 一面一首

〔備考〕表紙紺地に雲形・亀甲形等織出し

模様のある布板表紙 四方金 帙には型お

三 百人一首 写 一冊 〔三・五×一六・八

〔筆者・筆年〕未詳〔題箋〕百人一首三十

六歌仙〔見返し〕三十六歌仙（一首つつを

丸型にのせる) [丁数] 五十丁

〔内容〕 小倉百首 一面一首 外側を墨内側に朱を以て枠をつける 百鉢散らし書

三 百人一首 板 一冊 三三×二五・一

〔筆者〕 卷菱湖(一八四三歿) [題箋] 百人一首卷菱湖書 全 [見返し] 百人一首

菱湖先生書 東都 安政堂梓 [跋] かのえねの十一月廿四日花房姓の子諱書 六十四

翁卷大任 [刊年・等] 東都書房 椀屋喜兵衛 椀屋伊三郎 五十一丁

〔内容〕 小倉百首 習字用手本

〔備考〕 卷末に「菱湖先生石摺綴本目錄 椀屋喜兵衛・菱湖先生用筆目錄 越後柏崎 宝雅堂製」あり

三 小倉百人一首 折板 一帖 三三×二三・三

〔内容〕 四二に同じ [題箋] 小倉百人一首 菱湖書 [刊年・等] 未詳

〔備考〕 布板表紙

四 小倉百人一首 折板 一帖 二五・七×三三・七

〔内容〕 四二に同じ [題箋] 欠 [刊年・等] 刊年未詳 翰香館上石

〔備考〕 板表紙

四 小倉山家風 板 一冊 三六×一九・九

〔著者〕 藤原(木門亭)保之 [題箋] 小倉山家風 [序] 自序・不誦真直意仰見者敢言

靈大人曾世一勇 門輩述 [跋] こはゆゑよしふかき秘典にして永く世々につたふるが

ために梓にもせしゆめくみだりにひさきあきなふにあらねばみん人その心した

小倉百人一首

まへといふ [刊年・等] 天保六年乙未(一八三五)冬官刻 紀藩家蔵 五十三丁(但し最後の丁付五十二丁)

〔内容〕 小倉百首 歌の上に作者の略伝・年代を出す 百鉢習字用手本

〔備考〕 巻首に保之書の色紙をのせるのどに「百鉢百首」とある 後に「助梓随喜

社中讃吟・増補社中吟・真直跋吟・松詞」と「保之大人著書目錄」を付ける

四 百體百人臺首和歌 写 一冊 二七・八×二二

〔筆者〕 未詳 [題箋] 欠 [筆年] 天保十年己亥(一八三九)年六月

〔内容〕 小倉百首 一面二首 墨付二十五丁

〔備考〕 表紙に打付書で「百體百人壹首和歌全」 天保十年己亥六月筆之 牙霜蔵書」とある

四 萬葉小倉歌 板 一冊 三三・七×二六・八

〔筆者〕 栗楔山樵 [題箋] 萬葉小倉歌 完 [見返し] 萬葉仮字小倉歌 楽此堂蔵刻 [序] 嘉永紀元(一八四八)盛夏日 松門 栗楔

山樵識 [刊年・等] 未詳 序二丁 本文五丁

〔内容〕 萬葉仮名小倉百首 石摺風 一面に一人を出す

四 猿山小倉百人一首 板 一冊 三三・五×二六・六

〔筆者〕 猿山因暁 [題箋] 猿山小倉百人首 [跋] 右一帖依青山堂需令染毫早 太平

山人猿山因暁 [刊年・等] 刊年未詳 御書坊出雲寺和泉掾 五十丁

〔内容〕 小倉百首 一面一首 石摺風

四 小倉百首 板 一冊 三三・四×二七・四

〔書〕 竜眠 [題箋] 元箋欠(書題箋「竜眠書 小倉百首」) [序] 安政三とせ長月七日(一八五六) 柯堂識 [刊年・等] 安政丙辰

秋丹桂花香月 玉淵堂蔵板 序一丁 本文五十丁

〔内容〕 小倉百首を真字で書く 習字用手本

五 百人一首 板 一冊(豆本) 三三・二×二五

〔編著者〕 未詳 [題箋] 欠 [内題] 欠 [刊年・等] 未詳 五十丁 軼入

〔内容〕 小倉百首(一面一首)

五 百鉢百人一首 折板 乾・坤二帖 三三・二×二六

〔筆者〕 芝泉堂陽谷 [題箋] 百鉢百人一首 乾・坤 [題字] 薰斎 [奥書] 右百鉢百人一首者泉榮堂積年依懇望令染毫者也 粟田御

殿御直門芝泉堂門陽谷書花押嘉永戊申(元年・一八四八) [跋] 八十翁京山人百樹

門人 林泉堂陽嶂書 [刊年・等] 刊年未詳 東都書林 泉榮堂 芝 和泉屋吉兵衛

〔内容〕 小倉百首 一面一首 習字用手本

〔備考〕 未だ「芝泉先生發行書目」あり

三 小倉百人一首 板 一冊 三三×二五・三

〔筆者〕 湯川梧窓 [題箋] 小倉百人一首全 [見返し] 小倉百人一首 湯川梧窓書 嵩山堂蔵梓 [刊年・等] 明治三十四年(一九〇一)九月廿二日 発行者 青木恒三郎 印刷者 武藤稻蔵 発売所 東京市 青木 大阪市 青木

三二

嵩山堂 五十一丁

〔内容〕 小倉百首 一面一首 習字用手本

壹 小倉百人一首 折 青写真 一帖 下のま

き 三五・九×九・四

〔筆者〕 鳥迹斎〔筆年〕未詳〔題箋〕小倉

百人一首（朱書で下のまきとある）〔刊年

・等〕未詳

〔内容〕 小倉百首 一面一首 但し「かく

とだに」より順徳院まで 後に補遺として

二條院讃岐をのせる

貳 百人一首 写 一冊 二六×二・七

〔筆者・筆年〕未詳〔題箋〕百人一首 附

三十六 歌仙

〔内容〕 小倉百首一面三首をのせる 墨付

十七丁・他八丁

〔備考〕 後に「三十六歌仙」「茶の湯の事

を付ける

参 小倉百人一首 活 一冊 三・八×五・八

〔筆者〕 小野燭之助〔題箋〕小倉百人一首

小野鶯堂書〔見返し〕雲佳写（色刷竜田川

の絵）〔序〕昔の小野の秋はきの花きりの

まかきのあるし正臣〔跋〕さくら戸玉緒〔刊

年・等〕明治廿六年（一八九三）十一月一

日 発行兼印刷者 京都市 田中治兵衛

特約販売所 東京 大倉書店等四軒 五十

二丁

〔内容〕 小倉百首 一面一首をのせる 末

に「平安家中加茂川のほとり水きよく風涼

しきところにおいて写す時に明治癸巳（二

十六年）の年八月下旬なり 斯花のや主人

鶯堂」とある 習字用手本

共 百人一首 活 一冊 三・六×二・六

〔書〕 磯野秋渚〔題箋〕百人一首〔刊年・

等〕明治四十四年（一九一一）三月五日

大阪 精華堂書店 五十丁

〔内容〕 小倉百首 習字用手本

小倉 百人一首 色紙帖 活 一冊 三・三×三・二

〔筆者〕 阪正臣〔題箋〕百人一首 色紙帖

〔扉〕 茅田阪正臣先生書 百人一首 色紙帖

東京 西東書房蔵版〔刊年・等〕大正十四

年（一九二五）七月十日 十六版〔初版

明治四十四年（一九一一）八月十三日〕東

京 西東書房 五十丁

〔内容〕 小倉百首 習字用手本

共 小倉百人一首 活 一冊 三・四×四・九

〔編纂兼 揮毫者〕 西脇静〔題箋〕習字 小倉百人一

首〔附録 かな書法 全〕〔扉〕 假名 小倉百人一首 附録か

西脇吳石書 東京 松邑三松堂〔刊年・

等〕大正二年（一九一三）九月十五日 発

行者 松邑孫吉 印刷者 東京市 藪崎芳

次郎・臺紙開舎 発兌元 東京市 松邑三

松堂 本文五十丁 他十三丁（最後の丁付

六十三丁）

〔内容〕 小倉百首 一頁一首をのせる 習

字用手本 巻末に大正二年八月 吳石西脇

静書 鎮西刻とある

2 歌并肖像（図を加えたものを含む）

一 百人一首 写 一冊 三・五×九・七

〔筆者〕 龜田窮楽（一七五八歿）〔筆年〕

享保丁未冬十月（一七二七）洛下窮子曳尾

瀉書〔題箋〕百人一首

〔内容〕 小倉百首 水墨絵入り 墨付五十

一丁オ 表紙は漆入り布表紙 帙入

二 團扇百人一首大成 板 一冊 三・三×三・六

〔画〕 長谷川光信〔彫工〕坂本甚兵衛〔題

箋〕團扇百人一首大成全〔見返し〕小笠原

流万折形之図 大坂書肆〔柱〕團扇百人一

首〔刊年・等〕寶曆五歳乙亥（一七五五）

止月吉日 大阪書林 糸屋市兵衛版 口絵

二丁 本文二十五丁

〔内容〕 小倉百首并肖像（一面二人 團扇

型に肖像并図をのせ型の上部に歌を出す）

三 團扇百人一首大成 板 一冊 三・三×三・六

二に同じ 但し〔題箋〕欠 刊年未詳

〔備考〕 二見返しにある「小笠原流万折形

之図」を巻末に付ける

四 萬歳百人一首 板 一冊 三・七×二・四

〔著者〕 未詳〔題箋〕□女文 萬歳百人一首

〔口絵〕 和歌三神 上欄に七夕の歌づくし

〔刊年・等〕 寶曆五年か（一七五五）書

林 京 菱屋治兵衛板 十三丁

〔内容〕 小倉百首并肖像（一面四人を出す）

五 民用百人一首都染 板 一冊 三・八×二・五

〔画〕 馬淵忠治光信〔題箋〕民用百人一首

都染全〔刊年・等〕寶曆十四申（一七六四）正月発刻 文化二年丑（一八〇五）三月再刻 書林 京 菊屋七郎兵衛版 十三丁

〔内容〕小倉百首并肖像（一面四人を出す）

六 萬葉百人一首和歌海 板 一冊 三・三×三

〔書画〕下河邊拾水〔題箋〕女教 要寶萬葉百人一首和歌海〔刊年・等〕明和八年卯（一七七一）六月吉日 京都書林 菱屋治兵衛

菊屋七郎兵衛板行 口絵二丁 本文二十五丁（最後丁付二十七丁）

〔内容〕小倉百首并肖像（一面二人を扇面型にのせる 型の右上に「いろは」を以て順位を示し 下左又は右に作者の年代を出す）

七 百人一首 板 一冊 三・三×三

〔書画〕下河邊拾水〔題箋〕百人一首〔刊年・等〕安永二癸巳年（一七七三）正月吉日 京都 美濃屋平兵衛板 十一丁（但し最後の丁付八丁）

〔内容〕小倉百首并肖像（一面六人 但し最後の一面には四人を出す）

八〔百人一首〕板 一冊 三・四×三

〔書画〕下河邊拾水〔題箋〕欠〔見返し〕和歌三神・よみくせ〔柱〕百人一首〔刊年・等〕刊年未詳 尾州名古屋 本屋久兵衛

京 菱屋治兵衛 本文八丁

〔内容〕小倉百首并肖像（おおむね一面に六人を出す）七とは様式は同じであるが異板

九 錦百人一首 板 一冊 三・四×三

〔筆者〕猿山周之〔画〕勝川春章〔題箋〕錦百人一首 勝川春章画図 〔刊年・等〕未詳 安永三年（一七七四）刊（岸本）の後摺本 口絵（色刷）三丁 本文五十一丁

〔内容〕小倉百首并肖像（色刷）（一面に おおむね一人を出す）

一〇〔小倉百人一首画稿〕板 一冊（複製）

〔筆者〕岡田（冷泉）為恭〔題箋〕欠〔刊年・等〕大正十四年（一九二五）二月廿八日 東京 米山堂 稀書複製会 印行五百部之内第一九四号 五十三丁

〔内容〕年中略儀等を印した紙の裏に小倉百首作者の肖像をデッサンした

〔備考〕〔書名・筆者〕は〔岸本〕による

⑤ 聯珠百人一首〔安政年間（國總）〕

二 聯珠百人一首 板 一冊 三・九×三

〔編者〕片野東四郎〔画〕岡田（冷泉）為恭〔成立〕安政年間（國總）〔扉〕東壁堂 蔵〔題箋〕聯珠百人一首〔題字〕甲午夏日 通禧〔序〕明治廿七年（一八九四）八月鶯花園のあるし 福羽美静〔跋〕明治二十七年八月 早稲田の五十代田の田夫加部の

しるす〔刊年・等〕明治廿八年（一八九五）七月二十日 東京 片野東四郎支店以下大阪 田中太左衛門等十三軒 卷首三丁 本文五十一丁 跋四丁

〔内容〕小倉百首を色紙型におき 色刷の肖像を出す（一面一人を出す）

三 聯珠百人一首 板 一冊 三・八×三

一一に同じ 但し発行所 東京 片野東四郎支店・美術図書発售所 京都 芸艸堂とある 一一「早稲田の五十代田の田夫加部の」の跋文を序にのせる

三 聯珠百人一首 写 一冊 三・六×三

〔題箋〕欠 一一の版下本を裏打したものであろうか

四 艶玉百人一首 板 一冊 六×三

〔著者〕未詳〔題箋〕艶玉百人一首〔見返し〕和歌三神之像〔柱〕百〔刊年・等〕天明四年申辰（一七八四）正月吉日 耕書堂 江戸 葛屋重三郎 十三丁

〔内容〕小倉百首并肖像（一面に四人を出す）

五 百人一首 板 一冊 三・六×三

〔外題筆者〕花山院愛徳〔和歌筆者〕石井行宣〔図像〕土佐光貞〔題箋〕百人一首〔刊年・等〕文化五年辰（一八〇八）秋刻成 五十一丁

〔内容〕小倉百首并色刷の肖像（一面一人を出す）卷末に画所預従四位上土佐守藤原光貞とある

六 稽古百人一首 板 一冊 三・四×三

〔著者〕未詳〔題箋〕稽古百人一首〔見返し〕和歌三神・六歌仙・百人一首よみくせ

同五ヶの秘事〔刊年・等〕文政十年丁亥

(一八二七) 孟春新彫 京 菱屋治兵衛
菱屋弥兵衛板 五十丁

〔内容〕小倉百首并肖像(一面一人を出す)

七 永楽百人一首 板 一冊 一六×三・八

〔著者〕未詳〔画〕英泉〔見返し〕天保永
新永
楽百人一首千歳艸〔柱〕百人〔口絵〕和歌

三神之像・琴基書画之図〔刊年・等〕未詳

天保六刊(一八三五)〔岸本〕十四丁

〔内容〕小倉百首并肖像(一面四人を出す)

〔備考〕表紙に題箋はなく色刷図右上に「永
楽百人一首」とある

六 尊圓百人一首 板 一冊 三・五×六

〔著者〕未詳〔題箋〕欠〔成立〕天保九年
(一八三八)〔刊年・等〕刊年未詳〔京〕中

野五郎左衛門 五十丁

〔内容〕小倉百首并肖像(一面一人を出す)

〔備考〕巻頭天智天皇名の下に小梓入りで

〔尊圓〕とある

九 尊圓百人一首 板 一冊 三・五×三・一

〔著者〕未詳〔題箋〕欠〔刊年・等〕刊年
未詳 遊佐□右衛門 五十丁

〔内容〕一八に同じ

〔備考〕表紙紺紙に金泥 見返しは黄紙に
金銀の箔を置く

三 尊圓百人一首 板 一冊 三・七×一・一

一八の後摺本〔題箋〕入尊圓百人一首〔刊
年・等〕未詳 五十丁 帙入

三 百人一首 板 一冊 二・八×七・四

〔著者〕未詳〔画〕速水春曉斎〔題箋〕欠

〔刊年・等〕天保十一子(一八四〇) 新板

京都 菱屋弥兵衛等三軒 口絵四丁 本文
五十丁

〔内容〕小倉百首并肖像(一面一人を出す)

三 錦壽百人一首 板 一冊 一七・六×二・七

〔著者〕未詳〔題箋〕弘化錦壽百人一首慶
〔見返し〕百人一首・和歌三神〔柱〕百人
〔刊年・等〕刊年未詳 江戸 藤屋慶次郎
十二丁

〔内容〕小倉百首并肖像(一面四人を出す)

大正五年(一九一六)十一月二十五日発行
大正六年二月十五日再版(編輯)風俗
刊行会 東京 吉川弘文館他 巻首二丁
本文五十丁 他一丁

〔内容〕小倉百首并色刷の肖像 百体散ら
し書き

三 千蔭百人一首 折 一帖(複製)一・三×二・九

〔筆者〕橘千蔭〔題箋〕千蔭百人一首〔刊
年・等〕明治四十四年(一九一〇)十二月
廿三日 東京 金港堂書籍株式会社 帙入

〔内容〕小倉百首并肖像(一面一人を出す)

裏打した画仙紙に書く但し天智天皇を欠く

三 百人一首 板 一冊 三・八×六・八

〔筆者〕本阿弥光悦〔題箋〕百人一首 光
悦筆〔刊年・等〕未詳 五十丁 帙入

〔内容〕小倉百首并肖像(一面一人を出す)

〔百人一首〕板 一冊 三・八×六・四

〔著者〕未詳〔題箋〕欠〔柱〕百人首〔見返
し〕「食にむかふて五つの思ひあり 天地
の御恩 御代の御恩 師主父母の御恩 五
穀耕作の恩 家職家業の恩を思ふ 此恩を
思ふ時は箸を下に置左右のお手にて箸を持
いたゞき此御恩をあらはへ給へ」とあり
これに見合う図をのせる〔刊年・等〕刊年
未詳 京 板木屋治右衛門板 五十丁

〔内容〕小倉百首并肖像(一面一人を出す)

三 要品百人一首 板 一冊 三×三・九

〔著者〕未詳〔題箋〕新板要品百人一首
全〔見返し〕和歌三神〔刊年・等〕刊年未

詳

詳 本類卸所 大坂 勝尾屋六兵衛 口絵
二丁 本文他十一丁

〔内容〕 小倉百首并肖像（一面五人を鏡型に出す）各歌余白に書初のうた又は七夕のうたをのせる

三 春月百人一首 板 一冊 三〇・九×四〇・七

〔編者〕 未詳〔題箋〕 新春月百人一首〔見返し〕 和歌三神之図〔刊年・等〕 刊年未詳 本類卸所 阿波屋定次郎 京 墨屋吉兵衛 求板 八丁

三 寶訓百人一首 板 一冊 三三・三×二七・九

〔画〕 菱川青春〔題箋〕 寶訓百人一首〔見返し〕 紫式部の歌并肖像 左下隅に「大和絵師菱川青春画」とある）〔柱〕 百人一首〔刊年・等〕 刊年未詳 諸書類製本所皇都書林津逮堂 大谷 吉野屋仁兵衛 板 五十丁

三 御家百人一首倭鑑 板 一冊 三三・三×二七・八

〔著者〕 未詳〔題箋〕 校正 御家百人一首倭鑑〔見返し〕 六歌仙〔刊年・等〕 刊年未詳 皇都書林 山城屋佐兵衛 菊屋喜兵衛 五十丁

三 〔百人一首〕 板 一冊 三三・三×二五

〔内容〕 小倉百首并肖像（一面一人を出す）〔著者〕 未詳〔題箋〕 欠〔見返し〕 和歌三神・よみくせ〔刊年・等〕 刊年未詳 書林尾州名古屋 ひしや久八 同ひしや金兵衛 板 本文八丁

小倉百人一首

〔内容〕 小倉百首并肖像 一面六人を出す 各歌に一一六の番号を付を付ける

三 詞卷百人一首 板 一冊 八・五×六・一

〔著者〕 未詳〔画〕 貞房〔題箋〕 元箋欠〔書題箋〕 「百人一首」〔見返し〕 詞百人一首〔口絵〕 定家の歌并肖像 遍昭・業平の歌并六歌仙の肖像 和哥三聖〔刊年・等〕 刊年未詳〔江戸〕 上州屋重蔵板 口絵二丁 本文五十丁

三 百人一首小倉錦 板 一冊 二〇・六×七・九

〔著者〕 未詳〔題箋〕 百人一首小倉錦〔口絵〕 和歌三神・七夕・秋の七草（色刷）〔刊年・等〕 未詳 口絵三丁 本文五十丁 他八丁

〔内容〕 小倉百首并肖像（一面一人を出す）〔備考〕 表紙に百人一首の由来を書く付箋あり

三 延壽百人一首 板 一冊 二×七・三

〔画〕 春暁斎柳谷〔題箋〕 欠〔見返し〕 延壽百人一首〔刊年・等〕 刊年未詳〔江戸〕 総州屋與兵衛 口絵四丁 本文五十丁

三 〔百人一首〕 板 一冊 六・九×四・六

〔編者〕 未詳〔題箋〕 欠〔刊年・等〕 刊年未詳 江戸 和泉屋市兵衛 五十一丁

三 百人一首 板 一冊 七・四×四・七

〔著者〕 未詳〔題箋〕 元箋欠（書題箋）「百

人一首」〔刊年・等〕 刊年未詳〔江戸〕 森屋治兵衛 江崎吉兵衛 五十丁

〔内容〕 小倉百首并肖像（一面一人を出す）

三 紅葉百人一首 板 一冊 一七・八×三・三

〔著者〕 未詳〔題箋〕 紅葉百人一首 向栄堂板〔見返し〕 五節句の歌〔刊年・等〕 未詳 本文十二丁

三 〔百人一首〕 板 一冊 一七・三×二・三

〔内容〕 小倉百首并肖像（一面四人を出す）〔編者〕 未詳〔見返し〕 欠〔題箋〕 欠〔柱〕 百人〔刊年・等〕 刊年未詳 新彫刻板元 豊嶋町二丁目 菊屋鉄五郎 同所 本屋金之助 口絵一丁 本文二十五丁

〔内容〕 小倉百首并肖像（一面二人を出す）各歌右又は右に源氏物語引歌并香之図をのせる

三 百様百人一首 写 一冊 三三・三×二・九

〔筆者筆年〕 未詳〔題箋〕 百様百人一首〔内容〕 小倉百首并肖像（一面一人を出す） 墨付五十丁

3 注釈書（歌話等を含む）

一 御所本百人一首抄 影印本一冊 三三・四×二・六

〔筆者〕 藤原満基〔編者〕 久曾神昇 樋口芳麻呂〔刊年・等〕 昭和四十七年（一九七二）四月二十日 東京 笠間書院 九十一頁（笠間影印双刊十三）

〔内容〕 小倉百首注釈書 表紙に「百人一首抄 應永十三年寫」巻頭「小椋山庄色紙

和哥」とある 奥書「應永拾三(一四〇六)仲夏下旬 藤原満基」

〔備考〕 別に解題あり これによれば「本書は 宮内庁書陵部蔵 室町中期ごろ書写の楮紙袋綴一冊である」とある

二 百人一首古注 洋 一冊 一六・七×二〇・九

〔編者〕 吉田幸一〔成立〕長享元(一四八七)〔刊年・等〕昭和四十六年(一九七二)九月二十日 東京 古典文庫 百七十四頁 古典文庫第二九一冊

〔内容〕 小倉百首の注釈書「本書は書写年月を明記した「百人一首」の注釈書としてはおそらく現存最古の一本であろう」(解説・吉田)

〔備考〕 解説に『外題も内題もない ここに公刊するにあたり 内容から推して「百人一首古注」と題することにした』とある ◎「百人一首」は藤原定家の撰か「小倉色紙」の染筆から「百人一首」成書の成立まで(本書・附録)

三 百人一首抄(宗祇抄)影印本一冊 三〇×二四・八

〔著者〕 宗祇〔成立〕明應二(一四九三)〔編者〕 吉田幸一〔刊年・等〕昭和四十四年(一九六九)十一月十五日 東京 笠間書院 一〇九頁

〔内容〕 小倉百首の最も早い注釈書

四 百人一首水無月抄 謄写 (碧沖洞双書)

〔別名〕 百人一首古註(國總)〔編者〕 築瀬一雄〔刊年・等〕昭和四十三年(一九六

八)八月二十日 愛知県 築瀬一雄◎碧沖洞双書第八十二輯所収

〔内容〕 小倉百首の注釈書はしがき「書写は室町末期のものと思われるが、巻頭と巻末をそれぞれ欠いているため書名や筆者は知るよしがたない たまたま巻尾が家隆の歌の註になっているので仮に「百人一首水無月抄」と名づけておく」とある

五 百人一首美濃抄 謄写(碧沖洞双書)

〔著者〕 未詳〔成立〕室町末期(築瀬・推定)〔編者〕 築瀬一雄〔刊年・等〕昭和十七年(一九六二)六月十日 愛知県 築瀬一雄 碧沖洞双書第二十六輯所収

〔内容〕 はし書に『本書は架蔵の一本で、百人一首の古註である。書名・著者・筆者はいづれも未詳であるが、美濃国の旧家遠藤氏から出たものであるから仮に「百人一首美濃抄」と題することにする』とある。

六 百人一首抄 板 上中下三冊 三〇・九×二六・五

〔著者〕 細川幽齋〔成立〕慶長元年跋(一五九六)〔題箋〕 百人一首抄 上・中・下〔内題〕 百人一首抄〔奥書〕 此百人一首之注釈近代往々在之或繁或略或異或同仍難一決而此百首者道之所傳和哥之骨肉学者之肝心云云依之且任師説又加取捨為一冊作者之系譜等也足軒被勘加之依繁多略事等在之未決之事者暫闕之連々閑暇之時猶可補之而已千時慶長元曆臘天晦日對雪夜之寒灯敲窓下之凍硯記之 丹山隱士在判〔刊年・等〕干

時寛永八辛未年(一六三一)孟春吉辰 洛陽東洞院諏訪町 杉田良庵玄与開板 上卷三十五丁 中卷三十七丁 下卷三十五丁 一面十一行

〔内容〕 小倉百首の注釈書

〔備考〕 丹表紙本 下巻後見返しに「此主中山三之補正」とある

七 百人一首抄 板 上中下合一冊 三〇・二×二六・三

六に同じ(但し「柱」百人抄〔刊年・等〕未詳 奥書終り「丹山隱士在判」の文字はない) 〔備考〕 周囲に枠を付ける 墨 朱の書入多し

八 百人一首抄 写 上中下三冊 三〇・二×三〇・三

〔著者〕 細川幽齋〔題箋〕 欠(但し表紙に打付書で「百人一首抄上・中・下」とある)〔筆者・筆年等〕 未詳 一面十二行 墨付 上卷三十四丁 中卷三十一丁 下卷三十二丁

〔内容〕 六に同じ(但し漢文の個所を仮名まじり文とする) 丹表紙本

九 百人一首抄 板 上中下合二冊 三〇×二六・三

〔著者〕 細川幽齋〔題箋〕 元箋欠(書題箋「百人一首抄」)〔内題〕 百人一首抄〔柱〕 百人抄〔刊年・等〕未詳 一面十一行 上卷五十三枚 下卷五十四枚

〔内容〕 六に同じ 但し奥書終り「丹山隱士在判」はない 奥に天保十五辰年調之の書入がある 所々に朱書入あり

〔備考〕 上巻と中巻十八丁までを合一冊

中卷十九丁よりと下巻を合一冊とする 周
田に枠を付け所々文字を改刻した個所があ
る

二〇 百人一首抄 板 上中下合一冊 三〇×六・三
九に同じ 但し「題箋」欠(表紙に打付書

「百人一首抄」とある)巻末に一丁補筆 三
丁欠「此歌実情に叶はず人こそすまねとあ
るへし」「本居云」等朱書入多し

二一 百人一首抄 板 上中下三冊 三〇×七・七
〔著者〕 細川幽齋〔題箋〕新百人一首抄
〔内題〕 百人一首抄〔柱〕百人抄〔刊年・

等〕寛文三年癸卯(一六六三)初夏吉日
京 安田十兵衛開板 一面十四行 上巻二
十二丁 中巻二十三丁 下巻二十六丁

〔内容〕 六に同じ 但し板は異なる また奥
書終り「干時慶長元曆……」の記載はない

三二 百人一首抄 板 上中下三冊 三〇×七・九
一一に同じ 但し「此百人一首ノ本鉢ハ花
実ノ二ツノ内ニ実ノ勝タル也 花四分 実
六分」等書入多し

三三 百人一首抄 (列聖全集)
〔著者〕 後陽成天皇〔成立〕 慶長十一年(一
六〇六)〔編纂〕 列聖全集編纂会〔刊年・

等〕大正五年(一九一六)二月十五日 東
京列聖全集編纂会 列聖全集 御撰集第三
巻所収

〔備考〕 「百人一首抄は慶長十一年後陽成
天皇御みづから諸説を参照し諸抄を斟酌し
給ひて百人一首を詳解せられたるものにし

て伊勢物語愚案鈔ともいまだ世に知ら
れざる珍籍也」(全集・例言)

三四 百人一首講義 写 四冊 三〇×七
〔著者〕 近衛信尹〔題箋〕近衛三
講義〔筆者・筆年〕干時天明第六丙午年
(一七八六)閏十月謹而書竹兩亭南窓 藤

政雄
〔内容〕 小倉百首の注釈書 奥書に「此書
は嵯峨大覚寺御門主の御秘書なり 近衛三
藐院公百人一首講し給ふを記せし聴書な
り」とある 墨付上巻三十丁 二巻三十三
丁 三巻二十丁 四巻二十八丁

三五 小倉山庄色紙和歌抄 板 上下合一冊 三〇
×六・四
〔著者〕 未詳〔成立〕 寛永十五年(一六三
八)刊〔題箋〕欠〔内題〕 小倉山庄色紙和
歌抄上号百人一首〔柱〕百人一首 上・下

〔刊年・等〕 慶安三年寅(一六五〇)十二
月 書肆未詳 一面十一行 上巻二十五丁
下巻二十二丁 他二十一丁

〔内容〕 小倉百首注釈書(三部抄之抄の中
「百人一首抄」)

〔備考〕 「未来記」「雨中吟」と合冊 三部
抄之抄五冊本中の三冊 岸本家旧蔵本

三六 小倉山庄色紙和歌抄 板 上下合一冊 三〇
×六・五
〔著者〕 未詳〔題箋〕元箋欠(書題箋「三
部書 小倉山庄
色紙和歌抄 乾」)〔内題〕 小倉山庄色紙
和歌抄上号百人一首〔刊年・等〕未詳 四

十七丁
〔内容〕 一五に同じ 但し「未来記」「雨
中吟」はない 巻末に「備前国和氣本成寺
什物」とある

三七 小倉山庄色紙和歌抄 板 上下合一冊 三〇
×六・六
〔著者〕 未詳〔題箋〕 三部抄之抄百人一首
上下〔内題〕 小倉山庄色紙和歌抄上号百人
一首〔刊年・等〕未詳 四十七丁(上巻二
十五丁 間に白紙一丁 下巻二十二丁)

〔内容〕 一六に同じ 朱書入あり
三八 小倉山庄色紙和歌 写 一冊 三〇×六
〔筆者・筆年〕 未詳〔題箋〕欠(表紙に打
付書で「百人一首抄」とある)〔内題〕 小
倉山庄色紙和歌

〔内容〕 小倉百首の注釈書 一面十四行
墨付四十八丁才 巻末に「此文の年数正保
二年まで也 右正保二年より享和三亥年ま
て百五十九年歟」との書入あり

三九 百人一首師説抄 写 上下二冊 三〇×五・五
〔著者〕 祐海〔成立〕 明暦四年(一六五八)
(國總)〔題箋〕 百人一首抄〔筆者・筆年〕
未詳

〔内容〕 小倉百首注釈書 一面十二行 墨
付 上巻四十六丁 下巻四十六丁 巻頭百
人一首師説抄の下に「三條西稱名院右大臣
公條公ノ御抄」とある 序説 一、此百人
一首を定家卿御撰おかる、□一、新古今集
の事 一、定家卿喪籠給事 一、新古今に

点の本として 一、又此百人首に通具有家長明此等の歌人のうた不入事は」とある 百人一首後に「三條西稱名院右大臣公仍覺入道御説に云此一部治世救民の心ありと云々哥は教誡のはしといふ事尤可思之」 「五ヶの秘哥」 『七首の相傳の哥とは（下に「このたひはぬさもとりあへぬの哥を七首の秘哥と抄に有之」 「右の外に師伝有哥」 「系図」をのせる 奥書「右此百人一首師説抄者堅以誓言令傳受処之及秘哥之切紙註家説之奥儀或附清濁読曲或記作者名目皆是無非師説故以號焉門弟之外制他見尤有恐和哥三神者也可秘々穴賢 吾立杣末弟法印祐海鈔之」とある 墨 朱の書入あり

三 百人一首師説抄 写 一冊 二五・二五・八
 〔著者〕〔成立〕〔序説〕一九に同じ〔題箋〕欠〔内題〕百人一首師説抄〔筆者・筆年〕未詳
 〔内容〕一九とは多少異なる 片仮名まじりで書く 一面十一行 墨付五十三丁 但し藤原実方朝臣まで 以下欠 朱書入多し

三 百人一首御講釋聞書 写 一冊 三・七×元
 〔著者〕後水尾天皇述 飛鳥井雅章等〔成立〕寛文元年（一六六一）〔筆者・筆年〕未詳
 〔題箋・内題〕百人一首御講釋聞書〔奥書〕右百人一首者後水尾御講釋聞書之秘本也努力々他見可努力者乎秘すへし〜藤原経重 在判

〔内容〕後水尾天皇小倉百首の御講釈 一面九行 墨付百六丁 巻頭名の下に「後水尾院寛文元年（一六六一）五月六日被始之」とある 聴衆 照高院道晃親王・飛鳥井從一位雅章・日野大納言弘資・中院大納言通茂・白川雅喬王五名

三 百人一首御講釋聞書 写 一冊 三・一×元
 〔備考〕一面十一行 墨付七十四丁
 〔著者〕後水尾天皇述〔題箋〕百人一首注解〔筆者〕耕書堂主人〔筆年〕未詳
 〔内容〕二一に同じ 一面八行 墨付百三十一丁 奥書「右以権大納言冬基卿自筆御本寫令校合候 耕書堂主人 雖僕秘藏之其方式嶋之好士也固令附原属候」とある

三 百人一首御講釋聞書 写 一冊（仮綴）三・三×六・七
 〔筆者〕芳章〔内題〕百人一首御講釋聞書〔奥書〕「校本云右以大納言冬基卿自筆本寫令校交畢 右後水尾院勅講釋聞書云々再以善本校定畢寫字拙筆以暇日改之者也 正徳二仲冬 釣月叟 享保十二（一七二七）晚夏依被附属書寫畢 勝郷 享和三歳次癸亥（一八〇三）十一月初旬令書寫畢 芳章」

〔内容〕二一に同じ 一面十行 墨付百二十丁 頭書に「釣師の説」 「釣師曰」等の注をのせる

三 百人一首抄 板 上中下合一冊 三・七×七
 〔別名〕貞徳頭書百人一首抄〔著者〕細川幽齋注 加藤盤齋増補〔成立〕寛文二年（一六六二）〔題箋〕百人一首抄〔巻頭〕百人一首大意〔内題〕百人一首抄〔柱〕上中下〔奥書〕干時慶長元曆臘天晦日對雪夜之寒灯敲窓下之凍硯記 丹山隱士 在判・寛文二曆（一六六二）重陽 加藤盤齋 花押〔刊年・等〕たこやくしと成りあふらのこうし西町栢屋九郎左衛門開板 上・四十五丁（三十五丁の個所に三十九と付けてある）中・三十五丁 下・三十四丁合一冊
 〔内容〕細川幽齋の百人一首抄に貞徳の説を頭書にのせる 巻頭に百人一首大意七条を出す 一面十二行

三 百人一首五歌之秘訣切帛 写 一冊 三・三×九・六
 〔筆者〕上田某〔題箋〕百人一首五哥之秘訣〔内題〕百人一首五哥之秘訣切帛〔筆年〕天明三年癸卯（一七八三）暮春〔奥書〕右五哥之秘訣切紙并聞書説方清濁者從先師貞徳翁傳授之趣也累年依懇望而令相傳訖如誓盟容易不可漏脱者也 寛文九年（一六六九）八月二十日 長好 右者從先師長好居

士所令相傳也誠雖為甚深極秘顧於先師懇切之由緒殊感志之篤實應取望令傳受訖如誓盟深納函底全不可漏脫者也 延寶九年辛酉（一六八一）十月二十五日 長雅判

〔内容〕 百人一首五哥之秘訣切帛（奥書）

右者玄旨法印御傳受之趣也雖無上之極秘依年來之取望令相傳訖如誓盟猥不可漏脫者也

慶安三年（一六五〇）三月二十八 長頭丸

同五哥秘訣聞書 百人一首読方清濁 後に藤江氏維松丈 印のけふりの事（奥書）

右之故事は聞堯孝先師の説最以可信之者也 延寶九年辛酉（一六八一）十月廿五日 長雅判） 一面十行 墨付十八丁

三 百人一首像讚抄 板 一冊 三・四×六

〔著者〕 細川幽齋 〔画〕 菱川師宣〔題箋〕 元箋欠（書題箋「百人一首像讚抄」）〔序〕

〔跋〕 六に同じ（但し丹山隱士在判はない）後に「右百人首之絵位官之衣服ヲ改并歌之心ヲ絵ニ道引訖 武州江城之下久大和絵師菱河吉兵衛師宣」〔刊年・等〕 刊年未詳（天和三刊か）〔江戸〕 須原屋茂兵衛板 六十丁

〔内容〕 幽齋抄に師宣の図を付ける 後に「百人一首作者之部類附父子并三代統之歌人此内江不入ハ細字書之」をのせる

元 百人一首像讚抄 板 上下二冊 一五・四×二〇

〔著者〕 細川幽齋〔撰者〕 北村季吟〔題箋〕 元箋欠（書題箋「百人一首像讚抄」）〔柱〕

六 小倉百人一首

百人〔扉〕 百人一首像讚抄〔序〕 二七に同じ〔刊年・等〕 延享三丙寅年（一七四六）九月吉旦 皇都書林 堺屋仁兵衛 堺屋儀兵衛 上卷九十三丁 下卷八十六丁

〔内容〕 二七に同じ 但し板は異り画人の記載はない 跋終りに季吟撰とある 但し「丹山隱士 在判」はない

元 新撰繪抄百人一首 板 一冊 三・七×九・四

三 增補百人一首繪抄 板 下一冊（上欠） 三・五×元

〔著者〕 井上秋扇（國總）〔題箋〕 傳記系 歌之繪入 增補百人一首繪抄 下〔跋〕 右百人一首繪抄者或人之家傳秘書而輻匱而藏予偶得看此書其註解詳記理義尤明講筵臨席不可一日無此書矣且又考諸家名註交傳受秘說增之補之而鏡梓庶幾童蒙易曉之一助而已〔刊年・等〕 延寶八庚申歲（一六八〇）六月吉辰 京都堺屋庄兵衛板行 三十丁オ

〔内容〕 小倉百首の注釈に図を付ける、図は二七に同じ 後に「百人一首作者部類」を付ける

三 百人一首拾穂抄 板 四卷四冊 三・五×元

〔別名〕 百人一首註（國總）〔著者〕 北村季吟

〔題箋・内題〕 百人一首拾穂抄〔跋〕 天和元年（一六八一・成立）霜月冬至日 北村季吟書〔刊年・等〕 刊年未詳 川勝又兵衛 北村書堂梓行 上之一 三十丁・上之二 廿六丁・下之一 三十二丁・下之二 廿一丁

〔内容〕 小倉百首注釈書 跋に「玄旨の御抄をもと、し師説をましへ諸抄の中のとるへき所を取用ひて愚息湖春に清書せしめ百人一首拾穂抄と名付侍し其五ヶの秘訣等は一家の深秘授受の血脉なればみたりにせん事おそれあれば是にはもらし侍けらし」とある

〔備考〕 墨 朱の書入多し

三 百人一首拾穂抄 板 四卷四冊 三×六・六

三 百人一首拾穂抄 板 一冊 三・五×六・六

三 百人一首拾穂抄 板 一冊 三・五×六・六

〔別名〕 〔著者〕 〔跋〕 〔内容〕 三一に同じ

〔題箋〕 百人一首拾穂抄 二二（二二）の上に春夏と墨で書かれてある）〔刊年・等〕 寛政六甲寅年（一七九四）三月再刻 東都書林 須原屋茂兵衛 皇都書林 勝村治右衛門 百八丁

〔備考〕 墨 朱の書入 詳細な付箋多し

三 百人一首拾穂抄 板 四卷合一冊 三・五×一九・五

三一に同じ 全文にわたって朱と墨とで詳細な書入がある。 一一〇丁

三 百人一首拾穂抄補註 板 六卷六冊 三・三

三 百人一首拾穂抄補註 板 六卷六冊 三・三

三 百人一首拾穂抄補註 板 六卷六冊 三・三

×六・三

〔著者〕北村季吟〔補注〕谷口元淡〔成立〕天文二年序（一七三七）〔題箋〕〔内容〕百人一首拾穂抄補註〔柱〕卷〔序〕元文二年（一七三七）正月吉日 郡山府 谷口元淡みつから書〔跋〕天和元年（一六八一）霜月冬至日北村季吟書 門下生谷口元淡再寫〔刊年・等〕延享五戊辰（一七四八）正月吉日 江戸書林 榊屋五良右衛門 京都書林 榊屋孫兵衛 梅村三良兵衛板行 一卷 序二丁 本文三十五丁 二卷二十一丁（最後の丁付二十丁 卷末一丁欠）三卷二十二丁 四卷三十二丁 五卷二十丁 六卷二十四丁

年 大阪朝日新聞社 契沖全集附所収

〔内容〕小倉百首の注釈 此の書に基いて契沖の改観抄は作られた

三 百人一首改観抄 写 一冊 三〇・五×三〇

〔著者〕契沖〔成立〕元禄五年（一六九二）〔題箋〕百人一首改観抄 完〔内容〕百人一首改観抄〔跋〕元禄五曆季夏 契沖〔識語〕撰州東成郡大今里邑神宮寺社僧契沖者下河邊長流 泉州門人歌学貫通僧又和歌詠達也所詠秀歌多萬葉集之鈔古今余材抄撰頌老比同 国小橋餌指町庵居寂 右の本紙文字仮名不分明所多しといへ共外に可考合證本なければ本の通に寫置者なり 享保十四酉歲（一七二九）無神月廿二日筆止好古六十三歳・元文二年己（一七三七）五月雨寂寞日落下空 華庵桑門忍口記 忍口六十八歳 好古七十二歳〔内容〕小倉百首の注釈書 一面十二行 百一丁

〔備考〕この本文は板本と異なる所多し 或は草稿本の写しか 自筆本の系統と思われる

三 百人一首改観抄 写 上中下三冊 三六・九×一九・八

〔著者〕契沖〔題箋〕百人一首抄〔筆者〕筆年〕未詳

〔内容〕三八に同じ 墨付上卷三十八丁 中卷四十八丁 下卷三十八丁

四 百人一首改観抄 写 上下二冊 三六・四×三〇・七

〔著者〕〔跋〕（但し元禄五年契沖跋のみ同じ）〔内容〕三八に同じ〔題箋〕欠（但し表紙に打付書で「百人一首改観抄」とある）〔内題〕百人一首改観抄〔筆者〕筆年〕未詳

〔備考〕一面十二行 墨付 上卷三十三丁 下卷三十二丁

四 百人一首改観抄 写 一冊 三〇・四×一六・九

〔著者〕契沖〔筆者〕筆年〕未詳〔題箋〕百人一首改観抄〔内題〕百人一首改観抄

〔内容〕三八に同じ 一面十二行 墨付七十七丁 崇徳院以下欠

三 百人一首改観抄 板 五卷六冊 三六・八×一六・一

〔著者〕契沖 樋口宗武追考〔題箋〕百人一首改観抄〔内題〕註百人一首・卷頭 百人一首改観抄〔序〕元禄五年壬申季（一六九二）夏 自序（漢文）・延享四のとし丁卯の菊月（一七四七）花月堂主人樋口宗武識之〔刊年・等〕延享五戊辰（一七四八）正月吉日彫刻（序の後）京 勝村治右衛門 卷一 序凡例七丁 本文二十四丁・卷二 二十四丁・卷三 二十一丁・卷四 二十七丁・卷五上 二十丁 卷五下 二十四丁

〔内容〕百人一首改観抄を校訂したもの〔備考〕⑤校正補註国文全書次編四所収（國總）

四 百人一首改観抄 洋 一冊 三〇・五

〔撰者〕僧契沖〔編者〕三好仲雄〔題詠〕

三 百人一首三奥抄（契沖全集）

〔著者〕下河辺長流〔奥書〕享保十三年（一七二八）孝卿（福井）〔刊年・等〕昭和二

三 百人一首拾穂抄補註 写 一冊 三〇・五×九

〔筆者〕田辺央立〔題箋〕百人一首全〔内題〕百人一首拾穂抄補註〔筆年〕未詳

〔内容〕三五に同じ 一面十一行 墨付百二十四丁 末に「此書物は伊藤長口主の蔵書なるを今年三月の頃田辺央立に托して写さしめたるもの也」とある

三 百人一首拾穂抄補註 写 一冊 三〇・五×九

〔備考〕この本文は板本と異なる所多し 或は草稿本の写しか 自筆本の系統と思われる

三 百人一首拾穂抄補註 写 一冊 三〇・五×九

〔著者〕田辺央立〔題箋〕百人一首全〔内題〕百人一首拾穂抄補註〔筆年〕未詳

〔内容〕三五に同じ 一面十一行 墨付百二十四丁 末に「此書物は伊藤長口主の蔵書なるを今年三月の頃田辺央立に托して写さしめたるもの也」とある

三 百人一首拾穂抄補註 写 一冊 三〇・五×九

〔著者〕田辺央立〔題箋〕百人一首全〔内題〕百人一首拾穂抄補註〔筆年〕未詳

〔内容〕三五に同じ 一面十一行 墨付百二十四丁 末に「此書物は伊藤長口主の蔵書なるを今年三月の頃田辺央立に托して写さしめたるもの也」とある

三 百人一首拾穂抄補註 写 一冊 三〇・五×九

〔著者〕田辺央立〔題箋〕百人一首全〔内題〕百人一首拾穂抄補註〔筆年〕未詳

〔内容〕三五に同じ 一面十一行 墨付百二十四丁 末に「此書物は伊藤長口主の蔵書なるを今年三月の頃田辺央立に托して写さしめたるもの也」とある

小出繁〔序〕明治三十三年（一九〇〇）十一月 木村正辞〔跋〕元禄五年（一六九二）季夏 契沖〔刊年・等〕明治三十七年（一九〇四）十二月二十三日三版〔初版明治三十三年（一九〇〇）十二月六日〕東京 園屋書店 一五八頁

〇 〔備考〕 書入多し

〇 百人一首改観抄

〔著者〕 契沖〔編者〕 佐佐木信綱〔刊年・等〕大正十五年（一九二六）十二月十日 大阪 朝日新聞社 契沖全集第六卷所収

〇 百人一首雜談

〔著者〕 戸田茂睡〔成立〕元禄五年（一六九二）七月〔奥書〕明和四丁亥年（一七六七）三月写之 道遠〔刊年・等〕昭和四十四年（一九六九）十一月二十五日 東京 国書刊行会 戸田茂睡全集所収

〔内容〕 小倉百首の注釈書「名は雑談といへども実著者の歌学論の發表なり」（全集例言）

〇 真字百人一首 板 一冊（仮綴）三・七×六

・三

〔著者〕 素軒松菊〔題箋〕 欠〔内題〕 真字百人一首〔柱〕 百人一首〔序〕 元禄第八年龍舎乙亥洗車雨日北水浪土岡惟中〔跋〕 右一編者握龍化蛇者也見人請勿咲矣 元禄八年龍治乙亥（一六九五）春三月旬有七 素軒松菊記之〔刊年・等〕 刊年未詳 書林 大坂伊丹屋太郎右衛門 序二丁 本文二十六丁

小倉百人一首

〔内容〕 小倉百首を萬葉仮名で記し片仮名の読みを付ける 頭書に注をのせる 各歌に七言絶句の翻案の詩一首づつを書入れる

〇 真字百人一首 写 一冊 三・八×七

〔筆者〕 井上千祥〔題箋〕 欠〔扉〕 真字百人一首

〔内容〕 四六に同じ 但し序 跋はない 一面六行 墨付二十五丁

〔備考〕 卷末に「明治二拾九年（一九五四）五月上旬寫 原本元禄八年（一六九五）春月三旬素軒松菊 須賀室門人 井上千祥」とあり「千祥蔵書」の朱印がある

〇 百人一首諸抄大成 板 四卷四冊 三・三×六

〔著者〕 未詳〔成立〕 元禄十年（一六九七）〔國總〕〔題箋〕 新板 繪入百人一首諸抄大成〔内題〕 百人一首諸抄大成〔刊年・等〕 寶永四丁亥（一七〇四） 初夏吉日 卷一 二十六丁・卷二 二十三丁・卷三 三十丁・卷四 十九丁

〇 百人一首諸抄大成 板 四卷四冊 三・三×六

〔内容〕 小倉百首の注釈書 各作者の歌并肖像を下偶にのせる 卷末識語に「玄旨の御抄をもとゝし師説をまし諸抄の中のとるへき所を取用て愚息清書せしめ百人一首諸抄大成と名付侍し」とある

〔備考〕 ①百人一首拾穂抄の絵入改題本

〇 百人一首諸抄大成 板 四卷合一冊 三・四×二・三

〔國總〕

四八に同じ〔題箋〕 欠

〇 百人一首萬葉 板 一冊 三・八×六・三

〔別名〕 萬葉百人一首（國總）〔成立〕 元禄十二年（一六九九）自序（國總）〔編者〕 中川常樹〔題箋〕 欠〔内題〕 百人一首萬葉

〔序〕 無記名〔刊年・等〕 未詳 序二丁 本文五十丁

〔内容〕 小倉百首を萬葉仮名で記し 上に注をのせ下に肖像を出す

〇 百人一首鈔講談秘註 写 上中下（天・地・人）三冊（仮綴） 三・四×六

〔別名〕 百人一首秘註・小倉山莊色紙和歌秘註・百人一首講談密註・百人一首講談秘註百人一首抄（田中）・百人一首秘訣（國總）〔著者〕 平間長雅〔成立〕 寶永元年（一七〇四）〔筆者・筆年〕 未詳〔題箋〕 百人一首鈔講談秘註

〔内容〕 小倉百首の注釈書 一面十一行 墨付 上卷五十丁 中卷四十三丁 下卷四十四丁 幽齋抄に頭註を付ける 上卷 序説卷頭「小倉山莊色紙和歌号百人一首」とある 百人一首抄上（本文）并頭註・中卷 百人一首抄中（本文）并頭註・下卷 百人一首抄并頭註 百人一首作者部類并幽齋奥書（但し丹山隱士の署名はない）〔奥書〕 右小倉山莊色紙形之和詞本鈔三冊者大藏卿二位法印玄旨尊翁之御述作也然予深切之門人

依令懇望以此抄師傳口傳迄令講述口授処之秘本也誠此道之階梯奈加之哉雖然於歌道感厚心篤実而依有其器量今令附與之訖如誓盟全不可有他見漏脱者也 六喻居士長雅 皆 寶永元甲申(一七〇四)天林鐘上流 在判 岡氏 高倫丈 追而哥作者說曲清濁的流不差毫釐誌之令許免訖尤極秘而易不許之雖為奧旨感深切心底^{明カ}吹今加朱点而已 在判 古和調本鈔三冊者六喻居士與書之通二條家的々相承之為極秘也雖然多年強為懇望上哥道感厚心篤実以今書傳之令附與訖如誓盟全不可有他見漏脱者也 蘆錐軒高倫 皆 正徳五乙未(一七一五)天臘月中流 素慶 花押 森元氏朋勝丈 (朱) 右三冊外秘訣二卷但卷物也去ル十月二日於高倫亭傳授相濟臘月上旬書寫切終同月十八日與書到來極寒之刻凍硯老筆不辨行由 傳受の砌挨拶の哥「かけ高く色香ふりせぬ小倉山のこることばの花ももみちも」「分馴し人に任せて小蔵山たとりておくの道をしらはや」 皆正徳五乙未冬十二月 玄水軒 墨流齋判右和歌本鈔三冊者六喻居士平間長雅蘆錐軒高倫與書之通二條家的々相承之為極秘也雖然多年強為懇望上哥道感厚心篤実以今書傳之令附與訖如誓盟全不可有他見漏脱者也 享保十八癸丑(一七三三)天 墨流齋宗範 朋勝花押 葉月廿日印 成慶師 成興師

〔備考〕 下卷扉に 〔東大寺北林院藏書之部〕

〔當住成般校正〕 〔東大寺北林院藏書〕の朱書

入がある

三 〔百人一首注釈〕 写 一冊 三〇七×三〇三

〔著者〕 清白述(一七一〇歿) 〔筆者〕 未詳 〔題箋〕 欠 〔奥書〕 愚父清白翁舟叟俳名

我黒七十歳時弟子述講談百人一首校秘事一卷也家為什物修覆之者也 享保五歳(一七二〇) 初冬上旬 清白二世 柳枝軒我黒齋

千闌 印

〔内容〕 小倉百首の講演筆記 墨付百三十五丁 朱書入あり

三 百人一首五歌口傳 写 一冊 一八八×三三九

〔筆者・校〕 度會忠知 〔題箋〕 百人一首五歌口傳鶴ノ事 〔跋〕 右以龍瀨快依 傳受秘

本書寫之校合之早 享保十八年癸巳(一七三三) 十一月吉日 権瀬宜從四位上度會神主忠知

〔内容〕 人丸 仲丸 喜撰 忠岑 定家の歌の口伝及鶴について秘伝を書いたもの

一面九行 墨付九丁

三 百人一首秘聞考 写 一冊 三〇四×二六七

〔著者〕 未詳 〔題箋〕 百人一首秘聞考 〔筆者〕 寶生堂閑人成慶 〔筆年〕 元文四乙未(一七三九) 十二月十二日

〔内容〕 小倉百首の注釈 一面十四行 墨付七十三丁 後に「百人一首作者部類」を

付ける 末に「元文四年乙未十二月十二日寫得之了此抄者出自春日社中未知作者誰也

予推辰市千鳥兩家先祖之撰重可尋之 寶生

堂閑人成慶 五十五齡」とある。

三 百人一首秘訣 写 一冊 一六八×二六七

〔筆者〕 未詳 〔筆年〕 江戸中期か 〔題箋〕 欠 〔内題〕 百人一首秘訣 〔奥書〕 這一冊者

二條家正統百人一首極秘訣也大蔵卿二位法印玄旨道遊軒明心居士廣澤隱士狭々屋翁長

孝風觀窓長雅長伯世々相承雖為秘中秘累年於斯道感厚信篤実以令相傳訖如 盟全不可

有他見漏 者也 訖心齋正 皆延享四丁卯(一七四七) 祀卯月良辰 本 勝房丈

〔内容〕 小倉百首註の秘伝書 一面八行 墨付六十七丁

五 百人一首基箭抄 板 三卷三冊 三六七×二八六

〔別名〕 基箭抄 〔著者〕 井上秋扇 〔成立〕 寛文十二年(一六七二) 〔題箋〕 基箭百人一首抄 〔内題〕 百人一首増補繪抄 〔序〕 寛

文十二年九月廿七日 季吟 〔跋〕 二七に同じ(但し師宣の名を欠く) 〔刊年・等〕 寛延三庚午年(一七五〇) 三月 浪花書肆

岡田三郎右衛門 一卷 序・凡例二丁 本文十九丁 二卷二十丁―四十丁 三卷四十一―五十八丁

〔内容〕 本文并図二七に同じ 序に「彼祖父の遺書を見出て故二位法印の御抄(幽齋抄)をかきましへつゝ此抄を編集す」とある 尚二七の卷末にある「百人一首作者之部類」は本書一卷凡例の間に付ける

五 基箭抄書入 写 一冊 三三三×二四二

〔別名〕 基箭抄〔著者〕 井上秋扇〔題箋〕 基箭抄書入〔内題〕 基箭抄〔序〕 寛文十二年（一六七二）九月廿七日 季吟

〔内容〕 小倉百首の注釈 改観抄板本系の本文を丁ごとに付箋する 一面十行 二百九丁 後見返しに「右百首抄者去年五月上旬祖父回忌為追悼書之以備牌前然処不意落干梓人手而見之行脱鳥焉誤字不少故重改正略加首書再令板行畢 寛文十三癸丑（一六七三）仲秋上旬 岐下秋扇叟艸之 右基箭抄并拾穂抄又三部抄合注再寫之其外予聞書等枚合者也 他見不許 干時文化三丙寅（一八〇六）夏書寫之一楓崩晒茶」とある

また「紙食二百九枚張紙ヲ数ニ入ルレバ凡ソ四百葉アリ」との付箋あり
弐 百人一首基箭抄 写 一冊 三・八×二・七
〔著者〕 井上秋扇〔題箋〕 欠（表紙に打付書で「百人一首基箭抄」）〔内題〕 基箭抄〔序〕 九月廿七日 季吟〔筆者・筆年〕未詳

〔内容〕 小倉百首の注釈書 一面九行 墨付百十五丁 序・増補は基箭抄と同じであるが 類歌を加え諸説を加えなどして本文は異なる 付箋に僧似雲の説等がある 末に「此一書は木むら重光の真蹟なり」とある
弐 百人一首心書 写 一冊 三・八×二・七
〔著者〕 未詳〔筆者〕未詳〔筆年〕江戸中期写か〔題箋〕欠（表紙に打付書で「寶曆元年（一七五一）百人一首心書」）

〔内容〕 小倉百首略解 一面十一行 墨付

三十五丁 料紙に雲母をひく

六 百人一首解 板 一冊 三・二×七・六
〔著者〕 栗本英暉〔成立〕寶曆六年（一七五六）自序（國總）〔題箋・内題〕百人一首解〔柱〕百人一首解 栗本蔵〔序〕曆も六まきかさなれるとしの夏源英暉近江国栗もとの里にてしるす〔寶曆六年（一七五六）〕・明和八年（一七七二）山岡俊明〔刊年・等〕明和八年辛卯七月出版 寛政十二年庚申（一八〇〇）九月求版 江戸書林 申椒堂 須原屋市兵衛・大坂書林 利涉堂 柏原屋嘉兵衛（書籍出版發行所 京都 大谷仁兵衛の印あり）序四丁 本文四十丁

〔内容〕 小倉百首略注 解釈形式は荻生徂来の「絶句解」にならったといわれる
六 百人一首古説 写 五卷五冊 三・二×二・四
〔著者〕 賀茂真淵〔校〕荷田在満〔題箋・内題〕百人一首古説〔筆者・筆年〕未詳〔序〕自序

〔内容〕 小倉百首の評釈并に作者の系譜をのせる 墨付 卷一 四十二丁・卷二 五十八丁・卷三 六十八丁・卷四 五十六丁・卷五 五十一丁
〔備考〕「初学」〔成立明和二年（一七六五）〕の草稿本 賀茂真淵全集に載せず 朱書入多し 一名を「伊爾志辺夫利」（福井）

六 宇比麻奈備 板 上中下合一冊 三・八×三・五
〔別名〕 百人一首初学〔題箋〕欠〔内題〕

宇比麻奈備〔のど〕初学〔著者〕賀茂真淵

〔題箋〕欠〔序〕自序〔跋〕明和のふたとしの冬（一七六五・成立）自跋〔刊年・等〕天明元辛丑年（一七八一）霜月 江戸須原屋市兵衛 京都 梅村三郎兵衛 一六七丁
〔内容〕 小倉百首の注釈書
〔備考〕㊦賀茂真淵全集四・増訂賀茂真淵全集一〇所収

三 宇比麻奈備（賀茂真淵全集）
〔著者〕 賀茂真淵〔編者〕国学院大学編輯部〔校訂者〕賀茂百樹〔刊年・等〕明治三十七年（一九〇四）十二月十八日 賀茂真淵全集第四所収
六 百人一首抄 写 一冊 三・八×三・二
〔筆者・筆年〕未詳〔題箋〕欠

〔内容〕 はじめに百人一首五箇大事・師伝・秘抄七首秘哥・同五首秘歌・百人一首秘抄・小倉山庄障子ノ色紙形ノ和歌を出す次に小倉百首の注釈をのせあとに古今伝授のことをつける 末に「明和四丁亥年（一七六七）冬十有一月吉旦」との書入がある 墨朱書入あり 一面十二行 墨付九十九丁
三 百人一首師傳秘説 写 一冊 三・八×三・五
〔著者〕 未詳〔筆者・筆年〕未詳〔題箋・内題〕百人一首師傳秘説

〔内容〕 小倉百首注釈書 一面九行 墨付七十四丁 後に作者部類を付ける（但し菅家以下の父子或三代入作者等はない）
〔備考〕後見返しに「大正元年（一九一三）

八月拾五日求ム 巖溪」とある

六 百人一首 写 一冊 三・五×六・七

〔著者〕未詳〔題箋〕欠〔表紙に打付書で
「百人一首」〕〔内題〕百人一首〔奥書〕寛
政六甲寅歳（一七九四）八月朔書寫畢
君中 小笠光明寺□寮所持

〔内容〕小倉百首の注釈書（但し、紀貫之
まで三十五人 以下欠）一面十行 墨付六
十七丁オ

七 百人一首筆記 写 一冊 三・三×二・五・九

〔筆者・筆年〕未詳〔題箋〕百人一首筆記全
〔内容〕小倉百首の注釈書 片仮名まじり
で書く 一面十二行 墨付四十七丁

〔備考〕扉に「此百人一首の寫本外類なし
寛政九年己（一七九七）ノ五月去御方ニ申
受候廿五歳之時 此本何方へもゆづる事無
用 本屋と而も調ひ不申候一寸もかし申間
敷候」とある

八 百人一首古註 写 一冊 三・三×二・九・八

〔著者〕未詳 〔成立〕未詳〔筆者〕未詳
〔題箋〕欠〔奥書〕「干時寛政十二庚申（一
八〇〇）閏四月吉日 此本ハ書主ハ何人ナ
ルヤ知ルニ由ナキハ誠ニ残念ノ事ナリ内容
ノ全体ニ於テ実ニ至レリツクセリ此後に於
テハ比類ナキ一物ナリ 此本ノ年号ハ今ヲ
去ル事老百五十年已前之者ナリ 天皇ノ御
時世ハ光格天皇ナリ 曆ハ天明 寛政ノ頃
ナリ 紀元二千五百八拾九年即チ昭和五年
（一九三〇）七月十日求之 京都市伏見区兩

替町拾貳丁目 三島庄治郎 雅号翠濤三島
家秘蔵書」とある

〔内容〕小倉百首注釈書 墨付六十七丁

はじめに「和歌傳來の血脉は二條家にお
て……相傳の階梯・やまとうた訓義・撰
集の沙汰・五首秘歌・七首師説・一首別傳
・四首外傳・心中秘密・百人一首・小倉の
心を等 卷頭天智天皇御製」作者の略伝并
歌の出典を出す 各歌の右上に長高体 幽
玄体 有心体等歌体を示す 書入多し

九 百人一首燈 板 上下二冊 三・四×六・四

〔著者〕富士谷御杖〔成立〕寛政十二年
（一八〇〇）〔題箋〕百人一首燈〔内題〕百
人一首ともしひ「おほむね」文化元年（一
八〇四）四月上流 たひらにすむ富士谷成
元しるす〔刊年・等〕文化元年甲子（一八
〇四）冬 發行所 京都 出雲寺文治郎等
三軒 上卷三十二丁 下卷二十九丁

〔内容〕小倉百首の注釈書

〔備考〕⑤富士谷御杖集二所収

十 百人一首講釋 写 一冊 三・三×二・二

〔筆者〕守保〔題箋〕百人一首講釋全
〔内容〕小倉百首の注釈 一面十六行 墨
付五十一丁 奥に「右百人一首 明德院様
御寫被遊候御本御座候所御姫様より百人一
首注本御所望被遊候付守保明德院様奉願
膳寫仕候而差上申候尤注之内文句等御了解
難被遊所者再注書入俗言をも相用差上候事
也 享和元酉年（一八〇一）九月廿七日収

筆」とある 朱書入あり

十一 百人一首峯梯 板 上下二冊 三・三×七・八

〔著者〕衣川長秋〔題箋〕百人一首峯の
かけはし〔内題〕百人一首峯梯〔見返し〕百
人一首峯のかけはし 衣川大人著 此書は
百人一首を俗言にて説するしたる書なり
製本弘所 書林 皇都 白玉房 文徳堂
華箋堂 吸古堂 大坂 文精堂〔柱〕百人
一首峯梯〔序〕文化二年といふとしの春む
つきかくいふは因幡国人佐治景嶺・本居大
平・享和元年（一八〇一）といふとしの十
二月かくいふは衣川長秋〔跋〕大杉繁〔刊
年・等〕文化三年寅（一八〇六）八月發行
弘所 書林 大阪 堺屋新兵衛等八軒 上
卷序三丁 本文卅四丁 下卷卅三丁 跋一
丁

〔内容〕小倉百首の注釈書 朱書入あり
〔備考〕⑥標註百人一首峯之梯（服部元彦
明治二五）（國總）

十二 小倉の山ふみ 板 一冊 三・一×二・一

〔別名〕小倉の山踏・小倉農山踏・小倉の
山婦美〔著者〕中津元義〔成立〕享和二年
跋（一八〇二）〔題箋〕百人一首小倉の山ふみ
全〔内題〕をくらの山ふみ〔柱〕小倉の山
踏〔見返し〕百人一首小倉の山ふみ 中津
元義著〔序〕本居春庭〔跋〕享和二年（一
八〇二）九月八日松蔭の屋の窓下に書をへ
つ 伊勢国松坂のほとりなる垣花里人中津
元義〔刊年・等〕享和三年癸亥（一八〇三）

三月発行 伊勢津 大森傳右衛門 弘所

尾張名古屋 風月孫助 伊勢松阪 柏屋兵

助 序二丁 本文二十六丁 跋二丁

〔内容〕 見返しに「此書は本居先生の古今集遠鏡に倣ひて門人中津氏これを譯せり歌のこゝろことばをうる事此書にしくものなし無智文旨の童といへとも一度見れば其こゝろをさとるなりまた哥をよむに今少しこゝろゆかずおもふ時に此譯しの格をもて俗言にうつし見る時は其誤たちまちしるくて己が歌を己となほすにいとよき便也初学の哥人求め給ひて其味をしり給ふへかし」とある

三 小倉の山ふみ 板 一冊 三・二×七・九

七二に同じ

〔備考〕 信友云等の朱書入多し

四 小倉の山ふみ 板 一冊 七・六×二・九

〔別名〕 〔著者〕 〔題箋〕 〔柱〕 〔序〕 〔内容〕 七二に同じ 〔見返し〕 百人一首小倉の

山ふみ 中津元義著 照古堂藏〔刊年・等〕

刊年未詳 発行書肆 大阪 河内屋喜兵衛

等十三軒 序三丁 本文廿七丁

五 小倉の山ふみ 板 一冊 六・八×三・六

七四に同じ 但し 〔題箋〕 〔見返し〕 欠〔刊年〕未詳

〔備考〕 七四跋文を本書の序に付ける

六 小倉の山ふみ 板 一冊 六×二・三・六

七四に同じ 〔見返し〕 但し色刷 〔刊年・等〕 刊年未詳 愛知県書肆 名古屋区 梶

田勘助

七 をぐらのやまぶみ 写 一冊（仮綴） 三・三

×七・三

〔別名〕 〔著者〕 〔序〕 〔内容〕 七二に同じ

〔備考〕 墨付六十七丁（最後の丁付六十五丁）巻末に「この一冊は伴氏の所蔵信友翁の朱筆もて諸処に書入し給へるをそのまゝに寫しぬ 明治九年（一八七六）霜ふり月尽の日写し早 宮田源景昌」とある 信友の考証所説が多く書入れられている 表紙に打付書で「をぐらのやまぶみ」とある

八 百人一首抄（國總）板 一冊 三・九×六・三

〔著者〕 石原正明 〔成立〕 享和四年跋 〔題箋〕 百人一首新抄 〔内題〕 百人一首 〔柱〕 百人一首抄 〔跋〕 享和四年甲子（一八〇四）

正月 自跋 〔刊年・等〕 刊年未詳 江戸 萬笈堂英平吉藏板 三十八丁

〔内容〕 小倉百首の注釈書 各歌のはじめに語釈を出しあとに歌意をのせる

〔備考〕 「尊為家卿真蹟本 石原正明大人注釋 百人一首新抄 小倉百首の註釋世にあまたありといへともふやうなる事のみおほく哥のこゝろをもあやまりあるは高きをつとめて親しからずあるはくはしきに過てくたゞし今此書はみやひたるこゝろこと葉を今の世の常語にときなし句ことに注解をくはへかつ一首のこゝろをときしめして初学の便とす 江戸書林 萬笈堂梓」とある

袋添付 巻末に「江戸本石町十軒店萬笈堂

英平吉和書目録」十三丁あり

九 百人一首抄 板 一冊 三・七×六・三

七八に同じ 〔題箋〕 百人一首新抄 〔内題〕 百人一首 〔見返し〕 七八添付の袋に同じ

但し東京書林 千鐘房 〔刊年・等〕 刊年未詳 書林 東京 須原屋茂兵衛藏

三十八丁

一〇 百人一首抄 板 一冊 三・四×七・九

七八に同じ 〔題箋〕 欠 〔刊年・等〕 天保五年午（一八三四）正月刻成 東都書林 上

総屋惣兵衛板等五軒

〔備考〕 墨 朱の書入あり 末に「古状揃講釋」等十点の出版目録を付ける

一一 百人一首新抄 写 一冊（仮綴） 三×五

〔著者〕 〔跋〕 〔内容〕 七八に同じ 〔筆者・筆年〕 未詳

〔備考〕 墨付三十八丁 表紙に打付書で「百人一首新抄 寫」とある

一二 百人一首抄 板 合一冊 三・六×六・四

〔著者〕 石原正明 富士谷成元

〔内容〕 百人一首抄 〔石原正明 享和四年甲子（一八〇四）正月（跋）〕と 百人一首

燈上・下 〔文化元年（一八〇四）冬 發行所 京都 出雲寺文治郎等三軒〕を それ

ぞればらし 二冊を各作者の個所に合せ一冊に合本した 書入多し 巻首七丁に補筆

あり 百七丁

〔備考〕 題箋「百人一首抄」の下に朱で小

さく「櫛乃屋文庫」とある

六三「小倉百首大意」写 一冊 三三・三三×三三・三三

〔筆者〕熊谷備傳〔筆年〕未詳〔題箋〕欠
〔奥書〕奥州會津深澤要人門人 松前福山
住 熊谷備傳之 干時文化元年（一八〇
四）寅九月吉且 伊東孝庵丈

〔内容〕小倉百首の注釈 後に小倉登端辨
跋書・よみやうの事を付ける 一面十一行
墨付百二十丁

〔備考〕書名は奥書の中「右小倉百首大意
者秘傳の書たる故……」よりとる

六四百人一首圖繪 板 一冊（雪の巻）三三・九×
一六

〔著者〕田山敬儀〔題箋〕元箋欠（書題箋
「百人一首圖繪 全」〔序〕文化四丁卯年
（一八〇七） 中秋下旬 自序・同年八月廿
二日 富小路殿 正三位刊部卿貞直〔扉〕
百人一首圖會〔成立〕文化四年（國總）

〔刊年・等〕未詳 序四丁 口絵見開き一
丁 本文六十五丁

〔内容〕小倉百首并肖像 人名の下に略伝
を付ける（一面一人を出す）後に「古説係
図」〔百人一首作者部類〕を付ける

六五百人一首圖繪 板 一冊 三三・四×一六・一

〔著者〕〔扉〕〔刊年・等〕〔内容〕八四に
同じ〔題箋〕百人一首圖繪 雪〔序〕文化
四丁卯年中秋下旬 自序・つけていふ
六 百人一首圖繪 板 雪月花三冊 三三・七×一六

〔著者〕田山敬儀〔題箋〕百人一首圖繪（雪

・月・花）〔見返し〕百人一首圖繪 田山
敬儀註釋 浪華前川文栄堂（雪の巻）〔扉〕
百人一首圖會〔序〕つけていふ（雪の巻）

文化四年（一八〇七）八月廿二日 富小路
殿 正三位刊部卿貞直・はつきのはしめ
おやまゆきのりしるす・文化四丁卯年中秋
下旬 田山敬儀記之（月の巻）〔刊年・等〕
刊年未詳 文栄堂蔵版 阪府書林 前川善
兵衛 雪の巻 序口絵三丁 本文六十五丁

・月の巻 序六丁 本文四十七丁・花の巻
四十八丁―百一丁

〔内容〕雪の巻 小倉百首并肖像 人名の
下に略伝をつける（一面一人を出す）後に
「古説係図」〔百人一首作者部類〕を付け
る 月・花の巻 見開き一丁（一人）歌・
出典并歌の意 下に図を出す

六七百人一首圖繪 板 一冊（花の巻）三三・八
×一六・一

〔著者〕田山敬儀註釋〔刊年・等〕文政五
壬午歳（一八二二）春三月 江戸書林 須
原屋茂兵衛 浪華書林 多田勘兵衛等五軒
四十九丁―百一丁

〔内容〕見開き一丁（一人）歌・出典并歌
の意、下に図を出す

〔備考〕表紙欠

六八百人一首梓弓 写 一冊 三三・三×一七・八

〔著者〕本居大平〔成立〕文化七年（一八
一〇）〔筆者〕未詳〔題箋〕百人一首梓弓
〔内容〕百人一首あさつ弓〔筆年・等〕本

居大平大人のかゝれたる書紙を以即うつし
ぬ安政六年（一八五九）六月はかり（後表
紙裏）

〔内容〕小倉百首片仮名交りの解釈書 一
首の最後に本歌あるいは類似の歌をのせる
一面十行 墨付六十三丁

〔備考〕㊦本居宣長全集本居大平全集・増
補本居宣長全集本居大平全集所収

六九百人一首あつさ弓（本居全集）

〔著者〕本居大平〔校訂者〕本居豊穎〔刊
年・等〕明治卅六年（一九〇三）二月五日
名古屋 片野東四郎 本居全集第六所収

七〇小倉山假庵抄 謄写（碧沖洞双書）

〔別名〕百人一首假庵抄〔著者〕小野高潔
〔成立〕文化九年（一八一二）自序〔写・
編者〕築瀬一確〔刊年・等〕昭和四十三年
（一九六八）十二月二十日 愛知県 築瀬
一雄 碧沖洞双書第八十四輯所収

〔内容〕小倉百首の注釈書「はじめに重浪
翁の序と 細書の解説があり、末尾に 文
化八年（一八一二）五月の高潔の自跋と
藤原添氏の天保元年（一八三〇）の書写奥
書がある」（築瀬）

七一百首異見 板 五卷五冊 三三・四×一六・五

〔著者〕香川景樹〔成立〕文化十二年（一
八一五）（國總）〔題箋〕百首異見〔序〕文
政庚辰（三年・一八二〇）春二月 平景晃
婦一桂直行書・正五位下行神祇権大祐兼筑
前守中臣連胤・文化九年（一八一二）の秋

居大平大人のかゝれたる書紙を以即うつし
ぬ安政六年（一八五九）六月はかり（後表
紙裏）

平の直好しるす〔跋〕文化の十二年しはすなぬかの日にしるしをはんぬ自跋〔後序〕門人 菅名節撰〔刊年・等〕東塙塾蔵 文政六年癸未（一八二三）七月刻成 弘所書林 江戸 須原屋茂兵衛 浪華 秋田屋太右衛門 京師 河南儀兵衛等三軒 卷一 卷首十一丁 本文五十丁・卷二 五十二丁・卷三 四十五丁・卷四 五十三丁・卷五 五十三丁・後序二丁

〔内容〕小倉百首の注釈書 跋に「今此書に契沖阿闍梨の改觀抄真淵翁の初学をのみ事として挙たるは門人熊谷直好が此二書のよしあしを問しにこたへつるをもととして書つゝけ侍れば也……」とある

三 百首異見 板 五卷五冊 三・五×六

〔著者〕〔題箋〕〔序〕（但し九一の〔後序〕はここに入る）〔跋〕〔内容〕九一に同じ〔見返し〕香川景樹大人著 百首異見 全五冊 東塙塾蔵〔刊年・等〕嘉永三年庚戌（一八五〇）春 弘所書林 江戸 岡田屋嘉七等二軒 大坂 河内屋喜兵衛 皇都 出雲寺文治郎 卷一 卷首十三丁 本文五十丁・卷二 五十丁・卷三 四十五丁・卷四 五十三丁・卷五 五十三丁（卷末に「香川景樹大人著述」書目あり）〔備考〕卷三・四・五の卷末に出雲寺松栢堂出版目録を付ける

三 百人一首解 写 一冊 三×九・三

〔著者〕芝山持豊（一七四二—一八一五）

小倉百人一首

（口授）〔筆者・筆年〕未詳〔題箋〕百人一首解 故芝山持豊卿御口授全〔内題〕小倉山莊色紙形和歌

〔内容〕小倉百首の注釈書 墨付百四丁

三 百人一首芝釈 騰写（碧沖洞双書）

〔著者〕芝山持豊〔写・編者〕築瀬一確〔刊年・等〕昭和四十四年（一九六九）七月二十八日 愛知県 築瀬一雄 碧沖洞双書第八十五輯所収

〔内容〕九三に同じ

三 百人一首解 写 乾・坤二冊 三×六・三

〔筆者〕源国雄〔題箋〕欠表紙に打付書で「百人一首解」とある〔内題〕百人壹首諺解〔序〕自序

〔内容〕小倉百首注釈 一面九行 墨付 乾 序十丁 本文五十二丁・坤六十八丁

朱書入あり 序に「藤原の利貞といふ人何くれの国つ学ひするにつけて先は近く世にもてはやせる此ふみの後の世こゝろをおきてあらくもしるしてよとあるにおのれさる器ならねはかねてきゝおけるおもむきをいさゝ計書つけぬ……時はもむけのとをみとせき月たちての後日の数五日計りをもて書をへつ〔文化十三年（一八一六）〕源国雄」とある

三 百人一首嵯峨の山ぶみ（國總）板 上中下三冊 三×七・八

〔別名〕嵯峨の山ぶみ〔著者〕斎藤彦麻呂〔題箋〕上巻 嵯峨能山布見・中巻 さかの

やまふみ・下巻 嵯峨の山婦美〔柱〕さかの山ぶみ〔序〕源元凱・文化十三年（一八一六・成立）の冬 自序〔跋〕木川勝子・文化十三年初冬 村上真澄〔刊年・等〕芦之飯庵蔵板 書肆〔江戸〕英平吉 山田佐助 製本所 同松屋要助 上巻序凡例七丁 本文二十六丁 中巻 三十一丁 下巻 二十六丁 跋四丁「芦之飯庵老翁著述書目」二丁

三 百人一首嵯峨の山ぶみ 板 上中下三冊 三×六・三

〔内容〕小倉百首の注釈書 九六に同じ但し 中巻廿八丁の（伊勢大輔 個所）上部欄外に「懷仁天皇也大御父円融院大御母東三條院詮子永延二年より寛弘八年迄の間なり」を付ける 朱書入多し

三 百人一首嵯峨の山ぶみ 板 上中下合一冊 三×六・七・三

九六に同じ（但し縦・横を切り落しやや小型とする）〔刊年・等〕刊年未詳 東都書林〔江戸〕岡田屋嘉七

〔備考〕九六・九七下巻末にある「芦之飯庵老翁著述書目」を欠き「官許日光山志全五冊」の広告を付ける

三 百首贅々 洋 一冊 三・八×五・三

〔著者〕中井履軒（一七三二—一八一七）〔序〕自序〔刊年・等〕明治二十五年（一八九二）十一月十五日 東京 博文館 八十四頁

〔内容〕はじめに「百首考」を出す 小倉

百首の考証 書入あり

一〇〇 百人一首抄 板 一冊 三三・四×六・九

〔著者〕 長野美波留〔成立〕 文政二序（一八一九）〔題箋〕 百人一首抄〔序〕 文政二年自序〔刊年・等〕 刊年未詳 麻生園 五十二丁

〔内容〕 小倉百首の注釈 序に「縣居の翁のかうかへをかた木にものし」とある 下段に小倉百首并肖像 出典 歌の意 略伝 を出す（一面に一人）上段 三十六人撰・若菜事・子日事・玉箒之事・曲水ノ宴・草餅・五月五日獻菖蒲支・菜玉函・六月板・七月七日乞巧奠事・重陽宴九月九日・追儼をのせる

一〇一 百首集註（百人一首醉月抄） 騰写（碧沖洞双書）

〔著者〕 森嘉基〔成立〕 文政四年（一八二一）〔写・編者〕 築瀬一雄〔刊年・等〕 昭和四十三年（一九六八）九月十五日 愛知県 築瀬一雄 碧沖洞双書第八十三輯所収〔内容〕 小倉百首の注釈書 序に「此小倉百首ハさきくのよき註釈とものよきをあつめわろきをすて、新なるよき考ともを加へて 今ハけに大かたあかぬ所もなくなり見ゆるハあハれいとをかくしめてたきふみならずや……文政五年四月 鈴木朗」とある

一〇二 小倉百首摘要抄 板 上下二冊 三三・四×六

一

〔別名〕 小倉百首略解〔著者〕 深田正詔〔成立〕 文政十年刊（一八二七）〔題箋・内題〕

小倉百首摘要抄〔刊年・等〕 刊年未詳 新古書籍賣捌処 名府書肆 美濃屋伊六 美濃屋文次郎 上巻凡例三丁 本文三十二丁 下巻三十三・六十三丁

〔内容〕 小倉百首の略解
〔備考〕 凡例中に「別に小倉百首余言といふ一卷をしるしたればこの巻にはもらしつ」とある

一〇三 小倉百首摘要抄 板 上下二冊 三三・五×六

一〇二に同じ 但し〔題箋・内題〕 小倉百首略解〔刊年・等〕 明治廿一年（一八八八）十一月十五日再版 改題印刷 同年十一月廿七日發行 名古屋区 三輪文次郎

一〇四 百人一首言靈抄 板 一冊 三三×六・二

〔著者〕 藤原（木門）保之〔成立〕 天保三年〔題箋〕 □□□すさひ百人一首言靈抄〔内題〕 百人一首言靈抄〔のど〕 百言靈〔序〕 天保三とせといふ歳の長つき（一八三二）自序〔刊年・等〕 天保三年壬辰十二月 発行書林 江戸 和泉屋庄治郎 大坂 小川源兵衛等二軒 皇都 野田嘉助等二軒 二十一丁

〔内容〕 小倉百首の簡略な注釈書 巻頭文に「契沖あさりかも真淵本居宣長ふた大人の説にもとつきまさしきすらを考へて誰もわかちやすくものしてことの葉の道のしを

りとはなしつるに」とあり「ことたまの妙なる光りあふぎしるちよろつ代世の御路の百草」の歌がある

〔備考〕 巻末に「皇国歌十三巻」を付ける
一〇五 百人一首一夕話 板 九巻九冊 三三・三×七

〔別名〕 百人一首比登与俄哆里〔著者〕 尾崎雅嘉〔図〕 大石真虎〔彫工〕 京都 井上治兵衛 樋口與兵衛〔成立〕 天保四刊（一八三三）〔題箋〕 百人一首一夕話〔序〕 花園三位公燕卿 波龍主人〔題字〕 小竹散人〔跋〕 長門介景樹〔刊年・等〕 天保四年癸巳 秋新刻 浪華書肆 敦賀屋九兵衛梓他十三軒 卷一（序三丁 本文五十一丁）卷二（五十四丁）卷三（五十四丁）卷四（五十四丁）卷五（五十五丁）卷六（四十七丁）卷七（五十三丁）卷八（五十二丁）卷九（六十二丁）

〔内容〕 小倉百首の注釈 作者の事曆逸話に挿絵を入れて記したもの

〔備考〕 日本歴史学会一二所収（國總）
標註 百人一首一夕話 洋 上中下三冊 一九・三×三・一

〔著者〕 尾崎雅嘉〔標註者〕 竹田晨正〔序〕 花園三位公燕卿 波龍主人・明治廿四年（一八九一）の秋 竹廼家のあるじ〔跋〕 長門介景樹〔刊年・等〕 明治二十六年（一八九三）七月十一日 名古屋 共同出版社 上巻序・目録十頁 本文二百九十六頁・中巻

二百九十八頁 下卷二百九十六頁 跋三頁

〔内容〕 一〇五に標註を加えたもの

二〇七 百人一首一夕話 洋 一冊 七・二〇・三

〔著者〕 尾崎雅嘉〔校訂〕塚本哲三〔刊年

・等〕昭和二年（一九二七）三月二十日

東京 有朋堂書店 七七二頁 有朋堂文庫

二〇八 百人一首一夕話 洋 上下二冊 一四・八・二〇

〔著者〕 尾崎雅嘉〔校訂者〕古川久〔刊年

・等〕上卷昭和四十七年（一九七二）十二

月十六日 下卷昭和四十八年一月十六日

東京 岩波書店 上卷四二七頁 下卷三五

八頁 岩波文庫

二〇九 百人一首翼裘 写 一冊 二五・三・二六・九

〔著者〕 梶田亀齋〔題箋〕百人一首翼裘

〔序〕 あめたもつ八とせといふとしの秋の

なかはかきをへぬ（一八三七）自序

〔内容〕 小倉百首の注釈 一面十一行 墨

付六十四丁

〔備考〕 書入あり 三輪田高房（一八二三

一）署名ある旧蔵本

二一〇 百首正解 板 地人 二冊（天部欠）二五・七

×二・三

〔著者〕 杉庵志道〔題箋〕百首正解〔刊年

・等〕崇山堂蔵 於丹波国多紀郡大山官邑

園田貞和許 天保九戊戌歳（一八三八）弥

生日 七十三歳書 地三十六丁 人三十四

丁

〔内容〕 小倉百首の詳解 頭書に作者の略

小倉百人一首

伝・解義の余意・嵐吹紅葉之図等をのせる

〔備考〕 卷末二丁に「杉庵志道大人書目録」

を付ける◎安房先賢遺著全集所収（國總）

二 百人一首明解 写 上下二冊（仮綴）三・九

×二・三

〔筆者・筆年〕未詳（江戸末期写か）

〔内容〕 小倉百首の注釈 一面十行 墨付

上卷五十八丁 下卷五十丁

〔備考〕 仮表紙に「百人一首明解上・下

天保九戊（一八三八）閏四月 西照寺蔵

とある

二一三 百首要解（未刊国文古註釈大系）

〔著者〕 岡本保孝〔序〕天保十年（一八三

九）六月 自序〔編者〕吉沢義則〔刊年・

等〕昭和十二年（一九三七）十一月五日

東京 帝国教育会出版部 未刊国文古註釈

大系第七冊所収

〔内容〕 小倉百首の注釈『契沖の改観抄や

真淵の初学等の所説を参酌したもので最初

に「今その歌のすぢをのみ一わたりいひと

ほしてみつる也」とあるのは撰者自らが本

書の内容方針を述べたものである』（大系

・解題）

二二三 小倉百首峯紅葉 板 二冊 二五・七・二九・五

〔別名〕 百人一首峯楓葉（國總）

〔著者〕 六人部是香〔題箋〕欠（表紙に打

付書で「六人部是香著 小倉百首峯紅葉」

とある）〔内題〕小倉百首峯紅葉〔柱〕峯の

もみち葉〔刊年・等〕未詳 一卷四十三丁

二卷四十八丁

〔内容〕 小倉百首の注釈 書名は「心なき

露のしわざもをぐら山そめて色こき峯のも

みち葉」の歌に由る

〔備考〕 ◎「天保十三年（一八四二）脱稿

弘化四年（一八四七）浄書 安政五年（一

八五八）加賀の高島米積之が序をつくる」

（福井）本書には序はない 見返しに題書

難波天満天神社司滋岡従長と書かれてあ

る

二一四 百人一首女訓抄 板 一冊 一六・三・三

〔著者〕 山田常典〔画〕廣重〔成立〕嘉永

元年序〔題箋〕百人一首女訓抄全〔見返し〕

百人一首女訓抄〔序〕嘉永元年（一八四八）

五月 永野文雄〔刊年・等〕嘉永□□（二

年か）正月再刻 東都書肆 頂恩堂 本屋

又助梓 卷首十一丁 本文五十丁

〔内容〕 小倉百首の注釈并肖像 右短冊型

に歌を出し 左に歌の意をのせ 下に肖像

を画く

〔備考〕 別に「廣重画 百人一首女訓抄

全一冊」とある袋添付の一本がある

二一五 百人一首筆記 写 三冊（仮綴）上卷三・四

×二・二 中・下卷二・八・七

〔筆者〕 直志〔奥書〕嘉永二乙酉（一八四

九）仲夏親師吟松亭講下 男直志謹而筆記

訖努々不許他見

〔内容〕 巻頭に「百人一首筆記 弘化二年

十月五日夜開筵 講師親師吟松亭宗匠 校

聴者廣岡成明 吉井元寿 石割治卿 島津久留 六條日應今夕欠席 直志謹而筆授」とある 百人一首拾穂抄・定家卿系図・二

に「老筆を厭す震ひかきして孫共に與ふ事爾り」とある

欠

〔内容〕 はじめに人名 歌の読みくせをのせ 初句を出し 百首の出典并略註を記した墨付二十四丁

條家冷泉家之事・百人一首ヨミクセ・小倉百首の注釈 一面十一行 墨付上卷三十二丁中卷十六丁 下卷十六丁

〔著者〕 東澤瀉（一八九一歿）〔題箋〕百人一首一読笑東澤瀉著 乾坤〔序〕戊子晚秋澤瀉山人識〔筆年〕未詳

二三 百人一首解 写 一冊 三〇四×一九・三

〔筆者・筆年〕未詳〔題箋〕百人一首解〔内題〕百人一首

〔備考〕 仮表紙に「小倉百首秘説筆記」とある

〔内容〕 小倉百首の略注 はじめに作者の略伝を出す 歌は萬葉仮名で書く 頭書に地名の説明 語釈をのせる 墨付 上卷十五丁 下卷二十一丁（帙入）

二六 百人一首聞書之内 写 一冊（仮綴）三・五×一六・三

〔備考〕 附「羅浮幻質 周履請編述」（自筆）十七丁あり

二四 百人一首 写 一冊（仮綴）三・七×一六・九

〔内容〕 小倉百首注釈書 一面十行 墨付百二丁 朱書入多し

〔筆者〕 廣岡成明

〔著者〕 未詳〔題箋〕百人一首〔筆者〕保崎千勢〔筆年〕未詳

〔内容〕 小倉百首講義の筆記 仮表紙に「弘化二乙巳十二月十五日納会 廣岡成明」とある 一面十四行 墨付二十一丁

二〇 小倉百首童蒙訓 （田安宗武）

〔内容〕 はじめに和歌相伝の階梯等を記し 定家卿のこと 花実のことを出し 百首の歌意をしるす 中に朱を以て秘説を書入れる 歌の上に幽玄体 有心体 長高体等を入れる 一面十四行 墨付百四丁

二七 越路の家つと（橘守部全集）

〔著者〕 田安宗武（一七一五―一七七二）

〔別名〕 越路の家苞・越廼家土産・百首緊要

〔編者〕 土岐善麿〔序〕権中納言宗武〔刊年・等〕昭和十八年（一九四三）五月二十五日 東京 日本評論社 田安宗武 四冊 本の中第二冊所収

〔著者〕 橘守部

〔内容〕 小倉百首注釈書 ⑧小倉百首解（土岐善麿著 田安宗武第二冊所収）

〔内容〕 小倉百首注釈

二五 小倉山荘色紙和哥 写 一冊 三・五×一六・四

〔著者〕 未詳〔題箋・内題〕小倉山荘色紙和哥〔筆者・筆年〕未詳

〔備考〕 ⑧橘守部全集四所収

〔内容〕 小倉百首并略解 一面九行 墨付三十六枚

二八 百人一首家語集解 写 上下二冊 二函・五×一五・四

二三 百人一首抄 綴写 一帖 三六×二六

二六 國花菴百人一首説 写 一冊 三〇八×三〇

〔著者・筆年〕 未詳〔題箋・内題〕百人一首家語集解 乾・坤〔序〕自序〔跋〕嘉永第四次辛亥年（一八五一）初秋下旬 七八翁書之

〔著者〕 未詳〔筆者・筆年〕未詳〔題箋〕欠

〔筆者・筆年〕未詳〔題箋〕欠（表紙に打付書で「國花菴百人一首説」とある）〔内題〕百人一首

〔内容〕 小倉百首の注釈 一面九行 墨付上卷四十八丁 下卷四十五丁

〔備考〕 表紙に打付書で「百人一首抄」とある 卷末に「為愚息兩人奉公字文題書籍要言詠五十首和哥」八丁を付ける

〔備考〕 下巻頭に「増澤家蔵」の書入 跋

三三 百人一首略解 写 一冊 一五・五×二〇・五

二七 早解 百人一首 板 一冊 一六・三×三・二

〔備考〕 未詳〔筆年〕江戸末写か〔題箋〕

〔内容〕 小倉百首注釈 一面十一行 墨付六十八丁 書入あり

〔備考〕 未詳〔筆年〕

〔著者〕 未詳〔筆年〕

〔著者〕 未詳〔筆年〕

〔備考〕 未詳〔筆年〕

〔著者〕 未詳〔筆年〕

〔著者〕 未詳〔筆年〕

〔著者〕 寶田千町〔題箋〕 早解 百人一首
全〔柱〕 百人初―百人十〔序〕 版元錦耕堂
(見返し個所) 〔刊年・等〕 刊年未詳
書肆 地本問屋 戸山 山口屋藤兵衛版 卷首二
丁 本文九十八枚

京 博文館 二九七頁
三三 釵頭 百人一首講義 洋 一冊 三・三×五・二
〔著者〕 伊澤孝雄〔扉〕 頭書 百人一首講義
伊澤孝雄著述 三叢館発行〔刊年・等〕 明
治廿七年(一八九四)五月十五日 大阪
伊澤駒吉 百三十四頁

支店(東京) 百二十四頁
三六 百人一首註解 洋 一冊 三・二×四・八
〔著者〕 津川米次郎〔編〕 京都歌学研究会
〔刊年・等〕 大正二年(一九一三)七月十
五日五版 東京 修学堂書店 二八九頁
新撰百科全書第七拾七編

〔内容〕 小倉百首 人名・略注を前にかか
げ歌をあとに出す 卷首に百人一首和歌出
処之記 玉蘭斎貞秀画の定家卿小倉の山荘
時雨亭の図をのせる

三三 標 百人一首講義 洋 一冊 三・五×四・五
〔著者〕 福井淳〔刊年・等〕 明治三十二年
(一八九九) 十月十日十版〔初版明治二十
七年(一八九四)六月〕 大阪市 鈴木常松
百三十三頁

三六 百人一首物語 洋 一冊 一・九×三・五
〔著者〕 吉井勇〔刊年・等〕 大正八年(一
九一九)一月四日 東京市 天佑社 二四
六頁

三二 小倉のやまくち 洋 一冊 一・九×三・八
〔著者〕 田所千秋〔扉〕 小倉の山口完〔刊
年・等〕 明治廿三年(一八九〇)十月十八
日再版〔初版明治廿二年(一八八九)四月
十五日〕 東京 大八洲学会 百六十頁

三三 衛生評釋百人一首 洋 一冊 一・七×三・七
〔著者〕 糸左近〔刊年・等〕 明治四十一年
(一九〇八) 十二月七日 東京 東京堂書
店 一〇〇頁

三六 百人一首物語 洋 一冊 一・九×三・九
〔著者〕 吉井勇〔刊年・等〕 大正九年(一
九二〇)十二月十五日四版 二四八頁
〔内容〕 一三八に同じ 但し巻頭に解題を
付ける

三三 百人一首略解 洋 一冊 三・七×五
〔著者〕 下野遠光〔刊年・等〕 明治廿六年
(一八九三) 六月十日五版〔初版明治廿五
年二月二日〕 東京 博文館 一六八頁 女
学全書第二編

三三 百人一首通解 活 一冊 一・六×四・七
〔著者〕 渡辺又次郎 渡辺光風 平井頼吉
〔刊年・等〕 明治四十二年(一九〇九)十
二月六日六版 印刷 同年同月十日発行
東京・大阪 井上一書堂 百七十三頁

三六 小倉百人一首 活 一冊 一・五×二・六
〔著者〕 竹原光造〔題箋〕 小倉百人一首新
解〔扉〕 小倉百人一首新解 竹原光造先生
著 宝文庫〔解題〕 大正八年(一九一九)
十一月 著者識〔刊年・等〕 大正十四年
(一九二五) 十一月二十日五版発行〔初版
大正九年三月三日〕 東京 大洋社 百頁

三三 標 百人一首詳解附小伝・歌人心得・諸礼式
洋 一冊 三・五×五・五

三三 百人一首通俗解 洋 一冊 三・三×五
〔著者〕 中村謙三〔編者〕 大阪毎日新聞学
芸部〔刊年・等〕 明治四十二年(一九〇九)
十二月廿五日再版〔初版同年同月二十日〕
大阪市 大阪毎日新聞社 鐘美堂本店 同

三六 精註 百人一首新釋 洋 一冊 一・六×二・三
〔著者〕 新井誠夫〔刊年・等〕 大正十四年
(一九二五) 十月廿日再版〔初版大正十四
年九月十日〕 東京 文陽堂書店 本文三〇
二頁 附録二三頁

三三 百人一首講義 洋 一冊 一・九×三・八
〔著者〕 佐々木信綱〔刊年・等〕 大正三年
(一九一四) 十一月十日十二版発行〔初
版明治二十七年(一八九四)一月四日〕 東
大阪市 大阪毎日新聞社 鐘美堂本店 同

三三 小倉百人一首俗解 洋 一冊 三・三×五
〔著者〕 中村謙三〔編者〕 大阪毎日新聞学
芸部〔刊年・等〕 明治四十二年(一九〇九)
十二月廿五日再版〔初版同年同月二十日〕
大阪市 大阪毎日新聞社 鐘美堂本店 同

三六 小倉百人一首 活 一冊 一・五×二・六
〔著者〕 竹原光造〔題箋〕 小倉百人一首新
解〔扉〕 小倉百人一首新解 竹原光造先生
著 宝文庫〔解題〕 大正八年(一九一九)
十一月 著者識〔刊年・等〕 大正十四年
(一九二五) 十一月二十日五版発行〔初版
大正九年三月三日〕 東京 大洋社 百頁

- 〔備考〕 凡例に「百人一首の歌人を彷彿させるために勝川春章筆の肖像画を挿入した」とあるが画はない
- 一四 百人一首山彦抄 洋 一冊 一九・三×三・八
〔著者〕 物集高見〔刊年・等〕 大正十四年（一九二五） 十二月二十日 東京 嵩山房 二〇一頁
- 一五 百人一首夜話 洋 一冊 一九・一×三
〔著者〕 吉井勇〔刊年・等〕 大正十五年（一九二六） 十一月十日 東京 交蘭社 二二頁
- 一四 百人一首の解釈と鑑賞 洋 一冊 一六・七×三
〔著者〕 秋葉環〔刊年・等〕 昭和三十六年（一九六一） 十二月一日訂正九版〔初版昭和三十年（一九三〇） 四月十五日〕 東京 明治書院 二五三頁
- 一五 百人一首の講義 洋 一冊 一九・二×三・八
〔著者〕 生田蝶介〔刊年・等〕 昭和六年（一九三一） 一月一日 東京 立命館大学出版部 二八九頁 生田蝶介作歌参考双書第六編
- 一六 百人一首講義（むらさき）
〔著者〕 今井邦子〔編者〕 紫式部学会〔刊年・等〕 昭和十五年（一九四〇） 一月一日 趣味と教養むらさき 第七巻第一号 新年特輯号所収
- 一七 小倉百首通解 洋 一冊 一六・九×三・九
〔著者〕 中島清作〔刊年・等〕 昭和十五年（一九四〇） 四月三日 紀元二千六百年記念出版 草川会 瑞穂会（非売品・三百部印刷） 京都 大前寿夫 一三五頁
- 一八 七家輯叙小倉百人一首 活 一冊 三・四×六
〔編者〕 早川自照〔刊年・等〕 昭和十五年（一九四〇） 十二月廿五日 大阪市 淡心洞（非売品） 一一三丁 定家卿七百年記念七百部限定出版
- 一九 小倉百人一首 洋 一冊 一四・九×二・六
〔著者〕 中島悦次〔刊年・等〕 昭和十八年（一九四三） 二月二十日 東京 研究社 二二二頁 研究社学生文庫三四三
- 二〇 百人一首の鑑賞 洋 一冊 一六・六×三・七
〔著者〕 生田蝶介〔刊年・等〕 昭和十八年（一九四三） 十二月五日 京都 立命館出版部 二六三頁
- 二一 評釈伝記小倉百人一首 洋 一冊 一六・四×三・五
〔著者〕 清水正光〔刊年・等〕 昭和二十三年（一九四八） 四月十五日 東京 大日本雄辯會講談社 二五五頁
- 二二 小倉百人一首評解 洋 一冊 一六・五×三・八
〔著者〕 中島悦次〔刊年・等〕 昭和二十八年（一九五三） 十一月二十五日〔初版昭和二十四年（一九四九） 十一月三十日〕 東京 蒼明社 一九四頁
- 二三 百人一首精説 洋 一冊 一六・五×三・四
〔著者〕 松田好夫〔刊年・等〕 昭和二十四年（一九四九） 十二月十日 名古屋 正一堂書店 二七八頁
- 二四 小倉百人一首 洋 一冊 一六・三×三・九
〔著者〕 高木東一〔刊年・等〕 昭和二十六年（一九五二） 十二月五日 東京 光風館 一六六頁
- 二五 評釈小倉百人一首 洋 一冊 一六・八×三
〔著者〕 木俣修〔刊年・等〕 昭和二十七年（一九五二） 十一月十五日 大日本雄辯會講談社 百九十四・四十八頁 卷末付録 かるた早取法 実用家庭百科11
- 二六 小倉百人一首 洋 一冊 一六・五×三
〔著者〕 平井勲〔刊年・等〕 昭和二十七年（一九五二） 十一月二十五日六刷（初刷同年同月十五日） 東京 虹有社 一四九頁
- 二七 鑑賞小倉百人一首新講 洋 一冊 一六・二×三・七
〔著者〕 平井孝一〔刊年・等〕 昭和二十七年（一九五二） 十一月二十五日 東京 博文堂図書株式会社 一二二頁
- 二八 新百人一首精解 洋 一冊 一五・七×九・五
〔著者〕 鴻巣盛廣〔刊年・等〕 昭和三十三年（一九五八） 一月十五日五十版〔初版昭和二十七年（一九五二） 十二月二十日〕 東京 精文堂書店 一九〇頁
- 二九 新講百人一首評釈 洋 一冊 一六・四×三
〔著者〕 溝江徳明〔序〕 昭和二十五年十一月 佐佐木信綱・同年 自序〔刊年・等〕 昭和二十八年（一九五三） 十一月十八日 東京 杉山書店 三二四頁 付集別百人一首

索引

一〇 文法 小倉百人一首 洋 一冊 六・三×三・九

〔著者〕 田中重太郎〔刊年・等〕 昭和二十九年(一九五四)九月一日 京都 初音書房 六十七頁 増訂版

二 要解 小倉百人一首 洋 一冊 六・二×三・六

〔著者〕 田中重太郎〔刊年・等〕 昭和三十一年(一九六〇)十一月五日 京都 初音書房 六十七頁

三 小倉百人一首新釈 洋 一冊 六・六×三・九

〔著者〕 小高敏郎 犬飼廉〔刊年・等〕 昭和三十年(一九五五)十一月十日 第二刷(第一刷 昭和二十九年十二月五日) 東京 白揚社 二九五頁 表二枚

四 百人一首新解 洋 一冊 六・二×三・八

〔著者〕 今井福治郎〔刊年・等〕 昭和二十九年(一九五四)十二月十五日 東京 文源堂 百六十八頁

五 百人一首 洋 一冊 六・七×三・三

〔著者〕 平井勲〔刊年・等〕 昭和三十年(一九五五)十一月十五日八刷(初刷昭和三十一年十一月十日) 一四九頁

六 百人一首の鑑賞 洋 一冊 六・二×三・八

〔編者〕 旺文社〔刊年・等〕 昭和三十一年(一九五六)一月一日 六十四頁 高校時代一月号第二付録

七 百人一首の解説と鑑賞 洋 一冊 七・八×三・三

〔編者〕 旺文社〔刊年・等〕 昭和三十一年(一九五六)一月一日 六十四頁 高校時代一月号第二付録

八 百人一首の解説と鑑賞 洋 一冊 七・八×三・三

〔編者〕 旺文社〔刊年・等〕 昭和三十一年(一九五六)一月一日 六十四頁 高校時代一月号第二付録

九 百人一首の解説と鑑賞 洋 一冊 七・八×三・三

〔編者〕 旺文社〔刊年・等〕 昭和三十一年(一九五六)一月一日 六十四頁 高校時代一月号第二付録

(一九五六) 一月一日 高校時代一月号第三付録 六十四頁

一〇 百人一首評解 洋 一冊 六・二×三・三

〔著者〕 石田吉貞〔刊年・等〕 昭和四十三年(一九六八)九月二十日 十八版〔初版昭和三十一年(一九五六)四月十日〕 東京 有精堂 二九三頁

一一 小倉百人一首の講義 洋 一冊 一五・九×九・五

〔著者〕 金子武雄〔刊年・等〕 昭和三十一年(一九五六)十一月五日 第六版 東京 大修館書店 二六一頁

一二 百人一首 洋 一冊 一七・九×一〇・七

〔著者〕 志村文蔵 志村建世〔刊年・等〕 一九六六年三月二十日 重版〔初版一九五七年十二月五日〕 東京 野ぼら社 二三八頁 (特集 暗記用音別一覽)

一三 全釈小倉百人一首 洋 一冊 三・五×六・八

〔著者〕 曾沢大吉〔刊年・等〕 一九六七年十月 十九版〔初版一九五八年十二月十五日〕 東京 福音館書店 二五二頁

一四 小倉百人一首俗訳浮世草紙 洋 一冊 六・二×三・八

〔編者〕 清原進〔刊年・等〕 昭和三十五年(一九六〇)八月八日 高松市 清原進(非売品) 一一九頁

一五 小倉百人一首 洋 一冊 一四・六×一〇・二

〔文〕 保永貞夫〔画〕 岡野謙二〔刊年・等〕 昭和三十六年(一九六一)一月一日 東京 学習研究社 九十五頁 コース名作教養文庫(中学三年コース新年号第3付録) 九十五頁

一六 百人一首で覚える古典文法 洋 一冊 六・二×三・三

〔著者〕 橘誠〔刊年・等〕 昭和四十五年(一九七〇)八月一日 十九版〔初版昭和三十六年(一九六一)六月三十日〕 東京 明治書院 二四九頁

一七 解説と鑑賞小倉百人一首 洋 一冊 六・二×三・六

〔著者〕 三木幸信〔刊年・等〕 一九六三年四月十日 七版〔初版一九六二年十月二十日〕 京都 京都書房 一一三頁

一八 百人一首新解 洋 一冊 六・三×三・三

〔著者〕 垂水正〔刊年・等〕 昭和三十八年(一九六三)十二月一日 大阪 学修社 一七六頁

一九 小倉百人一首 洋 一冊 一八・八×三・九

〔著者〕 鈴木知太郎〔刊年・等〕 昭和四十年(一九六五)十一月十日 東京 さるびあ出版 二七九頁

二〇 小倉百人一首 洋 一冊 六・八×三・八

〔著者〕 鈴木知太郎〔刊年・等〕 昭和四十六年(一九七一)十一月二十日 新訂版〔初版昭和四十四年(一九六九)十二月二十日〕 東京 桜楓社 二七九頁(現代の教養三十六)

二一 百人一首の世界 洋 一冊 六・七×三・一

〔著者〕 久保田正文〔刊年・等〕 昭和四十年(一九六五)十一月十日 東京 さるびあ出版 二七九頁

二二 百人一首の世界 洋 一冊 六・七×三・一

〔著者〕 久保田正文〔刊年・等〕 昭和四十年(一九六五)十一月十日 東京 さるびあ出版 二七九頁

二三 百人一首の世界 洋 一冊 六・七×三・一

〔著者〕 久保田正文〔刊年・等〕 昭和四十年(一九六五)十一月十日 東京 さるびあ出版 二七九頁

二四 百人一首の世界 洋 一冊 六・七×三・一

〔著者〕 久保田正文〔刊年・等〕 昭和四十年(一九六五)十一月十日 東京 さるびあ出版 二七九頁

二五 百人一首の世界 洋 一冊 六・七×三・一

〔著者〕 久保田正文〔刊年・等〕 昭和四十年(一九六五)十一月十日 東京 さるびあ出版 二七九頁

二六 百人一首の世界 洋 一冊 六・七×三・一

〔著者〕 久保田正文〔刊年・等〕 昭和四十年(一九六五)十一月十日 東京 さるびあ出版 二七九頁

二七 百人一首の世界 洋 一冊 六・七×三・一

〔著者〕 久保田正文〔刊年・等〕 昭和四十年(一九六五)十一月十日 東京 さるびあ出版 二七九頁

二八 百人一首の世界 洋 一冊 六・七×三・一

〔著者〕 久保田正文〔刊年・等〕 昭和四十年(一九六五)十一月十日 東京 さるびあ出版 二七九頁

二九 百人一首の世界 洋 一冊 六・七×三・一

〔著者〕 久保田正文〔刊年・等〕 昭和四十年(一九六五)十一月十日 東京 さるびあ出版 二七九頁

三十 百人一首の世界 洋 一冊 六・七×三・一

〔著者〕 久保田正文〔刊年・等〕 昭和四十年(一九六五)十一月十日 東京 さるびあ出版 二七九頁

一年(一九六六)十一月十日四刷(一刷昭和四十年十一月十五日)東京 文芸春秋 二八一頁

一六 百人一首のすすめ 洋 一冊 七・三×二〇・七

〔著者〕木俣修〔刊年・等〕昭和四十一年(一九六六)十二月十日 東京 愛育出版株式会社 二二六頁 索引十頁 愛育新書

一七 百人一首 洋 一冊 四・九×二〇・八

〔校注者〕島津忠夫〔刊年・等〕昭和四十五年(一九七〇)一月三十日再版(初版昭和四十四年十二月十日)東京 角川書店 二五七頁 角川文庫二六一八

一八 古興アルバム百人一首 洋 一冊 三・五×六・七

〔著者〕久保田正文 司代隆三 浅原勝〔刊年・等〕昭和四十四年(一九六九)十二月十五日 東京 明治書院 一五六頁

一九 小倉百人一首 洋 一冊 六・三×三・八

〔著者〕窪田章一郎 藤平春男〔刊年・等〕昭和四十五年(一九七〇)十二月二十日 東京 明治書院 一二五頁

二〇 百人一首 洋 一冊 七・三×二〇・八

〔著者〕青木一男〔刊年・等〕昭和四十五年(一九七〇)十二月二十五日 東京 評論社 二四〇頁

二一 鑑賞百人一首 洋 一冊 三・六×五・五

〔著者〕石田吉貞〔刊年・等〕昭和四十六年(一九七一)十二月一日 京都 淡交社 二四三頁

二二 古典百景 洋 一冊 六・二×三・三

〔著者〕藤居信雄〔刊年・等〕一九七二年五月一〇日 東京 古川書房 二三〇頁 古川双書

〔備考〕表紙に「新版・百人一首一夕話」とある

二三 百人一首の美学 洋 一冊 六・三×三・八

〔著者〕保坂弘司〔刊年・等〕昭和四十七年(一九七二)十一月(はしがき)東京 学燈社 二五六頁 附録・百人一首かるた競技の手引

二四 日本のはろろ百人一首 洋 一冊 三・九×三・九

〔刊年・等〕一九七二年十二月一日 東京 平凡社 一九〇頁 別冊太陽 Winter '72 no.1

二五 全小倉百人一首 洋 一冊 二・八×二〇・七

〔著者〕藤縄敬五 桜井典彦〔刊年・等〕昭和四十七年(一九七二)十二月二十日 一三二頁 附かるた競技法・百人一首関係地図

二六 「百人一首」で覚える文法 (学燈)

〔著者〕清水賢一〔刊年・等〕昭和四十八年(一九七三)東京 学燈社 三十二頁 学燈一月特大号付録 カード式

二七 小倉百人一首略解 洋 一冊 四・六×二〇・三

〔刊年・等〕刊年未詳 名古屋 富田屋書店 六十二頁

4 頭注書(歌意・略伝等)

一 百人一首大成 板 一冊 三・九×六・三

〔著者〕未詳〔題箋〕万宝 百人一首大成〔見返し〕万宝 百人一首大成全〔柱〕百人上・下〔序〕無記名〔跋〕干時承應二年(一六五三)十一月日 無記名〔刊年・等〕万治三年庚子(一六六〇)仲夏〔京都〕山田三郎兵衛板行 序二丁 本文上・下各二

十五丁 跋一丁

〔内容〕小倉百首并肖像(一面一人を出す)頭書に略注をのせる 跋に「抑此百人一首は道をりとむる根元歌をりくあそふ柱礎たりしかも注釋家々につたへて古来これありといへとも或はこと葉しけく或は義を略す又は哥の意その理各別にして作者の本意をうしなふ事あり予往昔講席の末に候して聞傳る所又その傳受のかたはしをくはへ一首毎のかしらにしろしてわが鐘愛の子に残さんとす……」とある

二 姿繪百人一首 板 一冊 三・六×五・八

〔画〕菱川師宜〔成立〕元禄八刊〔題箋〕欠〔柱〕姿繪〔序〕無記名〔刊年・等〕未詳 序一丁 本文十九丁

〔内容〕小倉百首 頭書に歌と作者の父の名及び歌意をのせ 下にこれに見合う図を出す 但し天智天皇より右近までの三十八首

〔備考〕大正三年(一九一四)複製「日本風俗図絵二」の跋に「元禄八曆乙亥(一六九五)四月吉辰〔江戸〕木下甚右衛門板」

〔備考〕大正三年(一九一四)複製「日本風俗図絵二」の跋に「元禄八曆乙亥(一六九五)四月吉辰〔江戸〕木下甚右衛門板」

〔備考〕大正三年(一九一四)複製「日本風俗図絵二」の跋に「元禄八曆乙亥(一六九五)四月吉辰〔江戸〕木下甚右衛門板」

〔備考〕大正三年(一九一四)複製「日本風俗図絵二」の跋に「元禄八曆乙亥(一六九五)四月吉辰〔江戸〕木下甚右衛門板」

〔備考〕大正三年(一九一四)複製「日本風俗図絵二」の跋に「元禄八曆乙亥(一六九五)四月吉辰〔江戸〕木下甚右衛門板」

〔備考〕大正三年(一九一四)複製「日本風俗図絵二」の跋に「元禄八曆乙亥(一六九五)四月吉辰〔江戸〕木下甚右衛門板」

〔備考〕大正三年(一九一四)複製「日本風俗図絵二」の跋に「元禄八曆乙亥(一六九五)四月吉辰〔江戸〕木下甚右衛門板」

〔備考〕大正三年(一九一四)複製「日本風俗図絵二」の跋に「元禄八曆乙亥(一六九五)四月吉辰〔江戸〕木下甚右衛門板」

〔備考〕大正三年(一九一四)複製「日本風俗図絵二」の跋に「元禄八曆乙亥(一六九五)四月吉辰〔江戸〕木下甚右衛門板」

〔備考〕大正三年(一九一四)複製「日本風俗図絵二」の跋に「元禄八曆乙亥(一六九五)四月吉辰〔江戸〕木下甚右衛門板」

とある

三 姿繪百人一首 一冊 (複製) 二六・二七

〔画〕 菱川師宜〔序〕 無記名〔跋〕 元禄八
曆乙亥(一六九五) 四月吉辰 大傳馬貳丁
目 木下甚右衛門板〔刊年・等〕 大正三年
(一九一四) 日本風俗図絵刊行会(岸本)
序一丁 本文五十丁 跋一丁

〔内容〕 二の複製本(但し本書は百首あ
る)

四 百人一首絵入三十人選 板 一冊 三九
×三五・九

〔編者〕 未詳〔題箋〕 欠〔柱〕 百人〔刊年
・等〕 正徳四年午(一七一四) 正月吉日
菊屋七郎兵衛 谷村清兵衛 金屋平右衛門
十五丁

〔内容〕 小倉百首のうち三十首を出す
うち二十首は女流 下に歌意の図 上欄歌并
に略注をのせる

五 頭注百人一首 板 一冊 三三・六×七・五

〔編者〕 未詳〔画図〕 北尾紅翠斎重政〔劔
劔〕 井上進七郎〔題箋〕 欠〔刊年・等〕 寛
政二載庚戌(一七九〇) 書林 山本九左衛
門等三軒 再板 戸西村屋與八蔵 口絵七
丁本文五十丁

〔内容〕 小倉百首并肖像(一面一人を出す)

頭書・歌の意并図

六 百人一首 板 一冊 三三・五×六・一

〔編者〕 未詳〔画〕 嘉言〔題箋〕 欠〔序〕
石津亮澄識〔刊年・等〕 文政九丙戌(一八

二六) 十一月 大阪書林 小林^{利カ}兵衛等
三軒 六十五丁

〔内容〕 小倉百首并肖像(一面一人を出す)
頭書・雲型に限って歌の意 出典并図をの
せる

七 百人一首 板 一冊 二五・四×二・七

〔筆者〕 未詳〔題箋〕 欠〔刊年・等〕 文政
十一年子(一八二八) 正月新板 慶應元年
丑(一八六五) 六月再刻 京都書林 丹後
屋徳兵衛等四軒 口絵八丁 本文五十丁
(最後の丁付八十三丁)

〔内容〕 小倉百首并肖像(一面一人を出す)
作者名の下に年代を示す 頭書・歌の意出
典并図

八 福壽百人一首倭錦 板 一冊 三三・五×六

〔著者〕 未詳〔題箋〕 天保^{天保}頭書註繪鈔福壽
百人一首倭錦全〔刊年・等〕 天保六^{乙未}年
(一八三五) 春新刻 書林 尾州名古屋
橋本玉華堂 玉野屋新右衛門 大坂 大野
木宝文堂 秋田屋市五郎 口絵一丁 本文
五十丁

〔内容〕 小倉百首并肖像(一面一人を出す)
頭書・歌の意 出典并図

九 永花百人一首文十抄 板 一冊 三三・九×五

〔編者〕 未詳〔題箋〕 永花百人一首文十抄
〔見返し〕 永花百人一首文十抄 東都書林
栄久堂梓 定家卿小倉山莊之図〔柱〕 永花
〔刊年・等〕 天保十四年癸卯(一八四三)

秋九月穀旦訂正再刻 書肆 江戸 栄久堂
山本平吉版 五十丁(最後の丁付五十二
丁)

〔内容〕 小倉百首并肖像(一面一人を出す)
頭書・歌の意并図

一〇 富士注入百人一首 板 一冊 三〇・四×四

〔著者〕 喜の屋寿麻呂〔画〕 一陽斎豊國・
一勇斎國芳〔題箋〕 富士注入百人一首全
〔見返し〕 口繪^{口繪}百人一首 喜の屋寿鷹記一
陽斎豊國・一勇斎國芳画〔序〕 嘉永二西
(一八四九) 初春向岡楼にて記之 自序

〔刊年・等〕 明治八年(一八七五) 十一月
廿八日(明治八年再刻・宮武) 著述人 陶
山直良 大阪書林 花井卯助 若山書林
平井文助 序口絵五丁 本文五十丁

〔内容〕 小倉百首肖像并図 一面一人を出
す 歌の出典を示し簡略な注をのせる

一一 富士注入百人一首 板 一冊 三三・五×四・九

〔著者〕 〔画〕 〔題箋〕 〔序〕 〔内容〕 一〇
に同じ 〔刊年・等〕 刊年未詳 文部省師
範学校御蔵版 官許翻刻製本発売所 和漢
西洋御書籍仕入所 京都書林 須原屋 遠
藤平左衛門板 序口絵五丁(但し二丁色刷)
本文五十丁

一二 小倉百人一首 板 一冊 一七・三×三・三

〔書〕 池田東籬亭〔画図〕 森川保之〔題箋〕
頭書 小倉百人一首全〔見返し〕 頭書 小倉百
人一首 池田東籬亭書 森川保之画図 京
都 風祥堂発行〔刊年・等〕 明治四十一年

十一月十日発行 同四十二年(一九〇九)
十月一日第二版印刷発行 京都 中村浅吉
大売捌所 京都 中村風祥堂 巻首一丁
本文五十丁

〔内容〕 七に同じ 但し作者名下の年代并
に図柄は多少異なる

三百人一首繪抄 板 一冊 三〇×六

〔編者〕 未詳〔題箋〕 欠〔内題〕 百人一首
繪抄〔序〕 無記名〔刊年・等〕 未詳 序・
口絵二丁 本文五十丁

〔内容〕 小倉百首并肖像(二面一人を出す)
上欄・歌の意 出典并図

四 女訓百人一首 板 一冊 三〇×七

〔編者〕 未詳〔題箋〕 改正 女訓百人一首
全〔刊年・等〕 刊年未詳 京都書物問屋
吉田屋文三郎板 五十丁

〔内容〕 小倉百首并肖像(二面一人を出す)
頭書・歌の意并図

五 千載百人一首倭壽 板 一冊 三〇×六・三

〔編者〕 未詳〔題箋〕 頭書繪抄 女訓千載百
人一首倭壽〔見返し〕 七種のこと并図〔刊
年・等〕 刊年未詳 尾州名古屋 美濃屋文
次郎 大坂 秋田屋市五郎 五十丁

〔内容〕 小倉百首并肖像(二面一人を出す)
頭書・歌の意 出典并図

六 姿百人一首小倉錦 板 一冊 七・六×二・九

〔著者〕 未詳〔頭書和歌注釋・画工〕 溪斎
英泉〔題箋〕 甘泉堂刊行姿百人一首〔見返
し〕 頭書 和歌注釋 寿賀多百人一首小倉

錦 甘泉堂上梓〔刊年・等〕 刊年未詳 江
戸書肆 甘泉堂 和泉屋市兵衛版 五十丁
(最後の丁付五十四丁)

〔内容〕 小倉百首并肖像(二面一人を出す)
頭書・歌の意并小図

七 姿百人一首小倉錦 板 一冊 六・三×三

一六の後摺本 但し〔柱〕 姿百人〔見返し〕
姿百人一首 芝神明前甘泉堂梓〔刊年・
等〕 刊年未詳 東京書林 甘泉堂 和泉屋
市兵衛板

八 慶玉百人一首 板 一冊 一七・五×二・五

〔画〕 静斎英一〔題箋〕 頭書 慶玉百人一首
〔柱〕 慶玉〔刊年・等〕 未詳 序二丁 本
文五十丁

〔内容〕 小倉百首并肖像(二面一人を出す)
頭書・歌の意并図

九 小倉百人一首 板 一冊 一七・九×二・九

〔編者〕 未詳〔見返し〕 とうけいしうりん
小くら百人一首 精華書屋藏板〔柱〕 百
〔刊年・等〕 刊年未詳 諸神社御祓及諸宗
御経類 東京市 浜島精三郎 五十丁

〔内容〕 百人一首并肖像(二面一人を出す)
頭書・歌の意并小画

〔備考〕 順徳院肖像の下に「明治^{廿六}六年
八月五日印刷同月十五日発行 東京市浅草
小ジマ丁十パンチ 編輯印刷兼発行者 山
崎暁三郎」とある

5 頭書(歌に関係ない頭書あるもの)

一 万宝百人一首大成 板 一冊 三六×二九・一

〔編者〕 未詳〔題箋〕 和歌題林 万宝百人一
首大成 おんなしつけがた入
歌之数六百三十七首余也 全〔柱〕 万
宝繪抄大成 百人一首〔見返し〕 三夕の歌
并図・目錄〔口絵〕 源氏香之図・和歌三神
像 百人一首よみくせ他〔刊年・等〕 寶永
四歳亥(一七〇七) 三月吉日 伊賀屋弥兵
衛 大坂 柏原屋清右衛門 五十一丁

〔内容〕 小倉百首并肖像(二面一人を出す)
肖像左右に作者の年代 略伝 出典をのせ
る 頭書・三十六歌仙他(二段)

二 文林大和鑑 板 一冊 三三・二×二七・八

〔編者〕 未詳〔題箋〕 欠〔見返し〕 文林大
和鑑・目錄〔口絵〕 都祇園下河原花見之景
・和歌三神御像〔刊年・等〕 享保庚子(四
年一七二〇) 孟春良辰 帝畿書肆 口絵
二丁 本文五十丁

〔内容〕 小倉百首并肖像(二面一人を出す)
頭書(二段)・諸芸鑑他

三 美玉百人一首女鑑 板 一冊 三三・三×二六

〔筆者〕 蘆田茂平〔彫刻〕 吉見仁右衛門
〔題箋〕 新美玉百人一首女鑑〔柱〕 新板百
人一首〔見返し〕 美玉百人一首女鑑・目錄
〔刊年・等〕 寶曆元歳末(一七五一) 十二
月 書林 大坂 柏原屋清右衛門板 五十
四丁(最後の丁付五十六丁)

〔内容〕 小倉百首并肖像(二面一人を出す)
頭書・正月五ヶ日 五節句 由来記 他

四 頭書・正月五ヶ日 由来記 他

四 小倉百詠真壽鑑 板 一冊 三六×六・四

〔画工〕 北尾雪坑斎〔彫刻〕 藤村善右衛門

〔題箋〕 教訓百人一首 小倉百詠真壽鑑〔刊

年・等〕 明和四年亥（一七六七）九月 書

林 大坂 敦賀屋九兵衛 口絵十丁 本文

五十丁 他一丁

〔内容〕 小倉百首并肖像（二面一人を出す）

頭書・和歌感應傳他

〔備考〕 表紙に目錄箋を付ける

五 万葉百人一首教訓文 板 一冊 三五・四×七

六

〔編者〕 未詳〔画〕 西川氏〔題箋〕

万葉百人一首教訓文〔柱〕 百人一首〔見返

し〕 万葉・目錄〔口絵〕 嘉智子の図・筑紫

大宰府之図〔刊年・等〕 明和五戊子年（一

七六八）大坂書林 和泉屋卯兵衛 口絵二

丁 本文五十丁

〔内容〕 小倉百首并肖像（二面一人を出す）

頭書・御手習ひ他

六 千代鶴百人一首 板 一冊 三五・八×七・七

〔画〕 北尾重政摸〔題箋〕 欠〔見返し〕 千

代鶴百人一首・増補目錄〔口絵〕 和歌三神

図・古今六歌仙図等〔刊年・等〕 明和八歳

辛卯（一七七二）正月穀旦 書林 京都

鶴屋喜右衛門 東都 鶴屋喜右衛門 二十

七丁

〔内容〕 小倉百首并肖像（二面二人を出す）

頭書・百人一首よみくせ他

七 千代鶴百人一首 板 一冊 三五・二×七・五

小倉百人一首

〔画生〕 北尾重政摸〔題箋〕 千代鶴百人一

首〔見返し〕 千代鶴百人一首 増補目錄〔口

絵〕 和歌三神図・古今六歌仙等〔刊年・

等〕 明和八歳辛卯（一七七二）正月穀日

天保二歳辛卯（一八三一）正月再板 書林

京都 鶴屋喜右衛門 東都 藤岡屋慶次郎

板 二十六丁（最後の丁付四十七丁）

〔内容〕 六に同じ

八 〔頭書百人一首〕 板 一冊 三五・四×七・九

〔編者〕 未詳〔題箋〕 欠〔見返し〕 七夕う

たつくし〔柱〕 百人一首〔刊年・等〕 維時

天明政元辛丑（一七八一）夏五月吉日 東

都 和泉屋吉兵衛藏板 五十一丁

〔内容〕 小倉百首并肖像（二面一人を出す）

頭書・裁物秘傳他

九 花林百人一首 板 一冊 三五・五×六・二

〔編者〕 未詳〔題箋〕 安永花林百人一首全

女中重宝記入〔柱〕 花林百人一首〔見返し〕 万折

形図・紙折形図〔刊年・等〕 天明七丁未年

（一七八七） 中秋 京都書林 菱屋孫兵衛

十八丁

〔内容〕 小倉百首并肖像（一面概ね三人を

出す）頭書・女中詞づかひ他

二〇 八千代百人一首宝海 板 一冊 三五・七×七

九

〔撰者〕 随時老人〔画工〕 西川氏〔画師〕

石川豊信〔題箋〕 元箋欠〔書題箋〕 八千代

百人一首宝海〔見返し〕 天明八千代百人

一首宝海全〔刊年・等〕 明和六年（一七六

九）八月吉日 寛政四（一七九二）補刻

皇都書肆 武村嘉兵衛等五軒 口絵四丁

本文 五十丁

〔内容〕 小倉百首并肖像（二面一人を出す）

頭書・女嬬もしほ草他

二 〔百人一首〕 板 一冊 三五・三×七・九

〔編者〕 未詳〔題箋〕 研損読めず〔刊年・

等〕 寛政八丙辰（一七九六）初稗吉日 書

肆 大阪 河内屋太助梓〔口絵〕 新六歌仙

（色刷） 紀州和歌浦玉津嶋大明神のこと并

図 口絵一丁 本文五十丁（但し最後の丁

付六十丁）

〔内容〕 小倉百首并肖像（二面一人を出す）

右下隅に作者の官位を出す 頭書源香の図

引歌他

〔備考〕 表紙に目錄箋を付ける

三 百人一首 板 一冊 三五・七×七・七

〔画〕 北尾政美〔題箋〕 欠〔見返し〕 桜の

図〔柱〕 百人一首〔刊年・等〕 寛政九丁己

（一七九七）季夏 東都書林 葛屋重三郎等

三軒 卷首三丁 本文十七丁

〔内容〕 小倉百首并肖像（二面三人を出す）

頭書・女諸禮しつげがたの図他

二三 女萬葉姬文庫 板 一冊 三五・九×六・二

〔編者〕 未詳〔題箋〕 瀧女萬葉姬文庫〔刊

年・等〕 享和元年酉（一八〇一）三月出版

文化九年壬申（一八一二）五月求梓補刻

浪華 松本泰泉堂藏版 三都売弘書林 京

都 上田半三郎等三軒 東都 西村源六等

三軒 撰都 山田屋嘉右衛門等三軒 七十
六丁

〔内容〕小倉百首并肖像（一面一人を出す）
頭書・七夕のうた他

〔備考〕表紙に目録箋をつける

二四 百人一首吾妻錦 板 一冊 三五・七×七・九

〔編者〕未詳〔題箋〕改正板百人一首吾妻錦
全〔口絵〕女六歌仙（色刷）・父母につか
ふまつるの図・夫をたつとむの図・舅姑に
つかふまつるの図〔刊年・等〕文化十二乙
亥（一八一五）正月求板 尾陽書林 名古
屋 菱屋久兵衛 皇都書林〔京都〕菱屋治
兵衛版 口絵三丁 本文五十丁

〔内容〕小倉百首并肖像（一面一人を出す）
下隅に歌の出典并作者の年代を示す

二五 金峯百人一首要筥 板 一冊 三五・五×六・二

〔作者〕田中友水子〔画〕北尾雪坑斎〔著
者〕中谷楮同〔彫工〕藤村善右衛門〔題箋〕
至女要教訓式 金峯百人一首要筥 北尾辰宜
寶日用重寶記 金峯百人一首要筥 北尾辰宜
画〔見返し〕金峯百人一首要筥 北尾辰宜画
〔刊年・等〕文化十四丁丑年（一八一七）

正月吉日 大阪書林 天満屋源治郎 天満
屋安兵衛板 五十五丁

〔内容〕小倉百首并肖像（一面一人を出す）
頭書・和国名女実記他

二六 花例百人一首玉締 板 一冊 三五・四×六

〔作者〕田中友水子〔画〕北尾雪坑斎〔著
者〕中谷楮同〔彫工〕藤村善右衛門〔題
箋〕欠〔見返し〕花例百人一首玉締〔刊年

・等〕文化十四丁丑年（一八一七）正月吉
日 大阪書林 天満屋源治郎 天満屋安兵
衛板 二十六丁

〔内容〕小倉百首并肖像（一面二人を出す）
頭書・婚礼の次第他

二七 永壽百人一首寶蔵 板 一冊 一七・八×三・三

〔編者〕未詳女訓日用永壽百人一首寶蔵完
〔見返し〕永壽百人一首 再版 〔口絵〕
五節句和哥〔柱〕中百人〔刊年・等〕文政
九年丙戌（一八二六）孟陬改刻 江戸 永
壽堂 西村屋興八 口絵二丁 本文五十丁

〔内容〕小倉百首并肖像（一面一人を出
す）
頭書・琴のくみ他

二八 教百人一首倭文庫 板 一冊 三五・三×六

〔編集并書〕池田東籬亭〔画〕法橋西村中
和 森川保之〔題箋〕女要教百人一首倭文
庫 全〔のど〕倭百人 倭大全〔見開き〕
花車の図（色刷）裏に七夕の歌〔刊年・
等〕文政十二（一八二九）年 □□屋佐兵
衛本文五十丁 他一丁

〔内容〕小倉百首并肖像（一面一人を出す）
頭書・女國盡他

二九 百人一首相生松 板 一冊 三五・三×七・六

〔輯并書〕池田東籬亭主人〔助筆〕西川龍
章堂〔画〕森川保之〔刻〕井上治兵衛 祖
父江左門〔題箋〕女用百人一首相生松全
〔見返し〕百人一首相生松全〔刊年・等〕

天保五年甲午（一八三四）春発兌 板元
京 吉野屋仁兵衛 神部源右衛門 巻首二
丁 本文五十丁

〔内容〕小倉百首并肖像（一面一人を出す）
頭書・賢女鑑他

三〇 若松百人一首千代緑 板 一冊 三五×七

〔備考〕表紙に目録箋を付ける
〔編者〕未詳〔題箋〕欠〔見返し〕若松百
人一首千代緑・和歌の始の支・和歌三神之
図〔刊年・等〕天保二歳辛卯（一八三一）
夏五月吉日再刻 書舗 地本錦絵問屋 江戸
西宮新六原版 山口屋藤兵衛求板 十八丁

〔内容〕小倉百首并肖像（一面二人又は四
人を出す）頭書・小倉山荘の景并略伝他

三一 女童訓千代壽 板 一冊 三五・四×六

〔画工〕法橋關月〔彫刻〕樋口與兵衛〔題
箋〕百人一首女童訓千代壽全〔柱〕百人一
首〔刊年・等〕天保八丁酉（一八三七）四
月再刻 浪華書林 柏原屋清右衛門 巻首
三丁 本文五十丁

〔内容〕小倉百首并肖像（一面一人を出す）
頭書・源氏物語五十四帖引歌繪抄并略解他

三二 小松百人一首 板 一冊 三×四・八

〔編者〕未詳〔題箋〕廿小松百人一首小倉
文庫全 改正新刻〔扉〕兒女重寶 小松百人
一首小倉文庫 天保九年戊戌 新刻（周囲にかる
たをおき目録を書く）〔刊年・等〕天保九
年戊戌（一八三八）春新板 東都 甘泉堂

和泉屋市兵衛梓 二十八丁

〔内容〕小倉百首并肖像（二面二人を出す）
頭書・源氏五十四帖歌香図

三 〔稚百人一首〕 板 一冊 六×二・九

〔編者〕未詳〔題箋〕元箋欠（書題箋「百人一首全」とある）〔柱〕稚百人〔口絵〕六歌仙之図・近江八景・他〔刊年・等〕天保十己亥年（一八三九）正月吉旦新刻 江戸 永寿堂西村□□等二軒 五十九丁
〔内容〕小倉百首并肖像（二面一人を出す）
頭書・教訓女今川他

云 萬寶百人一首小倉錦 板 一冊 三・四×七

六 〔編者〕未詳〔題箋〕天保再刻萬寶百人一首小倉錦全〔見返し〕三夕の和歌并図〔刊年・等〕天保十一子年（一八四〇）再板 地木屋 東都 錦森堂 森屋治兵衛版 口繪二丁 本文五十丁

〔内容〕小倉百首并肖像（二面一人を出す）
頭書・源氏物語引歌并香の図他
〔備考〕表紙に「改正頭書繪入」とある目録箋をつける

三 百人一首玉椿 板 一冊 三・四×六・一

〔編者〕未詳〔題箋〕増百人一首玉椿 全
〔見返し〕和歌三神之図〔刊年・等〕弘化四末（一八四七）正月補刻 江戸書林 山城屋佐兵衛門 大阪書林 秋田屋市兵衛・秋田屋太右衛門 皇都書林 菱屋友七・近江屋卯兵衛 口繪一丁 本文五十丁

小倉百人一首

〔内容〕小倉百首并肖像（二面一人を出す）
頭書・三十六歌仙他
〔備考〕表紙に目録箋を付ける

云 百人一首玉椿 板 一冊 三・七×八・二

〔編者〕未詳〔題箋〕〔内容〕二五に同じ（但し〔見返し〕〔口絵〕欠）〔刊年・等〕刊年未詳 大日本佛学書籍調進所 京都 法文館 澤田友五郎 五十丁

三 女寿小倉色紙 板 一冊 二・九×七・七

〔編者〕暁鐘成訂正〔書〕黒田庸行〔題箋〕百人女寿小倉色紙 全〔見返し〕女寿小倉色紙 全〔序〕無記名〔口絵〕小倉山荘之図（色刷）〔刊年・等〕嘉永二季酉（一八四九）十一月發 發版書林 大坂 河内屋喜兵衛 同 河内屋卯助 序・口繪二丁 本文五十丁

六 〔百人一首〕 板 一冊 三・四×七・九

〔編者〕未詳〔題箋〕欠〔刊年・等〕嘉永三庚戌歳（一八五〇）初春再刻 諸国発行 書林 大阪 秋田屋太右エ門等十軒 口繪十一丁 本文五十丁 他二丁

三 縁百人一首増鏡 板 一冊 三×二・七

〔編者〕未詳〔題箋〕縁百人一首増鏡 全
〔見返し〕縁百人一首増鏡・定家卿小倉山荘之図〔柱〕百人〔刊年・等〕嘉永三戊

（一八五〇）春 新彫 江戸 和泉屋市兵衛等八軒 五〇丁
〔内容〕小倉百首并肖像（二面一人を出す）
頭書・六歌仙他

三 永壽百人一首 板 一冊 三・七×二・四

〔編者〕未詳〔題箋〕永壽百人一首全〔見返し〕永壽百人一首 完〔柱〕永壽百人・永壽堂藏〔刊年・等〕刊年未詳〔嘉永・六年（一八五三）刊・宮武〕書林 東都 森屋治兵衛 五十丁
〔内容〕小倉百首（二面一人を出す）人名の下に年代并出典をのせる 頭書・女手習状繪解他

三 嘉永百人一首 板 一冊 三・二×二・八

〔編者〕未詳〔題箋〕繪入嘉永百人一首全〔刊年・等〕安政二年乙卯（一八五五）二月 原版人 伏見大坂町 亀屋半兵衛 出版人 大阪 中川勘助 口繪一丁 本文五十丁
〔内容〕小倉百首并肖像（二面一人を出す）
頭書・女消息往来他
〔備考〕表紙に目録箋を付ける

三 女訓玉文庫 板 一冊 三×七・四

〔編者〕未詳〔題箋〕百人一首 女訓玉文庫〔見返し〕住吉明神御訪 歌并図〔口絵〕和歌三神〔刊年・等〕安政五年午春（一八五八）新板 諸国賣弘書肆 東都 吉田屋文三郎板等七軒 口繪一丁 本文五十丁
〔内容〕小倉百首并肖像（二面一人を出す）

五九

頭書・源氏香之図引歌他

〔備考〕 表紙に百人一首の由来を書く付箋を付ける

三 慶玉百人一首 板 一冊 七・九×三・九

〔編者〕 未詳〔画〕 静斎英一〔題箋〕 新版

慶玉百人一首全〔柱〕慶玉（但し終り四丁柱には慶玉百人一首とある）〔見返し〕慶玉百人一首全〔刊年・等〕安政年間 書肆未詳 口絵二丁 本文五十丁

〔内容〕 小倉百首并肖像（一面一人を出す）頭書・三十六歌仙他

三 慶玉百人一首 板 一冊 六・二×三・三

〔編者〕 池善平〔刊年・等〕明治卅四年（一九〇一）九月十二日 金沢市 北村永太郎 金沢各書林 口絵二丁 本文四十九丁（最後一丁欠）

〔備考〕 三三の後摺本

三 小倉百人一首 板 一冊 一七×五・一

〔編者〕 関葦雄〔筆者〕 卷菱潭〔題箋〕 源氏五十四帖 小倉百人一首〔見返し〕小倉百人一首 亦川画〔柱〕花鳥〔刊年・等〕明治十三年（一八八〇）二月 東京 江島金太郎 二十五丁（最後の丁付廿七丁）

〔内容〕 小倉百首并肖像（一面二人を出す）頭書・源氏五十四帖引歌并香の図

〔備考〕 七三 花鳥百人一首兎草に同じ 但し板は異なる

三 錦誠百人一首 板 一冊 二・八×八・四

〔編者〕 尾崎富五郎〔題箋〕 開 錦誠百人一首

首全〔柱〕百人一首〔見返し〕花錦誠百人一首 六歌仙 源氏五十四帖のうた 女

大学 よこはまのげまちさのやとみ五ろうはん（色刷）〔刊年・等〕明治十四年（一八八一）十二月 編輯兼出版人 横浜 尾崎富五郎 発売人 東京 高梨弥三郎 口絵二丁 本文 五十丁

〔内容〕 小倉百首并肖像（一面一人を出す）頭書・源氏五十四帖引歌他

三 小倉百人一首 活 一冊 一七・八×三・三

〔編者〕 辻岡文助〔題箋〕 明治小倉百人一首全辻岡文助編輯〔見返し〕 新刻小倉百人一首全 辻岡文助編輯 東京書肆 金松堂 蔵版〔序〕明治十八年（一八八五）八月 金盛堂主人誌〔刊年・等〕明治十九年（一八八六）一月 東京 金松堂 序一・口絵二丁 本文五十丁

〔内容〕 小倉百首并肖像（一面一人を出す）頭書・百人一首読曲 并五ヶの他 秘歌の事

〔備考〕 表紙に目録箋を付ける 七〇 百人一首吾妻文庫に同じ 但し板は異なる（本書は銅版）

三 小倉百人一首 板 一冊 一六×三

〔編者〕 内藤彦一〔題箋〕 明治小倉百人一首全 内藤彦一輯〔見返し〕 明治小倉百人一首全 内藤彦一輯 京都書肆奎運堂蔵版

〔序〕明治廿三年（一八九〇）秋 内藤奎運堂主人誌〔口絵〕和歌三神・和歌の三夕

目録〔刊年・等〕明治廿四年（一八九一）二月十三日出版 明治廿九年（一八九六）六月廿三日譲受 著作者 大阪市 矢島嘉平次発行兼印刷者 京都市 大谷仁兵衛

〔内容〕 三七に同じ 但し口絵并本文図柄は多少異なる

〔備考〕 奥付の用紙は旧板奥付用紙裏使用 これによれば「明治廿四年二月十三日 同廿五年十一月五日再刻 京都 内藤彦一」とある

三 聚玉百人一首 板 一冊 一六・二×三・九

〔編者〕 平尾吉茂〔題〕 新 聚玉百人一首〔見返し〕 聚玉百人一首 富山聚星堂梓〔刊年・等〕明治十九年（一八八六）四月十四日出版 全三十二年（一八九九）十二月一日再版 富山市 守川吉兵衛 口絵二丁 本文五十丁

〔内容〕 小倉百首并肖像（一面一人を出す）頭書・三十六歌仙他

三 女教百人一首寶文庫 板 一冊 一六×三・五

〔編者〕 樋口正三郎〔題箋〕 品行 女教百人一首寶文庫全〔見返し〕 定家卿のえらみ玉へる百人一首寶のふみくら あかし社黒雅堂さうはん〔口絵〕小倉山莊の図・禁中貴女歌仙之図・首書目録〔刊年・等〕明治二十二年（一八八九）九月廿三日彫刻 同年十月十日出版 大阪市 赤志忠七 口絵二丁 本文五十丁

〔内容〕 小倉百首并肖像（一面一人を出す）

頭書・三十六歌仙他

四 小倉百人一首 板 一冊 七・九×三

〔著者〕香川一秀〔題箋〕明治新刻小倉百人一首〔序〕明治廿四年(一八九一)三月積善館主人誌(但し内容は三七に同じ)〔刊年・等〕明治二十四年三月三十日 大阪石田忠兵衛 印刷者 同 田名瀬昇藏 専売所 同 積善館 巻首十丁 本文五十丁〔内容〕三七に同じ 但し巻首に十丁を付ける

三 延壽百人一首 板 一冊 六×三・三

〔編者〕未詳〔題箋〕延壽百人一首〔見返し〕延壽百人一首 全 和歌三神之図〔刊年・等〕明治廿六年(一八九三)五月廿日 東京書肆萬里堂 野口幾太郎 五十丁〔内容〕小倉百首并肖像(一面一人を出す) 頭書・源氏五十四帖引歌并香之図他

四 女学百人一首 板 一冊 七・三×三

〔著者〕浜本伊三郎〔題箋〕女学百人一首 全〔見返し〕女学百人一首 明昇堂發行 全意冊〔口絵〕紫式部石山寺に籠て源氏五十四帖を作り給ふ図(色刷)他〔刊年・等〕明治二十八年七月一日(一八九五)著作兼発行者 大阪市 浜本伊三郎 印刷者 大阪市 益田筆治郎 売捌所 大阪 明昇堂 口絵他九丁 本文五十丁

四 小倉百首并肖像(一面一人を出す) 頭書・三十六歌仙他

四 鶴壽百人一首 板 一冊 三・三×五・三

〔編者〕未詳〔題箋〕鶴壽百人一首 全〔見返し〕鶴壽百人一首 文 堂板〔刊年・等〕明治貳拾九年(一八九六)十二月十日 求板 全四拾年(一九〇七)六月十五日再版 名古屋 文昌堂・浅見証太郎 東京 文林堂・浅見文吉 五十丁

四 百人一首 板 一冊 六・四×三・七

〔画〕静斎英一〔題箋〕百人一首〔見返し〕百人一首 全 京都風月堂藏板〔柱〕百人〔刊年・等〕明治卅三年(一九〇〇)三月廿五日 著作發行 兼印刷者 都 風月庄左衛門 発売所 都 中村浅吉 口絵二丁 本文五十丁〔内容〕小倉百首并肖像(一面一人を出す) 頭書・琴のくみ他

四 小倉百人一首 板 一冊 六・三×三・三

〔著者〕荒川亀次郎〔題箋〕今様源氏小倉百人一首〔見返し〕今様源氏小倉百人一首〔柱〕百人〔刊年・等〕明治三十六年(一九〇三)拾二月拾日 東京 山口屋書店 五十丁〔内容〕小倉百首并肖像(一面一人を出す) 頭書・百人一首の故事他

四 婚礼百人一首 板 一冊 三・三×六・五

〔編者〕未詳〔題箋〕欠〔見返し〕寺子重寶祝言 繪 婚礼百人一首 女蝶にはちばな付 抄 婚礼百人一首 男蝶にはゆづり葉二枚付 (三方の図) 松竹梅の図(のど) 婚礼百人

〔刊年・等〕刊年未詳 江戸書林 鱗形屋 孫兵衛 大坂 書林 糸屋市兵衛 口絵一丁 本文二十五丁

四 万寶百人一首 板 一冊 七・二×三・九

〔著者〕未詳〔題箋〕欠〔見返し〕万寶百人一首 全・目錄・「夫百人一首は京極黃門定家卿小倉山庄の障子の色紙にゑらひ給ひる歌なり昔より此方板行し世に用らるゝと云とも伝写に附てあやまり来るもの少からす今又あらたに清濁を正て改板者也」僊臺伊勢屋半右衛門再板〔柱〕新百人〔刊年・等〕刊年未詳 伊勢屋半右衛門 二十六丁〔内容〕小倉百首并肖像(一面二人を出す) 頭書・三十六人女哥仙他

四 百人一首紅葉の錦 板 一冊 三・一×七・五

〔編者〕未詳〔題箋〕新板繪入百人一首紅葉の錦全〔口絵〕女和歌三神 折形之図式 手掛の熨斗 押臺之図他〔刊年・等〕刊年未詳 仙臺 伊勢屋^{半右衛門} 門版 口絵二丁 本文二十五丁

四 花陽百人一首艶葉 板 一冊 三・三×六

〔内容〕小倉百首并肖像(一面二人を出す) 頭書・女信の道を守る事他

〔編者〕未詳〔題箋〕女訓 榊方花陽百人一首 艶
柴〔柱〕百人一首〔刊年・等〕刊年未詳

皇都書林 今井菊華堂 菊屋七郎兵衛版

巻首二丁 本文四十八丁(一・二十四丁欠)

〔内容〕小倉百首并肖像(二面一人を出す)

巻頭に「百人一首之起并定家卿傳記系図

艸田子述・百人一首読人之名并歌之読曲二

條家流五ヶ大事」をのせる 頭書・紀貫之

が女の話他

三 樓鳳百人一首玉臺 板 一冊 三六〇×六

〔編者〕未詳〔題箋〕樓鳳百人一首玉臺

〔刊年・等〕刊年未詳 尾州名古屋 永楽

屋東四郎 江戸 同出店 五十丁

〔内容〕小倉百首并肖像(二面一人を出す)

頭書・百人一首読曲并五ヶの
秘歌の事他

三 女訓玉文庫 板 一冊 三六〇×七六

〔編者〕未詳〔題箋〕百人一首 女訓玉文

庫〔刊年・等〕刊年未詳 書林 北川錦雲

堂板 口絵六丁 本文五十丁

〔内容〕小倉百首并肖像(二面一人を出す)

頭書・三十六歌仙他

〔備考〕表紙に本書内容紹介の付箋を付け
る

三 女訓寶文庫 板 一冊 三九〇×六

〔画〕北尾雪坑斎〔筆者〕中谷楮同〔彫工〕

藤村善右衛門〔題箋〕榊方百人一首 女訓寶

文庫全〔刊年・等〕刊年未詳 皇都書林

近江屋宇兵衛板 四十九丁(二丁欠)

〔内容〕小倉百首并肖像(二面一人を出す)

頭書・源氏物語香の図并引歌他

〔備考〕表紙に目錄箋を付ける

三 倭百人一首 板 一冊 一六〇×二八

〔編者〕未詳〔題箋〕倭百人一首〔扉〕頭

書目錄〔柱〕百人一首〔刊年・等〕未詳

五十丁

〔内容〕小倉百首并肖像(二面一人を出す)

頭書・源氏五十四帖歌并香之図他

三 福壽百人一首 板 一冊 一六〇×三四

〔編者〕未詳〔題箋〕福壽百人一首 全〔見

返し〕定家卿小倉山荘の図〔刊年・等〕未

詳 五十丁

〔内容〕小倉百首并肖像(二面一人を出す)

頭書・女今川他

三 都百人一首 板 一冊 三〇四×二五・一

〔編者〕未詳〔題箋〕都百人一首全〔見返

し〕欠〔柱〕百人〔刊年・等〕刊年未詳

京都書林 升屋勘兵衛版 口絵一丁 本文

五十丁

〔内容〕小倉百首并肖像(二面一人を出す)

頭書・琴のくみ他

三 百人一首 板 一冊 二八〇×二七・七

〔備考〕表紙に目錄箋を付ける

〔編者〕未詳〔題箋〕欠〔刊年・等〕刊年

未詳 和漢書籍精選発兌 三都板元書店

江戸 大島屋傳右衛門等四軒 京 山城屋

佐兵衛等二軒 大坂 小島屋伊兵衛等二軒

四十三丁

但し天智天皇より河原左大臣まで十四人

欠〕頭書・源氏物語引歌并香の図他

〔備考〕表紙に小倉百首の由来を書く付箋

を付ける

三 百人一首 板 一冊 一七六×二・六

〔編者〕未詳〔題箋〕欠〔見返し〕扇面型

に六玉川の歌并図〔柱〕百人〔刊年・等〕

刊年未詳 東都 地本錦繪問屋 山田屋庄

次郎板 五十丁(最後の丁付五十三丁)

〔内容〕小倉百首并肖像(二面一人を出す)

頭書・源氏五十四帖引歌
香の図他

三 姿百人一首小倉錦 板 一冊 一七五×二・八

〔編者〕未詳〔題箋〕甘泉堂刊行姿百人一

首小倉錦〔柱〕百人〔刊年・等〕未詳 五

十丁

〔内容〕小倉百首并肖像(二面一人を出す)

頭書・教訓三十六歌撰他

三 錦囊百人一首大成 板 一冊 三〇四×六

〔編者〕未詳〔題箋〕女用 錦囊百人一首大

成〔見返し〕御所文庫 大嘉万宝百人一首全

前板哥数六百三十七首有 今此新板哥数千二百

十六首有 源氏香の図〔刊年・等〕刊年未詳

三都書林 河内屋卯助等五軒 巻首三丁

本文五十丁(但し最後の丁付八十一丁)

〔内容〕小倉百首并肖像(二面一人を出す)

頭書(二段)・六歌仙 女手習状繪解他

三 百人一首 板 一冊 一七六×二・五

〔筆者〕臨海堂〔彫工〕石井藤三郎〔題箋〕

欠(表紙に打付書で「百人一首」とある)

〔見返し〕定家卿小倉山荘の図〔刊年・等〕
刊年未詳 地本問屋 東京 松延堂 伊勢
屋庄之助梓 五十丁

〔内容〕小倉百首并肖像（一面一人を出す）
頭書・女今川他

三 泰平百人一首教鑑 板 一冊 二五・五×二七・七

〔編者〕未詳〔題箋〕女訓 媛方泰平百人一首教
鑑〔刊年・等〕刊年未詳 発行者 大阪市
赤志忠七 発兌所 大阪市 赤志忠雅堂
五十丁（末に赤志忠雅堂蔵板とある）

〔内容〕小倉百首并肖像（一面一人を出す）
頭書・三十六歌仙他

三 百人一首 板 一冊 三・七×二四・九

〔編者〕未詳〔題箋〕欠〔刊年・等〕未詳
四十二丁（欠本）

〔内容〕小倉百首并肖像（一面一人を出す）
頭書・源氏五十四帖引歌并香之図他

三 百人一首 板 一冊 二・五×二五・八

〔編者〕未詳〔題箋〕欠（表紙に打付書で
「百人一首」とある）〔見返し〕欠〔柱〕
大きく〔刊年・等〕未詳 十七丁

〔内容〕小倉百首并肖像（一面三人を出す）
頭書・婚姻之事并図他

三 小倉百人壹首 板 一冊 二五・三×二七・三

〔編者〕未詳〔題箋〕元箋欠（書題箋「小
倉百人壹首」）〔のど〕倭百人・倭大全〔刊
年・等〕未詳 六十二丁

〔内容〕小倉百首并肖像（一面一人を出す）
頭書・女国盡他 祝言之式法他合冊

三 小倉百人壹首 板 一冊（仮綴） 二五×三・三

〔編者〕未詳〔題箋〕欠（仮表紙に「小倉
百人壹首 板垣五朗」とある）〔刊年・等〕
未詳 五十四丁（最後の丁付六十丁）

〔内容〕小倉百首并肖像（一面一人を出す）
頭書・三十六人歌仙他

三 鶴壽百人一首姫鑑 板 一冊 三三・一×二六・三

〔編者〕未詳〔題箋〕欠〔見返し〕鶴壽百
人一首姫鑑〔のど〕百人〔刊年・等〕未詳
四十七丁オ（二丁欠）

〔内容〕小倉百首并肖像（一面一人を出す）
頭書・源氏香の図引歌他

三 百人一首 板 一冊 二五・二×二七

〔編者〕未詳〔題箋〕欠（表紙に打付書で
「百人一首」とある）〔刊年・等〕未詳 五
十丁

〔内容〕小倉百首并肖像（一面一人を出す）
頭書・一代守本尊他

三 菊泉百人一首 板 一冊 一八・三×二三・五

〔編者〕未詳〔題箋〕菊泉百人一首 全
〔柱〕百〔見返し〕錦葉百人一首（下に三
夕和歌）〔刊年・等〕未詳 二十五丁

〔内容〕小倉百首并肖像（一面二人を出す）
頭書・六歌仙他

三 百人一首吾妻文庫 板 一冊 一七・七×二三・三

〔編者〕未詳〔題箋〕百人一首吾妻文庫
全〔刊年・等〕年未詳 発行書肆 尾州名
古屋 永楽屋東四郎等 十三軒 五十丁

頭書・百人一首読曲并五ヶの
秘事の事他

三 金松百人一首 板 一冊 一八×三・一

〔編者〕竹内栄久〔題箋〕明治
新刻金松百人一
首 全〔見返し〕明治新刻 金松百人一首
〔柱〕金松〔刊年・等〕明治十四年（一八
八一）八月三日 東京 辻岡屋文助 五十
丁

〔内容〕小倉百首并肖像（一面一人を出す）
頭書・源氏五十四帖引歌香之図他

三 花鳥百人一首児草 板 一冊 三・八×五・六

〔画〕溪斎英泉〔筆工〕随風舎柳枝〔題箋〕
欠〔柱〕花鳥〔刊年・等〕刊年未詳 浅草
山崎屋清七板 二十七丁

〔内容〕小倉百首并肖像（一面二人を出す）
頭書・源氏五十四帖引歌并香の図

〔備考〕書名は（国総）（大江）による

三 百人一首操文庫 板 一冊 三・七×三・五

〔編者〕未詳〔題箋〕百人一首操文庫〔画〕
貞房〔見返し〕百人一首みさほ文庫〔柱〕
百〔刊年・等〕天保十五辰年（一八四四）
東都書肆 西村源六 口絵一丁 本文五十
丁

〔内容〕小倉百首并肖像（一面一人を出す）
頭書・女大学

三 百人一首操文庫 板 一冊 一八×三・四

七三に同じ 但し小型にして広重画 口絵
八丁を付ける

三 源氏百人寶文庫 板 一冊 三×二五・二

〔編者〕未詳〔題箋〕頭書
重寶源氏百人寶文庫

〔見返し〕 源氏百人寶文庫 秋景三夕和歌
并図〔柱〕源氏百人〔刊年・等〕刊年未詳
□□□兵衛梓 本文二十六丁 他五丁（最
後の丁付三十一丁）

〔内容〕小倉百首并肖像（二面二人を出す）
頭書・源氏五十四帖歌并香図他

〔備考〕後二十六丁才一三十一丁に「女用
文章」を付ける

亥 蓬萊百人一首千代鑑 板 一冊 三三・六×六

〔編者〕未詳〔題箋〕永楽 蓬萊百人一首千
代鑑 婦人一生重寶教條 〔見返し〕蓬萊 和
歌三神（色刷）〔刊年・等〕刊年未詳 書
肆 尾州名古屋 永楽屋東四郎 江戸 同
出店 巻首七丁 本文五十丁

〔内容〕小倉百首并肖像（二面一人を出す）
頭書・百人一首読曲 并五ヶの
秘歌の事他

〔備考〕表紙に目錄箋をつける

七 美玉百人一首 板 一冊 二六×三・二

〔編者〕未詳〔題箋〕錦橋堂 美玉百人一
首全〔柱〕百人〔刊年・等〕未詳 四十九
丁（一丁欠 但し最後の丁付五十三丁）

〔内容〕小倉百首并肖像（二面一人を出す）
頭書・源氏五十四帖引歌香の図他

〔備考〕表紙に目錄箋をつける

六 花鳥百人一首寶鑑 板 一冊 三三×二七・九

〔編者〕未詳〔題箋〕花鳥百人一首寶鑑
〔見返し〕和歌三神〔刊年・等〕刊年未詳
大坂書林 河内屋平七 二十六丁

〔内容〕小倉百首并肖像（二面二人を出す）

〔備考〕表紙に目錄箋をつける

頭書・婚礼の次第他

五〔百人一首〕板 一冊（仮綴）三三・二×二七・九
〔編者〕未詳〔のど〕女要 操〔刊年・等〕
未詳 六十三丁

〔内容〕小倉百首并肖像（二面一人を出す）
頭書・賢女鑑

〔備考〕小倉百首の個所6―三六錦百人一
首都織に同じ 但し口絵は異なる 表紙欠

六〔百人一首〕板 一冊 三三・四×二七・三

〔編者〕未詳〔題箋〕欠〔刊年・等〕未詳
五十丁（但し最後の丁付六十丁）

〔内容〕小倉百首并肖像（二面一人を出す）
頭書・源氏香の図引歌他

七〔百人一首〕板 一冊 二六×二・九

〔編者〕未詳〔題箋〕元箋欠（書題箋）「百
人一首」〔柱〕百人一首〔見返し〕書目
栗園蔵梓〔扉〕頭書目錄〔刊年・等〕刊年
未詳 地本錦繪問屋 東京 栗田屋 児玉
弥吉発兌 巻首二丁 本文五十丁

〔内容〕小倉百首并肖像（二面一人を出す）
頭書・源氏五十四帖歌并香図他

八 蓬萊百人一首姫鏡 板 一冊 三三・四×二七・九

〔編者〕未詳〔題箋〕蓬萊百人一首姫鏡〔見
返し〕欠〔のど〕百人〔刊年・等〕未詳
五十丁

〔内容〕小倉百首并肖像（二面一人を出す）
頭書・六玉川之図并歌他

九〔百人一首〕板 一冊 二七・九×三

〔編者〕未詳〔題箋〕欠〔柱〕百人〔刊年

・等〕未詳 四十丁（巻頭より十二首 巻
尾六首を欠く）

〔内容〕小倉百首并肖像（二面一人を出す）
頭書・琴のくみ他

十 群玉百人一首 板 一冊 二〇・八×二七・八

〔編者〕未詳〔題箋〕児女 重寶 群玉百人一首全
〔刊年・等〕未詳 口絵三丁 本文五十丁

〔内容〕小倉百首并肖像（二面一人を出す）
頭書・鏡の由来他

十一 新形百人一首 板 一冊 二二・八×二七・七

〔編者〕未詳〔題箋〕欠〔刊年・等〕未詳
五十丁

〔内容〕小倉百首并肖像（二面一人を出す）
頭書・「いろは」「アイウエオ」の五十音
他

〔備考〕表紙に色刷図あり 上部に「新形
百人一首」とある

十二 百人一首大成 板 一冊 二六・三×二六・三

〔編者〕未詳〔題箋〕欠〔柱〕百人一首大
成〔刊年・等〕未詳 巻首十二丁 本文四
十八丁（二丁欠）

〔内容〕小倉百首并肖像（二面一人を出す）
作者名の下に出典を出す 頭書（二段）・
源氏五十四帖引歌并図・伊勢物語并図等

〔備考〕表紙欠

十三 百人一首 板 一冊 二二・八×二七・三

〔編者〕未詳〔題箋〕欠〔見返し〕文海堂
識〔刊年・等〕未詳 巻首四十五丁 本文
五十丁

〔内容〕小倉百首并肖像（二面一人を出す）
頭書・皇極天皇他

6 合冊書（女訓書等と合冊するもの）

一 百人一首女要大□ 板 一冊 三・九×六・九

〔作者〕田中友水子〔擅画〕北尾雪坑斎

〔筆者〕中谷楮同〔彫工〕藤村善右衛門

〔題箋〕至百人一首女要大□〔口絵〕色刷

梅の図他〔跋〕村井範啓〔刊年・等〕寛延

二巳巳年（一七四九）正月吉辰 書林 撰

陽 村井喜太郎等三軒 八十三丁

〔内容〕小倉百首并肖像（二面一人を出す）

頭書・和国名女実記他 三十二相之事等合冊

〔備考〕表紙に目錄箋を付ける

二 女訓用文都錦 板 一冊 三・四×二・五七

〔編者〕未詳〔題箋〕重寶 大成 女訓用文都錦

〔刊年・等〕寶曆五年（一七五五）か 書

肆 兵衛板 三十四丁（最後の丁付

百十三丁）

〔内容〕小倉百首并肖像（二面一人を出す）

女文章等合冊

三 繪本深見艸 板 一冊 三・四×六

〔画〕月岡丹下〔題箋〕欠〔刊年・等〕寶

曆十四年甲申（一七六四）春正月 大坂書

肆 吉文字屋市兵衛 江戸書肆 同次郎兵

衛

〔内容〕小倉百首并肖像（二面一人を出す）

頭書・哥讀方指南他ちらし文認やう等合冊

〔備考〕書名は刊記個所「繪本深見艸」に

小倉百人一首

よる

四 紅梅百人教訓種 板 一冊 三・五×六・三

〔編者〕未詳〔題箋〕紅梅百人教訓種〔刊

年・等〕寛政八丙辰（一七九六）初稔吉日

嘉永六癸丑（一八五三）正月新板 書肆

大坂 河内屋太助板 卷首四丁 本文五十

丁 他三十六丁

〔内容〕小倉百首并肖像（二面一人を出す）

頭書・源氏香の図引歌他 女大学と合冊

五 女教大全姫文庫 板 一冊 三・五×七・七

〔編者〕未詳〔題箋〕百人一首 女教大全姫

文庫〔見返し〕序 文海堂主人誌〔刊年・

等〕刊年未詳〔安永五年（一七七六）刊・

國總〕卷首四十六丁 本文五十丁 他七十

三丁（但し最後の丁付ヲク四十七丁）

〔内容〕小倉百首并肖像（二面一人を出す）

頭書・源氏物語香図引歌他 女大学他合冊

六 百人一首 板 一冊 三・五×六・六

〔画〕下河邊拾水〔題箋〕欠〔刊年・等〕

安永五丙申歳（一七七六）孟春 書林 江

戸 須原屋茂兵衛 京都 梅村半兵衛 八

十二丁

〔内容〕小倉百首并肖像（二面一人を出す）

頭書・源氏香の図引歌他 祝言之図式他合

冊

〔備考〕改装本

七 葎文庫 板 一冊 三・五×六

〔画工〕岡田法橋玉山〔題箋〕元箋欠（書

題箋「画工法橋岡田玉山葎文庫全」〔序〕

文英堂のぬし謹てまふす〔刊年・等〕寛政

四歳壬子（一七九二）孟春発行 浪華書肆

平埜屋半右衛門 一六二丁

〔内容〕小倉百首并肖像（二面一人を出す）

頭書・和歌稽古の仕やう他 女にはのおし

多等合冊

八 女有職葎文庫 板 一冊 三・七×七・九

〔口画〕松川半山〔題箋〕百人一首 有職葎

文庫 完〔序〕文海堂主人〔刊年・等〕慶

應二丙寅（一八六六）夏再刻 書林 大坂

敦賀屋九兵衛 口絵五丁 本文二六二丁

〔内容〕七に同じ 但し順序に異同あり

九 女遊学操鑑 板 一冊 三・六×六・五

〔書画〕下河邊拾水〔題箋〕百人一首 女遊

学操鑑全〔見返し〕目錄〔刊年・等〕天明

三卯年（一七八三）初春 文化十三子丙年

（一八一六）再刻 皇都書林 寺町 菊屋七

郎兵衛等三軒 本文五十丁・他一丁 卷首

三十三丁 他五十二丁（但し最後の丁付五

十一丁）

〔内容〕小倉百首并肖像（二面一人を出す）

頭書・伊勢斎宮倭姫傳記他 四季文づくし

と合冊

一〇 女萬葉寶文庫 板 一冊 三・五×六・五

〔編者〕未詳〔題箋〕女今川 女萬葉寶文庫

〔序〕徳々堂蒼々〔刊年・等〕天明八戊申

年（一七八八）三月吉日 浪華書林 柏原

屋清左衛門板 二一六丁

六五

〔内容〕小倉百首并肖像（一面一人を出す）

頭書・源氏物語和歌他 女大学等合冊

二 女萬歳寶文庫 板 一冊 三三・三三・七・九

〔画〕法橋関月〔彫工〕樋口與兵衛〔題箋〕

女教訓 女萬歳寶文庫全〔見返し〕女萬歳寶

文庫（色刷）〔刊年・等〕天保八年丁酉（一

八三七）四月再刻 浪華書林 豊田屋卯左

衛門 二一六丁

〔内容〕一〇に同じ 但し合冊の個所板は

異なる

三 女要小倉文臺 板 一冊 三六・三三・六・三

〔画〕蕨揚斎〔彫刻〕多田辰五郎〔題箋〕

百人一首 女要小倉文臺〔口絵〕花たんさく

の図・花しきしの図〔刊年・等〕寛政壬子

年（二七九二）初秋 大坂 高橋平助梓

一〇四丁

〔内容〕小倉百首并肖像（一面一人を出す）

頭書・五節句の由来他 女用文章等合冊

〔備考〕表紙に目録箋を付ける

三 花園百人一首都錦 板 一冊 三六・三六・四

〔画〕法橋岡田玉山〔題箋〕女躰方 花園百

人一首都錦〔見返し〕花園百人一首都錦

全（色刷）〔刊年・等〕寛政五年癸丑（一

七九三）初春 大坂書肆 花谷幸福 松本

半右エ門 七十六丁

〔内容〕小倉百首并肖像（一面一人を出す）

頭書・女官名之事故 女用文章等合冊

四 百人一首玉手箱 板 一冊 三三・三七・七

〔編者〕未詳〔題箋〕教訓 女要大全 百人

一首玉手箱 完〔口絵〕定家小倉山莊図・他

〔色刷〕〔刊年・等〕寛政八辰（一七九六）

初穂吉日 嘉永六癸丑（一八五三）正月新板

大坂 河内屋太助板等九軒 口絵三丁 一

三七丁

〔内容〕小倉百首并肖像（一面一人を出す）

頭書・十二月色紙和歌他 女大学等合冊

五 冠玉百人一首水精箱 板 一冊 三三・八・七

〔編者〕未詳〔刊年・等〕文化元甲子歳（一

八〇四）甫刻 書林（記名なし）九十七丁

〔内容〕小倉百首并肖像（一面一人を出す）

頭書・増益年中行事他 女大学等合冊

〔備考〕表紙に目録箋を付ける 軼入

六 雛鶴百人一首國盡倭文章 板 一冊 三三・六

×三・七

〔編者〕未詳〔題箋〕幼童初学 雛鶴百人一

首國盡倭文章諺字改訂 至寶善本〔見返し〕國盡倭文

章 北野天満宮御神託〔柱〕百〔刊年・等〕

文化十年癸酉（一八一三）正月吉日 江戸

本問屋 雙鶴堂 鶴屋金助版 本文十三丁

他九丁

〔内容〕小倉百首并肖像（一面おむね四

人を出す）頭書・和歌三神他 国つくし倭

文章と合冊

七 萬家百人一首教帥 板 一冊 三三・九・六

〔編者〕未詳〔彫刻〕遷喬堂眠虎〔題箋〕

江戸 萬家百人一首教帥〔刊年・等〕文化十

一甲戌年（一八一四）三月 東都書林 和

泉屋庄二郎 百六十四丁

〔内容〕小倉百首并肖像（一面一人を出す）

頭書・三十六歌仙図他 隅田川往来等合冊

〔備考〕表紙に目録箋を付ける

六 相生百人一首姫鏡 板 一冊 三三・三三・五

〔筆耕〕橋本徳瓶（北尾門人）〔画〕歌川国

房〔題箋〕女今川 相生百人一首姫鏡詠歌假

正虎女素名選改〔柱〕今川〔刊年・等〕文化十一

年甲戌（一八一四）六月吉辰 書林 江戸

須原屋伊八板 三十七丁

〔内容〕小倉百首并肖像（一面二人を出す）

頭書・女用文心得之支他 女今川と合冊

元 百人一首吾妻錦 板 一冊 三五・五・六・二

〔編者〕未詳〔題箋〕改正 新板百人一首吾妻錦

女今川〔刊年・等〕文化十二年乙亥（一八

一五）正月求板 尾陽書林 名古屋 菱屋

久兵衛 皇都書林 菱屋治兵衛版 七十丁

〔内容〕小倉百首并肖像（一面一人 左右

下隅に年代并出典を出す）頭書・七夕のう

た他 女今川等合冊

〔備考〕表紙に目録箋を付ける

三 〔永花〕百人一首 板 一冊 三三・六・三・八

〔編者〕未詳〔題箋〕欠〔見返し〕□□百

人一首 栄久堂上梓 玉蘭齋画図〔柱〕永

花・女今川〔刊年・等〕文化十四丁丑年

（一八一七）七月求板 天保十四癸卯年（一

八四三）八月再刻 嘉永三庚戌年（一八五

〇）七月三刻 東都書肆 栄久堂 山本平

吉板 口絵五丁 本文五十丁（最後の丁付

五十二丁) 他十四丁

〔内容〕 小倉百首の個所4―9に同じ 女今川と合冊

三 女必用教鑑大全 板 一冊 三・三×七・六

〔編者〕 未詳〔題箋〕 諸礼 百人一首女必用教鑑大全〔序〕 文化十とせよりよとせのふゆちかくあふみのくにひと千別いふ(一八二七) 〔刊年・等〕 未詳 七十二丁

〔内容〕 小倉百首并肖像(二面一人を出す) 頭書・七草の弁他 女今川と合冊

三 和哥百人一首 板 一冊 三・九×九

〔書〕 平臨川堂 〔画〕 法橋中和 〔題箋〕 小倉和哥百人一首〔刊年・等〕 文化十五寅色紙(一八一八) 春 明治廿年(一八八七) 七月 百人一首並二哥かるた家 製本所 京都 吉田勘兵衛 一〇八丁

〔内容〕 小倉百首并肖像(二面一首を出す) 頭書・女今川教訓書他 女大学等合冊

三 万代百人一首都文箱 板 一冊 一・六×二・六

〔編并筆者〕 池田東籬亭 〔画〕 森川保之 〔題箋・目錄箋〕 欠〔見返し〕 万代百人一首都文箱・目錄〔刊年・等〕 文政十一年子(一八二八) 正月 京都書林 菱屋治兵衛 五十四丁(但し全九十九丁 最後の丁付百丁)

〔内容〕 小倉百首并肖像(一面一人を出す 人名の下に年代を示す) 頭書・歌の意 出典并図 女用四季の文等合冊

三 福壽百人一首 板 一冊 三・四×七・五

〔編者〕 未詳〔題箋〕 天保頭書註繪鈔 福壽百人一首□□□〔刊年・等〕 未詳 一〇六丁

三 金葉百人一首九重錦 板 一冊 三・五×七・五

〔内容〕 小倉百首并肖像(二面一人を出す) 頭書・歌の意 出典并図 女大学と合冊

〔書画〕 下河邊拾水 〔題箋〕 □□金葉百人一首九重錦〔刊年・等〕 天保二年辛卯(一八三一) 新板 同十四年癸卯(一八四三) 補刻 三都書林 大坂 河内屋茂兵衛等六軒

〔内容〕 小倉百首并肖像(一面一人を出す) 頭書・三十六歌仙他 本朝賢女鑑等合冊

三 婦教訓萬寶全書安都麻嘉雅美 板 一冊 三・九×六・五

〔編者〕 未詳〔題箋〕 欠〔見開き〕 婦教訓萬寶全書安都麻嘉雅美〔刊年・等〕 未詳 天保四年(一八三三) 刊(国総) 百九丁

〔内容〕 百人一首講釈図絵抄(一面一人を出す) 女今川等合冊

三 百人一首 板 一冊 三・四×七・八

〔編者〕 未詳〔題箋〕 欠〔刊年・等〕 天保五甲午歳(一八三四) 初春再刻 江戸 須原屋茂兵衛 大阪 秋田屋□□衛門 百八十四丁

〔内容〕 小倉百首并肖像(二面一人を出す) 頭書・紫式部他 女今川等合冊

〔備考〕 表紙に目錄箋を付ける

三 秀玉百人一首小倉栞 板 一冊 三・四×六

〔編者〕 東籬亭悠翁 〔画図〕 溪斎英泉 〔題箋〕 婦人珠文匣 雑録 秀玉百人一首小倉栞〔見開き〕 秀玉百人一首物目錄〔刊年・等〕 天保七年丙申(一八三六) 正月新刻 嘉永三年庚戌(一八五〇) 八月再刻 発行書林 〔江戸〕 須原屋茂兵衛等七軒 九十六丁

〔内容〕 小倉百首并肖像(一面一人を出す) 頭書・歌の意并図 自讃歌略注他(頭書は二段) 女今川と合冊

三 秀玉百人一首小倉栞 板 一冊 三・三×六

〔編者〕 〔画〕 〔見開き〕 〔刊年・等〕 〔内容〕 二八に同じ 但し本書は 女今川等合冊 百九十五丁

三 群花百人一首和歌園 板 一冊 三・七×八

〔編者〕 東籬亭悠翁 〔画〕 溪斎英泉 〔題箋〕 日用 婦人珠文匣 群花百人一首和歌園全〔見返し〕 目錄〔刊年・等〕 未詳〔天保七年(一八三六) 正月新刻 嘉永三年(一八五〇) 八月再版 発行書林 江戸 岡田屋嘉七 外六店・岸本〕 七十五丁

〔内容〕 小倉百首并肖像(一面一人 肖像左右に年代并出典を出す) 頭書・三十六歌仙図他 女今川と合冊

三

〔編者〕 未詳〔題箋〕 丹鶴百人一首宝庫全〔見返し〕 中央 〔丹鶴百人一首宝庫〕 (左右扇面・短冊・色紙型等に目次を出す) 〔柱〕 百人一首 女今川〔口絵〕 和歌三神・

三 丹鶴百人一首宝庫 板 一冊 三・三×五・五

〔内容〕 小倉百首并肖像(一面一人を出す) 頭書・歌の意并図 自讃歌略注他(頭書は二段) 女今川と合冊

三 秀玉百人一首小倉栞 板 一冊 三・三×六

〔編者〕 〔画〕 〔見開き〕 〔刊年・等〕 〔内容〕 二八に同じ 但し本書は 女今川等合冊 百九十五丁

三 群花百人一首和歌園 板 一冊 三・七×八

〔編者〕 東籬亭悠翁 〔画〕 溪斎英泉 〔題箋〕 日用 婦人珠文匣 群花百人一首和歌園全〔見返し〕 目錄〔刊年・等〕 未詳〔天保七年(一八三六) 正月新刻 嘉永三年(一八五〇) 八月再版 発行書林 江戸 岡田屋嘉七 外六店・岸本〕 七十五丁

〔内容〕 小倉百首并肖像(一面一人 肖像左右に年代并出典を出す) 頭書・三十六歌仙図他 女今川と合冊

三 丹鶴百人一首宝庫 板 一冊 三・三×五・五

〔編者〕 未詳〔題箋〕 丹鶴百人一首宝庫全〔見返し〕 中央 〔丹鶴百人一首宝庫〕 (左右扇面・短冊・色紙型等に目次を出す) 〔柱〕 百人一首 女今川〔口絵〕 和歌三神・

〔備考〕 表紙に目錄箋を付ける

三 秀玉百人一首小倉栞 板 一冊 三・四×六

〔編者〕 東籬亭悠翁 〔画図〕 溪斎英泉 〔題箋〕 婦人珠文匣 雑録 秀玉百人一首小倉栞〔見開き〕 秀玉百人一首物目錄〔刊年・等〕 天保七年丙申(一八三六) 正月新刻 嘉永三年庚戌(一八五〇) 八月再刻 発行書林 〔江戸〕 須原屋茂兵衛等七軒 九十六丁

〔内容〕 小倉百首并肖像(一面一人を出す) 頭書・紫式部他 女今川等合冊

〔備考〕 表紙に目錄箋を付ける

〔備考〕 表紙に目錄箋を付ける

六歌仙・三夕之図並和歌〔色刷〕〔刊年・等〕天保九成年（一八三八）正月 東都書林 和泉屋市兵衛板等三軒 口絵二丁 本文五十丁 他十四丁

〔内容〕小倉百首并肖像（二面一人を出す）

頭書・源氏五十四帖引歌と香の図 他 女今川と合冊

三 錦葉百人一首小倉栞

板 一冊 三・八×六

〔編者〕未詳〔題箋〕幼稚 講釈 錦葉百人一首小倉栞全 年中重宝 〔柱〕花鳥文素（女筆花鳥文素の個所）〔刊年・等〕天保十巳亥年（一八三九）三月発行 地本問屋 江戸 錦森堂 森屋治兵衛板 口絵三丁 本文五十丁 他四十丁

〔内容〕小倉百首并肖像（二面一人を出す）

頭書・歌の意并図 女筆花鳥文素と合冊

三 小倉百人一首

板 一冊 一・八×三・七

〔編者〕未詳〔題箋〕元箋欠（書題箋）〔百人一首文の文合〕〔見返し〕小倉百人一首色□□〔柱〕小倉〔刊年・等〕天保十年己亥（一八三九）三月新鐫 東都書林 須原屋茂兵衛等三軒 百三十三丁

〔内容〕小倉百首并肖像（二面一人を出す）

頭書・百人一首読くせ他 女用文章等合冊

三 女教百人一首合鏡

板 一冊 二・五×六・三

〔編者〕未詳〔画〕奥半山〔題箋〕孝貞 女教百人一首合鏡 全〔刊年・等〕天保十三年（一八四二）初春再刻 書林 大阪 秋田屋太右衛門等九軒 二〇四丁

〔内容〕小倉百首并肖像（二面一人を出す）

頭書・源氏短歌他 女大学等合冊

三 女教百人一首

板 一冊 二・五×六・五

〔編者〕未詳〔画〕〔題箋〕〔刊年・等〕〔内容〕三四に同じ 但し順序に異同あり 二〇三丁

〔内容〕小倉百首并肖像（二面一人を出す）

頭書・源氏短歌他 女大学等合冊

〔備考〕「女教百人一首」女大学 女実語教 女今川 浪花書林 田中宋栄堂」とある包紙添付

紙添付

女教百人一首合鏡 板 一冊 二・五×六・五

〔内容〕小倉百首并肖像（二面一人を出す）

頭書・源氏短歌他 女大学等合冊

〔備考〕「女教百人一首」女大学 女実語教 女今川 浪花書林 田中宋栄堂」とある包紙添付

紙添付

女教百人一首合鏡 板 一冊 二・五×六・五

〔編者〕未詳〔画〕〔題箋〕〔刊年・等〕〔内容〕三四に同じ 但し順序に異同あり 二〇三丁

〔内容〕小倉百首并肖像（二面一人を出す）

頭書・源氏短歌他 女大学等合冊

〔備考〕「女教百人一首」女大学 女実語教 女今川 浪花書林 田中宋栄堂」とある包紙添付

紙添付

女教百人一首合鏡 板 一冊 二・五×六・五

〔編者〕未詳〔画〕〔題箋〕〔刊年・等〕〔内容〕三四に同じ 但し順序に異同あり 二〇三丁

〔内容〕小倉百首并肖像（二面一人を出す）

頭書・源氏短歌他 女大学等合冊

〔備考〕「女教百人一首」女大学 女実語教 女今川 浪花書林 田中宋栄堂」とある包紙添付

紙添付

女教百人一首合鏡 板 一冊 二・五×六・五

〔編者〕未詳〔画〕〔題箋〕〔刊年・等〕〔内容〕三四に同じ 但し順序に異同あり 二〇三丁

〔内容〕小倉百首并肖像（二面一人を出す）

頭書・源氏短歌他 女大学等合冊

〔備考〕「女教百人一首」女大学 女実語教 女今川 浪花書林 田中宋栄堂」とある包紙添付

紙添付

女教百人一首合鏡 板 一冊 二・五×六・五

〔編者〕未詳〔画〕〔題箋〕〔刊年・等〕〔内容〕三四に同じ 但し順序に異同あり 二〇三丁

〔内容〕小倉百首并肖像（二面一人を出す）

頭書・源氏短歌他 女大学等合冊

〔備考〕「女教百人一首」女大学 女実語教 女今川 浪花書林 田中宋栄堂」とある包紙添付

紙添付

女教百人一首合鏡 板 一冊 二・五×六・五

年・等〕弘化四丁末（一八四七）正月補刻 江戸書林 山城屋佐兵衛 大阪書林 秋田屋市兵衛 秋田屋太右衛門 皇都書林 菱屋友七 近江屋卯兵衛 百十二丁

〔内容〕小倉百首并肖像（二面一人を出す）

頭書・三十六歌仙他 女大学等合冊

百人一首小倉山 板 一冊 二・三×七・八

〔編者〕未詳〔題箋〕元箋欠（書題箋）〔百人一首小倉山〕〔刊年・等〕弘化四丁末（一八四七）正月補刻〔江戸〕山城屋佐兵衛 大阪書林 秋田屋太右衛門等二軒 皇都書林 菱屋友七等二軒 百丁（最後の丁付五十丁）

〔内容〕小倉百首并肖像（二面一人を出す）

頭書・五節句の由来他 女用文章等合冊

女大学寶箱 板 一冊 二・五×七・九

〔著者〕貝原益軒〔題箋〕欠〔見返し〕女大学寶箱 益軒貝原先生述 浪花書肆 稱航堂藏版〔柱〕女大かく 百人一首〔刊年・等〕弘化五年戊申（一八四八）三月吉日 書林 大坂 柏原清衛門等三軒 一二二丁

〔内容〕小倉百首并肖像（二面一人を出す）

頭書・源氏物語五十四帖引歌繪抄并略解他 女大学等合冊

女教百人一首 板 一冊 二・五×七・八

〔編者〕未詳〔題箋〕元箋欠（書題箋）〔女教百人一首〕〔刊年・等〕嘉永三庚戌歲（一八五〇）初春再刻 諸国発行書林 大阪 秋田屋太右エ門等十軒 一二四丁

〔内容〕小倉百首并肖像（二面一人を出す）

頭書・源氏物語五十四帖引歌繪抄并略解他 女大学等合冊

女教百人一首 板 一冊 二・五×七・八

〔編者〕未詳〔題箋〕元箋欠（書題箋）〔女教百人一首〕〔刊年・等〕嘉永三庚戌歲（一八五〇）初春再刻 諸国発行書林 大阪 秋田屋太右エ門等十軒 一二四丁

〔内容〕小倉百首并肖像（二面一人を出す）

頭書・源氏物語五十四帖引歌繪抄并略解他 女大学等合冊

女教百人一首 板 一冊 二・五×七・八

〔編者〕未詳〔題箋〕元箋欠（書題箋）〔女教百人一首〕〔刊年・等〕嘉永三庚戌歲（一八五〇）初春再刻 諸国発行書林 大阪 秋田屋太右エ門等十軒 一二四丁

〔内容〕小倉百首并肖像（二面一人を出す）

頭書・源氏物語五十四帖引歌繪抄并略解他 女大学等合冊

女教百人一首 板 一冊 二・五×七・八

〔編者〕未詳〔題箋〕元箋欠（書題箋）〔女教百人一首〕〔刊年・等〕嘉永三庚戌歲（一八五〇）初春再刻 諸国発行書林 大阪 秋田屋太右エ門等十軒 一二四丁

〔内容〕小倉百首并肖像（二面一人を出す）

頭書・源氏物語五十四帖引歌繪抄并略解他 女大学等合冊

女教百人一首 板 一冊 二・五×七・八

〔編者〕未詳〔題箋〕元箋欠（書題箋）〔女教百人一首〕〔刊年・等〕嘉永三庚戌歲（一八五〇）初春再刻 諸国発行書林 大阪 秋田屋太右エ門等十軒 一二四丁

〔内容〕小倉百首并肖像（二面一人を出す）

〔内容〕小倉百首并肖像（二面一人を出す）
頭書・鏡の由来他 女大学等合冊

三 〔百人一首〕 板 一冊 二一七・七六

〔編者〕未詳〔題箋〕欠〔口絵〕春翠画
衣通姫・太田道灌・祇園の於梶（色刷）〔刊
年・等〕安政元年甲寅（一八五四） 京都
越後屋治兵衛等四軒 口絵二丁 本文五十
丁 他五十一丁

〔内容〕小倉百首并肖像（二面一人を出す）
頭書・鏡の由来他 女用文章稚鑑と合冊

三 操百人一首華文庫 板 一冊 三六・八・二

〔編者〕未詳〔題箋〕遺訓 賢女
庫〔柱〕百人一首 女大かく〔序〕明善堂
主人誌〔刊年・等〕安政二卯年（一八五五）
仲秋 明治廿四年（一八九一）三月求版
女大学明治九年（一八七六）二月版權免許
大阪書林 原版主 赤志忠七 求版主 中
川勘助 口絵他七十八丁 本文五十丁 女
大学他七十一丁

〔内容〕小倉百首并肖像（二面一人を出す）
頭書・賢女遺訓他 女大学等合冊

三 錦百人一首色紙箱 板 一冊 三六・七・七六

〔画〕石田玉山〔題箋〕錦百人一首色紙箱
〔序〕文化九の年といふとの夏五月（無
記名）〔刊年・等〕文化十年癸酉（一八一三）
春正月発行 安政三丙辰歳（一八五六）補
刻 大阪 小林利兵衛 米田清左エ門元板
発行書肆 京都 吉野屋甚助 浪花 敦賀
屋彦七 藤屋宗兵衛 一〇七丁

〔内容〕小倉百首并肖像（色刷）（一面一人
を出す）頭書・源氏香の図并引歌他 女大
学等合冊

三 錦百人一首色紙箱 板 一冊 三六・八・七六

四四に同じ 但し序はない
〔備考〕布表紙

三 若鶴百人一首 板 一冊 三六・七・七六

〔画〕石田玉山〔題箋〕四季用文章 女教訓
若鶴百人一首全〔刊年・等〕文化十年癸酉
（一八一三）春正月 安政三丙辰歳（一八
五六）補刻 大阪 小林利兵衛 米田清左
エ門元板 発行書肆 京都 吉野屋甚助
浪花 敦賀屋彦七 藤屋宗兵衛 百六十八
丁

〔内容〕小倉百首并肖像（二面一人を出す）
頭書・源氏香の図并引歌他 女年中用文章
等合冊

三 女訓百人一首教鑑 板 一冊 三五・五・六

〔編者〕未詳〔題箋〕婦女
鑑 全〔口絵〕六歌仙（色刷）〔刊年・等〕
萬延元庚申年（一八六〇）秋増補再刻 東
都書林 岡田屋嘉七等十軒 巻首十八丁
本文五十丁 他八十三丁（但し最後の丁付
文六十九丁）

〔内容〕小倉百首并肖像（二面一人を出す）
頭書・いろと姫の事他 女今川等合冊

三 栄海百人一首大全 板 一冊 三五・三・六

〔備考〕表紙に目録箋を付ける
〔書〕東籬亭〔画〕大年・祭魚（以上宮武に

よる）〔題箋〕欠〔見返し〕日礼 女教訓 栄
海百人一首大全〔刊年・等〕刊年未詳 慶
應元年板（一八六五・宮武）発行書肆 大
阪 河内屋和助等十一軒 百二十七丁

三 明壽百人一首 板 一冊 三六・七・七六

〔内容〕小倉百首并肖像（二面一人を出す）
頭書・婚禮式心得次第他 女文章手引草等
合冊

三 伊藤甲造〔題箋〕明壽百人一首全

〔見返し〕目録（色刷）〔刊年・等〕明治十
三年（一八八〇）十月 出版人 信濃園
伊藤多き 發兌書林 同 汲古堂等三軒
口絵五丁 本文六十一丁

〔内容〕小倉百首并肖像（二面一人を出す）
頭書・百人一首講訳并繪抄他 女今川と合
冊

三 欽英百人一首千歳寶 板 一冊 三五・五・六

〔著者〕伊澤駒吉〔口画〕翠榮堂半山〔題
箋〕孝貞 欽英百人一首千歳寶全〔序〕文海
堂主人〔刊年・等〕明治廿四年（一八九一）
二月十六日 大阪市 此村庄助 賣捌所
同 此村欽英堂 口絵五丁 二百四十七丁
〔内容〕小倉百首并肖像（二面一人を出す）
頭書・三十六歌仙他 女大学等合冊

三 欽英百人一首千歳寶 板 一冊 三五・五・六

五〇に同じ 女大学（但し五〇と板は異
る）等合冊 丁数一九五丁
〔備考〕「欽英百人一首 欽英堂梓」色刷図

ある袋がある

三 錦花百人一首千代壽 板 一冊 二五・九×七

九

〔著者〕伊澤駒吉〔画〕翠栄堂半山〔題箋〕百人一首 錦花百人一首千代壽全〔序〕文海女媛方 堂主人〔刊年・等〕明治廿四年(一八九二) 二月十六日 大坂市 此村庄助 売捌所

此村欽英堂 百二十二丁
〔内容〕小倉百首并頭書個所五〇に同じ
頭書・三十六歌仙他 女大学等合冊

三 浪華百人一首忘貝 板 一冊 二五・四×六

〔著者〕伊澤駒吉〔画〕翠栄堂半山〔題箋〕浪華百人一首忘貝〔刊年・等〕明治廿四年(一八九二) 二月十六日 発行者 大坂此村庄助 売捌所 同 此村欽英堂 口絵 二丁 本文八十六丁 他三丁

〔内容〕小倉百首并頭書個所 五〇に同じ
頭書・三十六歌仙他 女大学と合冊

五 浪華百人一首忘貝 板 一冊 二六・六×七・八

〔著者〕〔画〕〔刊年・等〕〔内容〕五〇に同じ 口絵五丁 本文八十六丁 (巻首に婚礼の式他五丁を付ける)

五 女教草大和錦 板 一冊 三・八×七・二

〔編者〕一琴楼胤信〔題箋〕百人女教草大和錦全〔序〕自序〔刊年・等〕未詳 二四一丁

〔内容〕小倉百首并肖像(一面一人を出す) 頭書・女中嗜みの道歌他 女大学等合冊
〔備考〕表紙に目録箋を付ける

五 じようちゑふくろ 板 一冊 二四・七×七

九

〔編者〕未詳〔題箋〕欠〔見返し〕じようちゑふくろ 金花堂〔刊年・等〕刊年未詳 日本橋 金花堂須原屋佐助 二百三十二丁

〔内容〕小倉百首并肖像(一面一人を出す) 頭書・三十六歌仙他 女用文章栄花鑑等合冊

五 源氏百人一首 板 一冊 二六×二・九

〔編者〕未詳〔題箋〕源氏百人一首 全〔柱〕百人〔口絵〕古今集六歌僊〔刊年・等〕未詳 本文二十六丁 他七丁(最後の丁付三十三丁)

〔内容〕小倉百首并肖像(一面二人を出す) 頭書・源氏五十四帖引歌并香の図 他 女今川と合冊

五 女教百人一首合鏡 板 一冊 二五・五×七・七

〔編者〕未詳〔題箋〕童女重法 女大学女教百人一首合鏡〔見返し〕欠〔刊年・等〕未詳 巻首十九丁 本文五十丁

〔内容〕小倉百首并肖像(一面一人を出す) 頭書・女手わざ草他 女大学と合冊

五 女訓寶文庫 板 一冊 三・八×一六・三

〔画〕北尾雪坑斎〔筆者〕中谷椿同〔彫工〕藤村善右衛門〔題箋〕媛方百人一首女訓寶文庫〔刊年・等〕刊年未詳 皇都書林 近江屋宇兵衛 巻首四丁 本文五十丁 他三十六丁

〔内容〕小倉百首并肖像(一面一人を出す) 頭書・五節供の由来他 女大学と合冊

〔備考〕表紙に目録箋を付ける

六 女訓寶文庫 板 一冊 三・四×一五・七

〔画〕〔筆者〕〔彫工〕五九に同じ〔題箋〕媛方百人一首女訓寶文庫〔刊年・等〕刊年未詳 大坂市 浜本伊三郎 売捌所 大坂市 明昇堂 五十丁 他三十六丁

〔内容〕小倉百首并肖像 五九に同じ 頭書・源氏香之図引歌他 女大学と合冊

六 百人一首浪□□□ 板 一冊 二五×七・五

〔編者〕未詳〔題箋〕破損読めず〔刊年・等〕刊年未詳 萬国書籍賣捌所 製本発兌美濃大垣岐阜町 岡安慶介 七十八丁

〔内容〕小倉百首并肖像(一面一人を出す) 頭書・しうげんの次第他 女いましめ草等合冊

三 女訓玉文庫 板 一冊 二七・四×三

〔編者〕未詳〔題箋〕百人首女訓玉文庫〔刊年・等〕刊年未詳 大坂 小谷卯兵衛 同 浜本伊三郎 口絵四丁 本文八十六丁

〔内容〕小倉百首并肖像(一面一人を出す) 頭書・本朝女二十四孝傳他 女大学と合冊

三 御家百人一首千歳文庫 板 一冊 二五×六

〔筆者〕猪瀬尚賢〔画〕英山〔題箋〕御家百人一首千歳文庫全〔見返し〕御家百人一首千歳文庫 尚賢老人筆(色刷)〔刊年・等〕

刊年未詳 和漢洋書籍発行所 東京市 藤井利八 口絵五丁 本文五十丁 他十五丁

〔内容〕小倉百首并肖像（一面一人を出す）

頭書・書初之詩哥他 女大学と合冊

〔備考〕慶応元年（一八六五）刊（國總の後摺本か）

亥 萬玉百人一首 板 一冊 三五・五〇・七七

〔書画〕下河邊拾水〔題箋〕女大随一操

大全〔見返し〕萬玉百人一首〔色刷〕〔刊年・等〕刊年未詳 書林 大坂 綿屋善兵衛 一〇七丁

〔内容〕小倉百首并肖像（一面一人を出す）

頭書・弟姫の事他 女大学等合冊

〔備考〕表紙に内容紹介の付箋あり

子 若鶴百人一首 板 一冊 三五・七七・六一

〔編者〕未詳〔題箋〕女教訓 女方文章若鶴百人一首全〔見返し〕七夕の歌并図（色刷）〔刊年・等〕刊年未詳 御書物并御経類現銀安賣所 京都 玉瀾堂 吉野屋甚助 八十七丁

〔内容〕小倉百首并肖像（一面一人を出す）

頭書・源氏香の図并引歌他 女大学等合冊

丑 百人一首操鑑 板 一冊 三〇・四・六

〔画〕静斎英一〔題箋〕新版百人一首操鑑完〔見返し〕百人一首大和錦 和歌三神の肖像（色刷）〔柱〕慶玉〔刊年・等〕未詳 口絵二丁 本文五十丁 他三十六・四十三丁

〔内容〕小倉百首并肖像（一面一人を出す）

頭書・女今川他 女大学等合冊

〔備考〕美玉百人一首 板 合一冊 七・八・二・九

〔編者〕未詳〔題箋〕錦橋堂美玉百人一首全〔柱〕百人〔見返し〕扇面に六玉川の歌并図〔刊年・等〕刊年未詳 東都地本錦繪問屋 山田屋庄次郎板 口絵三丁 本文五十丁

〔内容〕小倉百首并肖像（一面一人を出す）

頭書・源氏五十四帖引歌并香の図他 女用文と合冊

〔備考〕小倉百首の個所五―七七に同じ

〔編者〕未詳〔題箋〕千歳百人操鑑 女今川女大

〔柱〕百 だいがく〔口絵〕和歌三神・小倉山他（色刷）〔刊年・等〕刊年未詳 江都書林 山口屋藤兵衛等八軒 口絵二丁 本文二十五丁 他十四・四十六丁（最後の丁付六十一丁）

〔内容〕小倉百首并肖像（一面二人を出す）

頭書・三十六歌仙図他 女今川等合冊

〔備考〕百人一首 板 合一冊 三・六・一

〔編者〕未詳〔題箋〕欠〔刊年・等〕未詳 百五十一丁

〔内容〕小倉百首并肖像（一面一人を出す）

頭書・一代守本尊他 御成敗式目等合冊

〔備考〕春秋百人一首 板 合一冊 三・三・五

〔編者〕未詳〔題箋〕春秋百人一首〔刊年・等〕刊年未詳 本類卸所 阿波屋定次郎

京 墨屋吉兵衛求板 十一丁

〔内容〕小倉百首并肖像（一面五人 各々鏡型に入れる）一面中間左右に書初のうた又は七夕のうたを出す 熊谷状と合冊

〔備考〕萬代百人一首都文箱 板 一冊 一六・三・二

〔編者〕未詳〔題箋〕萬代百人一首都文箱〔見返し〕欠〔刊年・等〕刊年未詳（文政十年原版・宮武）京都書肆 辻本九兵衛等三軒 七十七丁

〔内容〕小倉百首并肖像（一面一人を出す）

頭書・歌の意并図他 女今川と合冊

〔備考〕菊壽百人一首濱真砂 板 一冊 三・五・七

〔書〕佐藤史鼎〔画〕鋏形蕙斎〔題箋〕欠〔柱〕百人〔見返し〕佐藤先生書 菊壽百人一首濱真砂 鋏形蕙斎画 重田一九頭書 金幸堂梓〔刊年・等〕刊年未詳 京都書林 金幸堂 菊屋幸三郎板 口絵五丁（色刷） 本文八十九枚（但し最後の丁付五十丁）

〔内容〕小倉百首并肖像（一面一人を出す）

頭書・裁もの傳じゆ他 女用文と合冊

〔備考〕千載百人一首倭壽 板 一冊 二・九・七・六

〔編者〕未詳〔題箋〕頭書繪抄 女訓 必用 千載百人一首倭壽〔柱〕女重寶記〔見返し〕七種の図〔扉〕高井蘭山著 増補 日用 女重寶記 應為栄女画 温故堂〔序〕巳丑孟冬 高井蘭山翁〔色刷〕〔刊年・等〕刊年未詳 書林 尾州名古屋 美濃屋文次郎 大坂 秋

田屋市五郎

〔内容〕小倉百首并肖像（一面一人を出す）

頭書・歌の意并出典・図 女重寶記と合冊

七 都百人一首千載囊 板 一冊 三三×二七・九

〔編者〕未詳〔題箋〕都百人一首千載囊

〔序〕文海堂あるし誌〔刊年・等〕刊年未詳

書房 京都 錢屋惣四郎 江戸 須原

屋茂兵衛 大坂 敦賀屋九兵衛版 口絵四

丁 本文五十一丁 他四十八丁

〔内容〕小倉百首并肖像（一面一人を出す）

頭書・婚禮の図式他 女用文章と合冊

〔備考〕「都百人一首千載囊」色刷図ある

袋添付

五 文玉百人一首 板 一冊 三五×二七・五

〔画〕玉蘭斎〔題箋〕文玉百人一首〔見返

し〕文玉百人一首 定家卿小倉山荘の図

〔柱〕文玉百人一首・女・女小・女中〔刊

年・等〕刊年未詳〔江戸〕山崎屋清七 二

一三丁

〔内容〕小倉百首并肖像（一面一人を出す）

頭書・歌の意并図 女今川等合冊

〔備考〕「文玉百人一首 玉蘭斎画」色刷の

図ある袋添付

六 錦葉百人一首大全 板 一冊 三三×二六

〔編者〕未詳〔題箋〕錦葉百人一首大全〔刊

年・等〕刊年未詳 尾州名古屋 永楽屋東

四郎江戸 同出店 一〇〇丁

〔内容〕小倉百首并肖像（一面一人を出す）

頭書・鏡の由来の記他 女今川等合冊

七 今様百人一首吾妻錦 板 一冊 三三×二六

・一

〔編者〕未詳〔題箋〕今様百人一首吾妻錦

〔刊年・等〕刊年未詳 書肆 尾州名古屋

永楽屋東四郎 江戸 同 出店 二〇二丁

〔内容〕小倉百首并肖像（一面一人を出す）

頭書・百人一首読曲并五ヶの他 女今川等

合冊

八 百人一首 板 一冊 二七×二八

〔編者〕未詳〔題箋〕欠〔柱〕百・だいが

く〔刊年・等〕刊年未詳 江都書林 山口

屋藤兵衛等八軒 口絵色刷二丁 本文二十

四丁（一丁欠）他五十八丁

〔内容〕小倉百首并肖像（一面二人を出す）

頭書・三十六歌仙他 女今川等合冊

7 雑（1〜6に入らぬもの）

A 図書形式

一 繪本小倉山 板 上中二冊（下欠）三三×二六

・一

〔編者〕酔墨子〔画〕西川祐信〔題箋〕繪

本小倉山〔柱〕上ノ一・二〔序〕自序〔成立〕

寛延二（一七四九）刊〔國總〕〔刊年・等〕

未詳 上卷十五丁 中卷十五丁

〔内容〕見開き一丁に小倉百首并略注と歌

意の図をのせる

二 繪本小倉山 板 一冊 三三×二五・七

〔著者・刊年・等〕未詳〔題箋〕欠〔丁数〕

二十丁

〔内容〕見開き一丁に図 右上隅に小倉百

首をおく その左に下句をそのまゝにして

上句を替え「町方女」「扇屋女」「老女姿」

等の心を詠む替歌を出す 下に歌の意をの

せる

三 倭詞接木花 板 上下二冊 三三×二七・三

〔画図〕下河邊拾水〔題箋〕百人一首 倭詞

接木花〔序〕明和六のとしのどかなる春日

孤峯堂しるす〔跋〕蓬戸子述〔刊年・等〕

明和六己丑（一七六九）年正月吉日 京都

書林 吉村吉左衛門 梶井藤兵衛新刻 上

巻十七丁 下巻十四丁

〔内容〕小倉百首の句をとりかえて新たな一

首を作る 跋に「百人一首すべて一首は五

句にして百首五百句に及べるその句をさま

ゞに取かへて我情をのべ侍らばたとひ七

八才の童たりとも哥よまん事のかたかるべ

きにや……」とあり 柿本人麿の個所に

「百人一首のみにもかぎらず古今集いせも

のがたり自讃哥の哥がるたを用ひてつねに

句をぬきかへて稽古すべし是哥をよみなら

ふ事の最初なり」とある

四 小倉山百人 板 一冊 三三×二六

〔著者〕未詳〔題箋〕小倉山百人 ゆふたす

き〔刊年・等〕未詳 十八丁

〔内容〕小倉百首の折句 春二十首・天智

天皇御製のかぶり字より元良親王の御哥の

かしら字まで 夏拾五首折句・素性法師の

哥のかぶり字より紀貫之のうたのかしら字
まで 穂二十首折句・清原深養父のうたの
冠字より大納言公住卿の哥のかしら字まで
冬拾五首折句・和泉式部の哥のかぶり字よ
り良暹法師のうたのかしら字まで 恋十五
首折句・大納言経信卿の哥のかぶり字より
俊恵法師のうたのかしら字まで 雑拾五首
折句・西行法師の哥のかぶり字より須徳院
御製のかしら字まで 後に別歌冠句五首づ
つを折句ゆふたすぎ 二十組をつける 卷
末に天明五のうし(一七八〇)十一月中の
八日年齢七十歳老叟自詠自書とある

〔備考〕①「秋の田のかりほの庵の苫をあ
らみわが衣手は露にぬれつゝ」②「あまて
らす神代の春やときはきの若みとりそふ月
よみのもり」①小倉百首各句の頭の字をと
り②各句の頭においた折句

五 百人一首和歌始衣抄 板 一冊 六・五×三
・八

〔別名〕初衣抄(國總)〔著者・画〕山東
京傳〔題箋〕元箋欠(書題箋)百人一首和歌初衣
抄全〔内容〕百人一首和歌始衣抄〔序〕
天明七年丁未(一七八七)孟暉 楓葉山東隱
土京傳老人識・源傳〔跋〕茶飯吉奈良京橋
山東源京傳 在判 天明七歳丁正月初店日
京傳門子月池 朱翁鷄告誌花押〔刊年・等〕
刊年未詳 書林 江戸 高屋重三郎 序・
口絵五丁 本文三十六丁 跋一丁
〔内容〕小倉百首の中より十八首を選び戯

小倉百人一首

註を施したるもの

〔備考〕跋に「これにもれたる哥の註は跡
のく選集をあらはし。跡著衣抄と題して
後編とす」とある ④日本名著全集江戸文
芸之部 第十二卷洒落本集所収

六 百人一首倭歌占 板 一冊 六×二・八

〔著者〕未詳〔題箋〕欠〔刊年・等〕未詳
天保十四年(一八四三)刊(國總)二十六
丁

〔内容〕小倉百首并図(一面三人を出す)
後に哥占ひの仕方 卦の判断をのせる

〔備考〕巻頭の歌上部に「百人一首倭歌占」
とある

七 百人一首 板 二冊 三・六×六・五

〔著者〕小畑行簡〔成立〕弘化二年序〔題
箋・内題〕百人一首〔見返し〕百人一首

詩山小畑先生著 此書は古來伝はる所の百
人一首のうたにして其意に擬し絶句を作り
童蒙書を学ぶ者に便ならしめんと欲し梓に
鋳む且これを熟読するときは人情のいたれ
る所道義の存するところをしるにたらむと
しかいふ 嵩山房主人謹識〔序〕弘化二年
(一八四五) 秋九月仲流 前鳥山城主隣忠
成撰・同年自序〔刊年・等〕弘化三年午
(一八四六) 春二月 小畑中務著 書坊

江戸須原屋新兵衛等三軒 卷之一 序三丁
本文二十五丁・卷之二 二十五丁

〔内容〕小倉百首を七言絶句に訳した一
面に一人の歌と絶句をのせる

八 百人一首歌占鈔 板 合一冊 三・三×五・四

〔著者〕花洲松濤〔成立〕嘉永元年(一八
四八)〔題箋〕百人一首歌占鈔〔見返し〕
百人一首歌占鈔全二冊 花洲松濤先生著
浪華 花洲藏板〔柱〕歌占鈔〔序〕嘉永戊
申夏至日自序〔刊年・等〕刊年未詳 三都
發行書林 大坂 秋田屋太右衛門等九軒
一卷 卷首六丁 本文三十八丁・二卷四十
丁 目錄一丁

〔内容〕小倉百首に略注をほどこし 各々
に卦を出す これを占の料とする 卷末本
書紹介欄には「小倉の百首の歌の心を一首
く委しく註釈を加へ六十四卦に配属し
て易の蘊を著し占を専としひとつには歌学
の便ともなるべきやうして歌占の実事を詳
にあらはす」とある

九 百人一首 小倉山松のしづく 附たり作替都々逸
一首 完 活 一冊 一五×三・八

〔編者〕山本将茂〔叙〕明治戊申彩月 自
叙〔刊年・等〕明治四十一年(一九〇八)
十月十五日 大阪市 山本将茂 一〇〇頁

〔内容〕叙に「一々其歌の出所を調べ原本
に依つて句を正し概子題を示し且つ尤も的
確簡明に解釈を加へ之れに自己の拙画を添
へ尚妓流粹者に専唱さるべき情歌に憑つて
本歌の解釈を一段平易鮮明にせり」とある

一〇 小倉百首 かるたの研究 洋 一冊 二五×九
〔著者〕石井茂二郎〔刊年・等〕大正九年
(一九二〇) 十月十五日六版〔初版大正六

年〕

〔内容〕

〔備考〕

〔備考〕

〔備考〕

〔備考〕

〔備考〕

〔備考〕

〔備考〕

〔備考〕

年(一九一七)八月三十日] 東京 富田文

陽堂 二五〇頁

二 百人一首 富士百首 附富士探勝栞 活 一冊 三・五

×一五・一

〔著作者〕 安達健造〔刊年・等〕 大正十五年(一九二六)六月十八日 静岡市 尚古堂 一〇三頁 附録一二頁

〔内容〕 頭書に小倉百首をのせ 下にその初句を入れて百首をよむ

三 百人 かるたの話(一名・必勝の秘訣) 洋一冊 九・二×三・八

〔編者〕 東京かるた会〔刊年・等〕 昭和元年(一九二六)十二月三十日再版〔初版大正十五年十二月二十日〕 東京 東京図案印刷株式会社 二六八頁

二 倉百人一首早取秘法 洋 一冊 二四四×二〇・五

〔著者〕 緑葉山人〔刊年・等〕 昭和八年(一九三三)一月十日 大阪 田中元文社 一三〇頁

二 百人一首図考小倉のにしき 折 五帖 三・三×三・三

〔著作者〕 飯田始晃〔題箋〕 百人一首図考小倉のにしき〔序〕 (一)昭和十年(一九三三)十月 佐佐木信綱(二)昭和十一年一月 猪熊浅麻呂(三)尾上八郎(歌) 四与謝野晶子(歌) (五)千葉胤明(歌)〔刊年・等〕 昭和十年十二月十五日―昭和十二年六月五日 京都・東京 芸艸堂

〔内容〕 見開き二丁右上隅に小倉百首の作者名并歌を出し左一面に歌意の図を彩色を以てかく(各帖二十首)各帖末に佐佐木信綱著「百人一首講義」に依る解説を付ける

二 小倉百人一首の歌がたるたあなたも名人になれる 洋 一冊 七・六×二〇・五

〔著者〕 西田直二郎 鈴山透〔刊年・等〕 昭和三十二年(一九五七)十二月十五日 京都 関書院 一二九頁

〔内容〕 歌がたるた早取法・小倉百首の通解

六 トランプ・花札・百人一首 洋 一冊 六・七×二・三

〔著者〕 渡辺博〔刊年・等〕 昭和四十四年(一九六九)十一月十五日 東京 池田書店 実用新書五四

七 百人一首 板 一冊 七・二×九

〔作者〕 柏葉軒〔題箋〕 欠〔序〕 自序〔刊年・等〕 未詳 序一丁 本文二十三丁(最後の丁付二十四丁)

〔内容〕 小袖型に小倉百首の歌意に添う図を画く 右上に人名 小袖左右下に歌をのせる 但し天智天皇より源重之まで(安倍仲磨 喜撰法師を欠く)

六 小倉百首類題話 板竹梅二冊 三・六×六・二

〔著者〕 暁鐘成(木村兼葭堂作画)(国総)

〔題箋〕 小倉百首類題話竹・梅〔刊年・等〕 未詳(全三巻・文政六序 同刊・嘉永三版)

〔刊年不明 國總〕 竹一十四丁才 梅十三丁

〔内容〕 短冊型に人名・歌を出し 次にこれを題にして読物風に書く 竹の巻(猿丸太夫 中納言家持 安倍仲磨 喜撰法師 小野小町) 梅の巻(蟬丸・参議筆・僧正遍昭・陽成院・河原左大臣・光孝天皇・中納言行平) 色刷図入

〔備考〕 「松」の巻欠

元 百人一首和哥詠 板 一冊 三×二・六

〔筆者〕 未詳〔題箋〕 百人一首和哥詠全

〔柱〕 百〔刊年・等〕 未詳 六丁(但し一・二丁欠)

〔内容〕 「かたびらナアニ 持統天皇ととく心は 春過てなつ着にけらし」の如くこれに見合う図をのせる 一面一首

三 奈良崎遠の越路 折板 一帖 九・九×二〇・六

〔著者〕 未詳〔題箋〕 奈良崎遠の越路〔刊年・等〕 未詳

〔内容〕 小倉百首 百人の作者名を見開き一丁上部に十人づつ順序不同にしてあげ 一面下左右色紙型(色刷花の図)に各一首の上の句 下の句を出す 計十首をのせる

〔備考〕 小倉百人一首類書目録(宮武)にある「奈良崎の越路 中二冊(木版淡彩色模様入) 憲斎著」は本書題箋名中にある「遠」の字を欠くが同一のものか

B かるた

三 百人一首 かるた 木版 一組

〔著者〕 未詳〔刊年〕 江戸中期か

〔内容〕 小倉百首 上の句（読札）肖像入
九十二枚（八枚欠）・下の句（取札）百枚
二帙 桐箱入

〔備考〕 肖像には後人の色さし及び手ずれ
があり よく使われたものと思われる

三 百人一首かるた 写 一組

〔筆者〕 未詳〔筆年〕未詳

〔内容〕 小倉百首 上の句（読札）彩色肖
像入 百枚・下の句（取札）百枚 二帙

（藍の地に金糸草花模様）漆塗桐箱入

三 百人一首 かるた 写 一組

〔筆者〕 萬里小路博房〔筆年〕未詳

〔内容〕 小倉百首 上の句百枚・下の句百
枚別に「這百人一首上下句書写早 正三位

源博 花押」の一枚を添える

〔備考〕 上の句のかるたは薄藍の紙に金泥
雲型をおき 下の句のかるたは白地に金泥で

雲型をおいて歌を書く 裏は共に金箔を押
す 二帙入（絹地に松竹梅を書き金銀粉を

散らす）漆塗二重箱入り 萬里小路博房

（明治十七年歿）は跡見季子の祖父

三 百人一首かるた 写 一組

〔筆者・筆年〕未詳

〔内容〕 小倉百首 上の句并肖像（彩色）
百枚 下の句百枚

〔備考〕 二帙（絹地に五色の雲型を置く）
漆塗桐箱入

三 百人一首 かるた 写 一組

〔筆者・筆年〕未詳

〔備考〕 二帙（絹地に五色の雲型を置く）
漆塗桐箱入

〔内容〕 小倉百首 字札絵札共に人名・上
の句・下の句を書く 字札の人名に仮名が
付けられていることにより読札と思われる
（百枚）絵札には歌意の図（彩色百枚）

三 寸珍百人一首 写 一組

百人一首（小倉）上下二冊 五七×四二 疊
紙入〔筆年・等〕未詳 かるた 取札百枚

三・四×二五 帙入

三 百人一首薄板台紅葉自筆 かるた 写

〔筆者〕 表・尾崎紅葉（一八六七—一九〇
三）裏・未詳〔筆年〕未詳

〔内容〕 ニミリの薄板に裏表ともに小倉百
首 下の句（取札）のみ百枚 内一枚「人

めも草も」の裏に白紙がはられてある

三 小倉百人一首 かるた 一組

読札（紙）百枚 取札百枚（取札のみ木
製）〔刊年・等〕昭和四十六年

〔備考〕 厚さ五ミリの板の取札 今も北海
道地方で使われている

C かるた形式のもの

三 百人一首 かるた用 板 一枚刷 八枚

三・二×二五・三

〔筆者・刊年等〕未詳 読札四枚 一面二
十五人 歌（上の句のみ）并肖像・取札四
枚 一面二十五首（下の句のみ）共に色刷

これに裏打をしてかるたに仕立てる

三 百人一首 かるた用 板 一枚刷 四枚

三・四×二五・四

〔筆者〕未詳〔刊年・等〕刊年未詳〔江戸〕
若狭屋與市 読札四枚 一面二十五人 歌
（上の句のみ）并肖像（色刷）裏打をして
かるたに仕立てる

三 百人一首 かるた用 板 一枚刷 八枚

四・五×二七・六

〔筆者・刊年〕未詳 読札四枚 一面二十
五人 歌并肖像・取札四枚 一面下の句二
十五首共に色刷 これに裏打をしてかるた
に仕立てる

三 小倉百人一首歌かるた 活 一枚刷

〔筆者〕 小野鷲堂〔画〕跡見玉枝〔刊年・
等〕明治四十年（一九〇七）一月一日 東
京 博文館 女学世界第七卷第壹号附録

三 小倉百人一首歌かるた 活 一枚刷

〔画〕 一條成美〔刊年・等〕明治四十一年
（一九〇八）一月一日 東京 博文館 女
学世界第八卷壹号附録

三 小倉百人一首歌かるた 活 一枚刷 二枚

〔書〕 岡田起作〔画〕中村不折〔刊年・等〕
明治四十二年（一九〇九）一月一日 東京
朝日新聞 第八千三十式号附録

三 百人一首歌かるた 活 一枚物

〔編者〕 粒染賢一郎〔刊年・等〕大正十三
年（一九二四）一月一日「講談と小説」正
月号大附録 東京 活動社

三 百人一首 二・四×二・九 活 一組

小倉百首絵葉書 二十枚 読札（二面上の
句 十首并肖像）取札（二面下の句 十首）

三 歌賀留多

袋 影写本 一冊 三・七×六・九

〔原筆者〕 持明院基時〔題箋・扉〕 歌賀留

多百人一首 完〔奥書〕 此歌嘉類多者依法

皇仰以從二位行俊卿散形奉令書写早 寛文

十一季正月上旬（一六七二）藤基時

〔内容〕 小倉百首 上の句 下の句に分け

て歌賀留多の型を書く 一面二首 墨付二

十六丁 右奥書ある原本を影写したもの

（影写年等未詳）

〔備考〕 渡辺千秋旧蔵本

〔著者〕 巖谷季雄〔刊年・等〕 明治卅七年

（一九〇四）一月四日 東京 文禄堂書店

十三丁

〔内容〕 小倉百首下の句をかるたに書く

一面四首

三 やなぎのつゆ 折活 一帖 三×七

〔筆者〕 広津柳浪〔題箋〕 やなぎのつゆ全

〔序〕（広津） 潔子しるす〔刊年・等〕 昭和

五年（一九三〇）頃か（序による）

〔内容〕 小倉百首を上句と下句に分け

てかるたに書く

〔備考〕 柳浪亡きあと夫人が親しき人々に

贈ったもの

四 小倉百人一首 活 一冊 三・二×五・五

〔筆者〕 樋口尾山〔題箋〕 小倉百人一首

〔扉〕 小倉百人一首〔刊年・等〕 昭和十三

年（一九三八）十二月第四版 奈良 松林

堂 五〇頁

〔内容〕 小倉百首 一頁に二首をかるた形

式にしてのせる（色刷） 未だ「昭和十二年

秋 尾山かく」とある 習字用手本

四 百人一首 折 影印本 四帖 二×二

〔筆者〕 藤森弘庵（一七九九—一八六二）

〔題箋〕 藤森天山先生筆 百人一首（其一

其四）

〔内容〕 小倉百人一首かるたを撮影したも

の 昭和十三年（一九三八）五月十五日

天山銅像除幕式に際し五組作成中の一つ

一帖はじめに紫峯の識語あり

D みじん絵

三 小倉百人一首 写 一枚 八・八×八・六

小倉百首并肖像をのせる一コマ六ミリ角

彩色 筆年未詳

四 小倉百人一首 板 一枚 九・二×二・五

小倉百首并肖像をのせる 一コマ一・一×〇・七

末に「文久二戊年（一八六一）閏八月 玄

二堂緑山刀」とある

五 小倉百人一首 板一枚 九・三×七・一

小倉百首并肖像をのせる 一コマ 一・五×

〇・九 江戸末期のものか

〔備考〕 裏に「大□板 大相模」の一覧あり

六 倭錦小倉式紙 写 一枚 上弦四〇・三 縦

二四・八

扇面に巻物の図をかく 題箋として「倭錦

小倉式紙全」内側はじめに「小倉□百人一

首集」次に小倉百首をのせる（人名は下に

出す）一首の長さ五・六糎 末に應需□小

〔備考〕 葉菜方 □□人謹書」とある

E 双 六

四 小倉歌雙六 板 一枚

〔戯画〕 湖鯉鮒〔刊年・等〕 寶曆九年卯（一

七五九）正月 東都書林 長谷川新兵衛版

五 新百人一首むべ山雙六 板 一枚

〔校〕 十返舎一九〔画〕 歌川豊国〔刊年・

等〕 刊年未詳 東都地本錦繪 問屋 大黒屋平吉

板

六 新板榮壽百人一首雙六 板 一枚

〔筆画〕 錦朝楼芳虎〔刊年・等〕 刊年未詳

芝神明町 有田屋清右衛門板

F 錦 絵

四 小倉擬百人一首

木版錦絵 一枚刷 三×三・六

〔備考〕 全百枚の中本館所蔵は次の四十八

枚 ○印の数字は小倉百首の順位

① 一勇斎国芳画 柳下亭種員筆記 彫工房□

御曹子牛若丸 上欄に天智天皇の歌

② 一勇斎国芳画 彫工房次郎 二 伊場仙板

最明寺時頼 白妙 上欄に持統天皇の

歌

③ 一勇斎国芳画 彫工房次郎 三 伊場仙板

加賀の千代 上欄に柿本人麿の歌

④ 一勇斎国芳画 柳下亭種員筆記 四 伊場

- 仙板〔婦人二人の絵〕 上欄に山辺赤人の歌
- ⑤一勇斎国芳画 彫竹 五 伊場仙板
曾我箱王丸 上欄に猿丸大夫の歌
- ⑦一勇斎国芳画 柳下亭種員筆記 彫竹 七
伊場仙板
- 名古屋山三郎 上欄に安陪仲麿の歌
- ⑧一勇斎国芳画 彫工房次郎 八 伊場仙板
入道頼政 上欄に喜撰法師の歌
- ⑩一勇斎国芳画 柳下亭種員筆記 彫竹 十
伊場仙板
濡髪長五郎 上欄に蟬丸の歌
- ⑪一勇斎国芳画 柳下亭種員筆記 十一 伊場仙板
源義経 志度の蟹 上欄に参議篁の歌
- ⑭一勇斎国芳画 彫竹 十四 伊場仙板
文ひろげの狂女 上欄に河原左大臣の歌
- ⑯一勇斎国芳画 柳下亭種員筆記 彫竹 十六 伊場仙板
松王丸妻 小太郎 上欄に中納言行平の歌
- ⑳一勇斎国芳画 柳下亭種員筆記 彫竹 二十 伊場仙板
晋の豫讓 上欄に元良親王の歌
- ㉑一勇斎国芳画 柳下亭種員筆記 彫竹 廿二 伊場仙板
安德天皇 典侍の局 上欄に文屋康秀の歌
- ㉒広重画 柳下亭種員筆記 彫竹 廿四 伊場仙板
- 高尾 上欄に菅家の歌
- ㉕一勇斎国芳画 柳下亭種員筆記 廿五 伊場仙板
怪童丸 卜部季武 上欄に三條右大臣の歌
- ㉘一勇斎国芳画 柳下亭種員筆記 彫工房次郎 廿八 伊場仙板
金輪五郎今国 上欄に源宗于朝臣の歌
- ③⑩広重画 柳下亭種員筆記 彫工房次郎 三十 伊場仙板
覺壽 かりや姫 上欄に壬生忠峯の歌
- ③⑪一勇斎国芳画 柳下亭種員筆記 彫竹 三十一 伊場仙板
佐藤忠信 上欄に坂上是則の歌
- ③⑫一勇斎国芳画 柳下亭種員筆記 彫工房次郎 三十五 伊場仙板
苜萱道心 石働丸 上欄に紀貫之の歌
- ③⑬広重画 柳下亭種員筆記 彫竹 三十九 伊場仙板
宗玄 上欄に参議等の歌
- ④①一勇斎国芳画 柳下亭種員筆記 彫竹 四十一 伊場仙板
長谷部信連 上欄に壬生忠見の歌
- ④②一勇斎国芳画 柳下亭種員筆記 彫竹 四十四 伊場仙板
遠藤武者盛遠 上欄に中納言朝忠の歌
- ④③一勇斎国芳画 柳下亭種員筆記 彫竹 四十七 伊場仙板
平相国清盛 上欄に恵慶法師の歌
- ④④香蝶棲豊国画 柳下亭種員筆記 彫工房次郎 五十二 伊場仙板 太平次・およね
上欄に藤原道信朝臣の歌并肖像
- ④⑤一勇斎国芳画 柳下亭種員筆記 彫工房次郎 五十三 伊場仙板
藤屋伊左エ門 上欄に右大将道綱母の歌并肖像
- ④⑥應需豊国画 柳下亭種員筆記 彫竹次郎 五十八 伊場仙板
横山太郎・妻浅香 上欄に大貳三位の歌并肖像
- ④⑦一勇斎国芳画 柳下亭種員筆記 彫竹 六十四 伊場仙板
こし元千鳥 上欄に権中納言定頼の歌并肖像
- ④⑧一勇斎国芳画 柳下亭種員筆記 六十五 伊場仙板
京極内匠・おきく 上欄に相模の歌并肖像
- ④⑨広重画 柳下亭種員筆記 彫竹 六十六 伊場仙板
伊我之助 上欄に前大僧正行尊の歌并肖像
- ④⑩応需豊国画 柳下亭種員筆記 彫竹 〔六十七〕
白井権八 上欄に周防内侍の歌并肖像
- ④⑪一勇斎国芳画 柳下亭種員筆記 彫工房次郎 〔六十八〕
法界坊 上欄に三條院の歌并肖像
- ④⑫広重画 柳下亭種員筆記 彫竹 六十九 伊場仙板
宿祢太郎・立田の前 上欄に能因法師の歌

并肖像

⑦⑩ 應需豊国画 柳下亭種員筆記 七十 伊場仙板

石留武助・妹於花 上欄に良暹法師の歌并肖像

⑦① 一勇齋国芳画 柳下亭種員筆記 七十一 伊場仙板

阿古義平治・平河原次郎蔵 上欄に大納言経信の歌并肖像

⑦② 一勇齋国芳画 柳下亭種員筆記 七十三 伊場仙板

玉織姫・無官太夫敦盛 上欄に前中納言匡房の歌并肖像

⑦④ 豊国画 柳下亭種員筆記 七十四 伊場仙板

鳴神上人・雲のたへま 上欄に源俊頼朝臣の歌并肖像

⑦⑥ 一勇齋国芳画 柳下亭種員筆記 彫竹 七十六 伊場仙板

袴垂保輔 上欄に法性寺入道前関白大政大臣の歌并肖像

⑦⑨ 一勇齋国芳画 柳下亭種員筆記 七十九 伊場仙板

梅の由兵衛・長吉・源兵衛堀源兵衛 上欄に左京大夫顕輔の歌并肖像

⑧② 一勇齋国芳画 柳下亭種員筆記 八十二 伊場仙板

大星由良之助 大星力弥 上欄に道因法師の歌并肖像

⑧③ 應需一陽齋豊国画 柳下亭種員筆記 彫工 竹 八十三 伊場仙板

大藤内・赤沢十内 上欄に皇太后宮太夫俊成の歌并肖像

⑧⑤ 一勇齋国芳画 柳下亭種員筆記 彫工竹 〔八十五〕

俣野五郎・おし鳥灵 上欄に俊恵法師の歌并肖像

⑧⑥ 應需豊国画 柳下亭種員筆記 〔八十六〕

静御前 弁慶 上欄に西行法師の歌并肖像

⑧⑧ 一勇齋国芳画 〔柳下亭種員筆記〕 〔八十八〕 伊場仙板

足軽市右エ門・上欄に皇嘉門院別当の歌并肖像

⑨② 應需豊国画 柳下亭種員筆記 彫工房次郎 九十二 伊場仙板

矢間重太郎 妻おりゑ 上欄に二條院讃岐の歌并肖像

⑨④ 一勇齋国芳画 柳下亭種員筆記 彫工竹次郎 九十四 伊場仙板

⑨⑤ 應需豊国画 柳下亭種員筆記 〔九十五〕

大伴黒主・小町桜灵 上欄に前大僧正慈円の歌并肖像

⑨⑦ 一勇齋国芳画 柳下亭種員筆記 彫工竹次郎 九十七 伊場仙板

日向勾当・娘入丸 上欄に権中納言定家の歌并肖像

歌并肖像

⑨⑧ 應需一陽齋豊国画 柳下亭種員筆記 九十 八 伊場仙板

一寸徳兵衛 団七九郎兵衛 上欄に正三位家隆の歌并肖像

⑩ 百人一首絵抄七 木版 一枚 三七・四×三五・五

〔筆者〕豊国(二代目) 普勝伊兵衛印 佐野や喜兵衛板〔安倍仲磨の歌〕

⑩ 百人一首絵抄十 木版 一枚 〔筆者〕一陽齋豊国 普勝伊兵衛印 (改印)

佐野や喜兵衛板〔蟬丸の歌〕

⑩ 百人一首絵抄十一 木版 一枚 〔筆者〕豊国(二代目) 普勝伊兵衛印 (改印) 佐野や喜兵衛板〔参議筆の歌〕

⑩ 百人一首絵抄十九 木版 一枚 〔筆者〕豊国(二代目) 田中平次郎印

野や喜兵衛板〔伊勢の歌〕

⑩ 百人一首絵抄廿三 木版 一枚 〔筆者〕豊国(二代目) 田中平次郎印 佐野や喜兵衛板〔大江千里の歌〕

⑩ 百人一首絵抄廿七 木版 一枚 〔筆者〕豊国(二代目) 村田平右衛門印

佐野や喜兵衛板〔中納言兼輔の歌〕

⑩ 百人一首之内 清原元輔 木版 一枚 三七×三・四

〔筆者〕一勇齋国芳(元輔の歌并意) 百人一首うはかゑとき 木版 一枚 三×元

〔筆者〕葛飾北斎〔藤原繁行朝臣の歌〕
百人一首乳かゑるとき 木版 一枚
二六・三×元・九

〔筆者〕葛飾北斎〔中納言敦忠の歌〕
百人一首うはかゑるとき 木版 一枚
二五・四×元・三

〔筆者〕葛飾北斎〔赤染衛門の歌〕
歌かるた春夜遊 木版 三枚続き
（一枚 二四・七×三・八）

〔画〕一鶯斎国周 横山三菊市板
千代田の大奥かるた 木版 三枚続
き（一枚 二五・五×三・八）

〔筆者〕揚洲周延〔刊年・等〕明治廿八年
（一八九五）十月八日 日本橋 福田初次郎

G 目録・参考文献

三 小倉百人一首類書目録

〔編者〕宮武外骨〔刊年・等〕大正十三年
（一九二四）九月一日 東京 半狂堂 七
十四頁―九十二頁〔読律書屋（穂積重遠先
生）所蔵大正十二年十二月三十一日調〕

〔川柳と百人一首〕所収
百人一首類聚目録 第壹輯 小倉百人一首
之部 二・七×六・八

〔編者〕岸本稻巖〔刊年・等〕昭和三年（一
九二八）四月三日印刷（非売品）大阪市
岸本稻巖（十八頁―三十六頁）
〔備考〕異種百人一首之部・録独詠類歌百
首と合冊

百人一首古注釈の研究 洋 一冊 三・五×
一五・二

〔著者〕田中宗作〔刊年・等〕昭和四十
一年（一九六六）九月二十日 三九八頁
東洋大学 百人一首類書目録解説稿 洋 一
冊 圖書館蔵

〔編者〕吉田幸一 神作光一 東洋大学文
学部紀要別冊〔昭和四十四年（一九六九）
十二月〕

異種百人一首追加

一 草庵五百人一首卷一 板 一冊 二五・八×元
・三

〔著者〕黒川春村（三世浅草庵）〔画〕柳
川重信（國總）〔成立〕天保四序〔題箋〕
欠〔柱〕草庵五百人一首〔序〕天保癸巳
（四年・一八三三）冬十一月 錦園 天野
好之識・千種庵のふた世のあるし □綱諸
持〔刊年・等〕未詳 序六丁 目録五丁
本文四十二丁

〔頭尾歌〕大垣市人「野も山もあつめてき
つる梅かゝをいかていれけんまとの春風」
有坂光隆「君をわかこふるこゝろはあまれ
ともことの葉たられて逢よしのなき」

〔備考〕百人一首にならぬ浅草庵門人五百
人一首を作る その巻の一 八十四人各一
首并肖像をおさめる 目録に作者の住所・
号・歿年等を付ける 三巻三冊本中の第一冊
二 新撰百人一首卷之一 板 一冊 三・七×二五・七

〔撰者〕至清堂捨魚等〔題箋〕山桜百人一
首〔序〕嘉永の五とせきつき百草とる日至
清堂主人識〔刊年・等〕未詳 巻首九丁
本文二十二丁

〔頭尾歌〕撰者 至清堂捨魚 立春「春立
てかすむ初日そ柳より花より先のみとりく
れなる 浅裏庵」撰者 六朶園二葉 当座
富士眺望「山人の世界もそれと見るはかり
夕日にあかき雪のふしかね 六朶園」

〔備考〕書名は内題による 門下の作を撰ん
だもの 至清堂捨魚撰二五七首 楨廼屋音
高撰三三七首 六朶園二葉撰四首 一人二
首以上詠む者あり 巻首に浅好庵守次より
清藻園魚文まで十人の歌各一首并肖像（頭
書には晃山の屋より巢松園まで二十人の歌
各一首をのせる）・短冊型に晃山の屋より
仙台大椿堂に至る三十人の歌各一首を出す
三 仙台百人一首 仙台双書

〔編者〕伊東祐休〔成立〕文久元年（一八
六一）〔刊年・等〕昭和四十六年（一九七
一）十二月二十日 仙台市 宝文堂出版販売
株式会社〔初版 大正十三年（一九二四）
五月三十日 仙台市 仙台双書刊行会〕仙
台双書 複製版 第六卷（二百十九頁―二
百二十九頁）所収

〔頭尾歌〕百人一首各古歌の一句をとりて
天智天皇 左中将慶邦朝臣「甲斐ありし秋
の田面は人のみか月もゆたかに照や渡ら
ん」順徳院 允信遠藤文七郎「君が代に猶

余りある恵かな浦やす国と民も仰がん」

〔備考〕末に「文久元年十月御題被下御取

集也 奉行 伊藤祐休」とある「仙台藩第

十三世主 左近衛権中将兼陸奥守・藤原邦

朝朝臣が 近臣及び他の有志者に命じ 藤

原定家の小倉百人一首に比準し 各其一句

を詠草中に詠み込ましめ 伊東祐休が之を

奉行して 綴て一卷となし 仙台百人一首

と名け 朝臣の左右に呈進したるものな

り」(仙台双書解題)

四 童戯百人一首 (明治文化全集)

異種一五三に同じ 明治文化全集第二十四

巻〔日本評論社 昭和四十二年(一九六七)

発行〕所収

五 明治百人一首 板 一冊 二×七・八

〔編者〕岡田露船編輯〔題箋〕欠〔見返し〕

岡田露船編輯 新明治百人一首 甘泉堂

〔柱〕明治百人一首 甘泉堂〔刊年・等〕

明治十一年(一八七八)十一月廿九日 東

京 松本六右衛門 四十八丁(二丁欠)

〔頭尾歌〕御製「新しき年のほきこといふ

人におくれぬけさの鶯の声」菅八蔵「愚と

もおもふゆふへは白波のよする浦辺に生ふ

るかひなし」

〔備考〕百人各一首并肖像(但し四人欠)

六 狂句百家僊 板 一冊 一六・七×三・二

〔編者〕任風舎川柳〔画〕小林櫻湖〔題箋〕

欠〔見返し〕柳風 狂句百家僊 全 任風舎

轉櫻湖林 庚寅孟冬新鐫 任風舎蔵版 非売

品〔柱〕狂句百家仙〔序〕庚寅初冬 自序

〔刊年・等〕明治廿三年(一八九〇) 編集

兼出版人 東京 児玉環 画工 同 小林

櫻湖 彫刻印刷 同 楠誠堂片山 巻首三

丁 本文六十四丁

〔頭尾句〕風也坊柳翁「我写真経り行くわ

れの友ならず」任風舎川柳「鳴り響く瓢は

捨て松か風」

〔備考〕巻首二丁に 元祖 柄井川柳他の

句をのせる 凡例に「本編は元一百名を定

度とせしめ多くの中より抜き集るにはあら

で人々の乞ふが儘に加へつればいつしか定

員を越る事とはなりぬ」とある 百二十八

人各一句并肖像 頭書に略伝をのせる

七 明治百人一首 板 一冊 二五・二×六・一

〔著者〕石丸忠胤〔画〕寺崎広業〔刻師〕

熊井嘉光〔題箋〕明治百人一首〔見返し〕

大教正石丸忠胤先生編 明治百人一首全一

冊 明治廿五年 玄同舎蔵梓〔柱〕明治百人

一首〔題字〕参謀総長兼議定官陸軍大将一

品大勲位熾仁親王御染筆・従一位源朝臣建

通書〔序〕自序〔刊年・等〕明治廿五年

(一八九二) 十月廿日 東京市 玄同舎

巻首六丁 本文五十丁 付六丁

〔頭尾歌〕新年梅 茂政「あら玉の年のし

るしと見るへきは紐ときそむる梅の初花」

憲法発布式 実美「ちよかけてけふのめく

みをあふきつゝみのりをまもれよものくに

たみ」

〔備考〕明治初年の朝野の名家 百人各一

首并肖像 後に「明治百人一首作者姓名

録」を付ける

八 時鳥百首 活 一冊 一九×三・二

〔著者〕信月庵禱富〔筆者〕雲橋溪成雄〔画

工〕松影居甫山〔序〕七十八隻五百千稲

〔刊年・等〕刊年末詳 青木茂平太 一一

二頁

〔頭尾句〕祖翁「蜀魂啼音やふるき硯箱」

信月庵禱富「ときしくの木の実めでてや橘

鳥」

〔備考〕百七人 各一句

九 月百吟集 活 一冊 一九・三×三・二

〔編者〕信月庵禱富〔画者〕松影居甫山

〔序〕明治六々の年(一九〇三) 仲秋 花

本十一世 聴秋誌

〔頭尾句〕祖翁「名月や門へさし来る汐が

しら」三世信月庵 知う保「徒にみる山と

はなし気婦の月」

一〇 雪百吟集 活 一冊 一六・七×三・六

〔編者〕信月庵禱富〔画者〕松影居甫山

〔序〕明治癸卯の冬日 こしの□芭しるす

〔刊年・等〕明治参拾八年(一九〇五) 二

月拾日 長野市 青木茂平太 序二 本文

百頁

〔頭尾句〕祖翁「はつ雪や水仙の葉の櫛む

程」三世信月庵禱富「よくみれば壱羽伝も

なし雪廻鷺」

〔備考〕序に「曩に花郭と月の各百吟集を

つゝり道のため普く世の賞賛を得られしに
又雪百吟集をあはせて四季のほまれを……」
とある 百人各一句

二 蕉禅道句百人一集 板 一冊 二・七×二・六・七

〔編者〕 柳下湖磨〔題箋〕 蕉道句百人一集
〔序〕 大正二年（一九一三）秋自序〔刊年
・等〕 大正二年十一月廿五日 東京 蕉禅
吟社 二十七丁

〔頭尾句〕 水音菩薩「古池や蛙とひこむ水
の音」「陰膳や蠅を追ふ子のいちらしく東
京 湖仏」

〔備考〕 百人各一句 序に「我れ曩に蕉禅
道句大鑑をものして生仏不二の妙界に達せ
ん事を希ひつるが 今またこゝに本集を編
みて直ぐなる道をたどるの便りとせんと
す」とある

三 落語百人一首 洋 一冊 一・八×三・六

〔演〕 柳家小せん〔編〕 岸本稻巖〔扉〕 落
語百人一首 千九百九年オックスフォード
大学出版 英訳小倉百人一首の写真版（別
稿参照本学所蔵）〔序〕 昭和四年（一九二
九）一月一日岸本稻巖〔刊年・等〕 未詳
序二頁 本文十頁 他一頁
〔内容〕 柳家小せんの落語を口演筆記した
もの 後に「百人一首類書蒐集書目（自昭
年四月至）一葉挿入アリ類聚目録に移貼ス」
（昭和十二年）との書入れがある また天保十年（一八三
九）京都玄々堂発行銅版刷小倉百人一首
（原寸）を付ける

小倉百人一首

三 愛国百人一首 活 一冊 三・三×三

〔著者〕 神郡晩秋〔扉〕 愛国百人一首〔書・
画〕 阿部信行 吉川英治〔刊年・等〕 昭和
十八年（一九四三）九月十日 東京 大日
本出版社峯文社 巻首三頁 本文百頁 釈
文及略解四頁

〔備考〕 歌 異種八二に同じ 習字用手本
四 百人首歌詞読込秋五題俳句 写 一冊 三
・二×一・五

〔著者〕 桐葉軒宗匠

〔内容〕 初汐 芭蕉 轡虫 盆の月 新米
の五題に各二十三句を読む 各句の中に小
倉百首の五句を読み込む 作者十一人か
〔頭尾句〕 「初汐や田子の浦浪磯馴松」「夜
をこめて手入の甲斐や今年米」

二 百流花道かるた 活 一組

〔編者〕 平元良作〔刊年・等〕 大正五年
（一九一六）大日本華道会 読札・取札各
百枚 八・七×五・七 桐箱入（大日本華道会
編纂発行百流花道かるた」とある）

〔内容〕 真成流萬力谷成齋「神路山杉の木
の間の初もみち（読札）五十鈴の川にうつ
りぬるかな（取札）」読札には色刷の図
取札は下絵を金で書き 各札左上に流派生
花図の写真を付ける

二 百人一詩 板 一冊 二・四×九・六

〔書〕 野水軒黙鷗浸〔題箋〕 欠〔内題〕 百
人一詩〔柱〕 百人一詩〔刊年・等〕 峯慶安
庚寅（一六四八）菊月吉日 今井兵衛門開

板之 二十丁

〔頭尾詩〕 應制三山 □海^{絶方}「熊野峰前徐福
祠満山菜中雨餘肥狐今海上波濤穩萬里好風
瀕早帰」 琴音 慕哲「鳴々軋々憂無斉汀月
色高風雨低憶在江湖歌客枕寒湖是過浦雲
西」

〔備考〕 百人各一詩 但し十二詩及び五十
四詩には作者名がない

七 日本百人一詩 洋 一冊 一・六×三

〔評釈者〕 土屋久泰〔刊年・等〕 昭和十八
年（一九四三）七月十五日 東京 砂子屋
書房 四〇五頁

〔頭尾詩〕 菅原道真 九月十日「去年今夜
侍清凉秋思詩篇獨断腸恩賜御衣今在此捧持
毎日拝餘香」 石樵 乃木希典 金州城下作
「山川草木轉荒涼十里風腥新戰場征馬不前
人不語金州城外立斜陽」

〔備考〕 平安朝より明治末葉までの百人の
七言絶句各一詩

その他

一 うんすんかるた 洋 一冊 二・三×三・七

〔著者〕 山口吉郎兵衛〔刊年・等〕 昭和三
十六年（一九六一）十月十五日 大阪市
リーチ 二五六頁

二 昔いろはかるた 洋 一冊 三・三×三・三

〔著者〕 森田誠吾〔刊年・等〕 昭和四十五
年（一九七〇）十一月三十日 東京 求龍

堂 二一九頁 付・年表一枚

三「四書かるた」板 一組

語牌 三百枚 四書の中から語録を抜萃してカルタ形式にしたもの・語牌牒符合本序に「安政四年丁巳（一八五七）春 長田信弘誌 東都 文集堂跋」後に「車取」「ちらし取」「むへ山取」を付ける
〔備考〕 桐箱入 上書「四書語牌寶袋籠」とある

四料理かるた 活 一組

〔著者〕 久保田長吉〔刊年・等〕 明治三十九年（一九〇六）十月五日 読札・取札各三十六枚（取札 色刷図）
〔内容〕 搔き玉子「味つけし汁をば煮たて葛を引き玉子を攪て流しこむべし」（読札）「玉子を攪て流しこむべし」（取札）

五作法かるた 活 一組

〔著者〕 吉田スマ〔刊年・等〕 昭和三年（一九二八）三月十五日 山口県 吉田スマ 読札・取札各百枚 二帙 朱塗箱入
〔内容〕 「長尻のくせある人は先方の（読札）様子見てとり切上げよかし（取札）」等百首を一冊にした「作法百首」を付ける

六料理かるた 活 一組

〔著者〕 吉田スマ〔刊年・等〕 昭和三年（一九二八）三月十五日 山口県 吉田スマ 読札・取札各百枚 二帙 漆塗箱入
〔内容〕 「かき玉子玉子料理の王ぞかし（読札）こなれよくして味も上品（取札）」百

首を一冊にした「料理百首」を付ける。

七全国民謡かるた 活 一組

〔作謡〕 野口雨情〔作画〕 川端龍子〔作曲〕 藤井清水〔刊年・等〕 昭和四年（一九二九）十一月十五日 東京 普久社 読札・取札各百枚 二箱
〔内容〕 一青森県「津軽平野の畑の中に」（読札）「菜の葉枕に寝る雲雀」（取札）
〔備考〕 別に「全国民謡かるた読方並に略註」を付ける

追加

一 百人一首抄 写 一冊 一六・七〇・六・九

〔編者〕 切臨〔筆者〕 笠朝臣好澄〔題箋〕 欠〔内題〕 百人一首抄〔奥書〕 「右百人一首之註者集載當流相傳之注自先師一華堂傳受之説書加待其外代々口決或切紙之義等記付侍支雖背先達之法以和歌悟儒佛之道又爲令請繼吾國之神道器量之人誌之者之恐猥欲不令書写而已 慶安二己丑年（一六四九）七月下旬 今年享保八年迄七十五年ニナル 洛陽黃臺山沙門切臨叟」・享保八癸卯（一七二三）二月上旬寫之 庸山子・此抄ハ庸山子秘メ所持ス者之予懇望シテ書写シ早仍テ他見可恐々々享保十八癸丑年（一七三三）五月上旬 但自三月下旬而五月終筆 笠朝臣好澄
〔内容〕 一華堂乘阿の弟子切臨の編になる百人一首諸抄を集載したもの 墨付七十七

丁

二麗玉百人一首吾妻錦 板 一冊 三三・八〇・六

〔編者〕 未詳〔題箋〕 文化 麗玉百人一首吾妻錦 全 婦人日用重寶記 新版 麗玉百人一首吾妻錦 全 □ 麦心得袖文庫 〔口絵〕 琴・碁・書・畫等（色刷）〔刊年・等〕 刊年未詳 書肆 尾州名古屋 永樂屋東四郎 江戸 同出店 口絵三丁 九十九丁（最後の丁付奥ノ三）
〔内容〕 小倉百首并肖像（一面一人を出す）頭書・百人一首讀曲并五ヶの他 女今川等合冊

三 かるた教室テキスト（附・百人一首今様解） 洋 一冊 四四・四七・四

〔編著者〕 上園政雄〔刊年・等〕 昭和四十三年（一九六八）十一月一日 五六頁

四 美國振小倉都々逸 板 一冊 一七・五〇・二・四

〔筆者〕 應好曜齋〔柱〕 米國ぶり〔序〕 明治三庚（一八七〇）七月 逸々の屋〔刊年・等〕 未詳 二十一丁
〔頭尾歌〕 天智天皇「小田のかり穂にふくとまよりもあらいおまへの捨言葉」順徳院「もゝしきやふるき布子をかきねぎしても冬の夜かぜは身にあまる」
〔備考〕 小倉百首をもじると、一卷頭に「百人一章道化小倉都々一」とある 絵入本